

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA-Yonemi (ĉumonta) N-ro 21

LERNEME

Ĉu vi estas kuracisto?

Jes, mi estas kuracisto.

Ĉu li estas instruisto?

Ne, li ne estas instruisto.

Kio li estas?

Li estas emerito.



SERĈU VORTOJN

§ Sugestoj §

Horizontale:

1. Unu el semajnaj tagoj, antaŭ dimanĉo. Ripoztago de hebreoj.
2. Movu vian korpon por celo.
3. Aĵo farita el tolo.
4. Tio, kion oni flaras per nazo. (en pluralo)
5. Prefikso, kiu signifas komenciĝantan agon aŭ momentan nedaŭran agon.
6. Prepozicio montranta direkton, celon aŭ fizikan proksimiĝon en ia direkto.

Vertikale:

1. Bela alparolo ĉe renkontiĝo, alveno kaj foriro; Bonan tagon, (matenon, vesperon), ĝis revido k.t.p.
7. (Radikvorto) Lirika poemo, dividita en strofoj, kun entute 50 ~ 200 linioj.
8. Interparolo multa, senafekta, intima, familiara.
9. Sufikso, kiu esprimas kolekton da samspecaj estuloj aŭ objektoj kunestantaj.
10. Aĵo el tero. Amaso da elfosita aŭ transportita tero.
11. Organo de vidkapablo. Per tio, oni vidas.

Ne lasu vian vortaron
DORMANTA!

今回は、一歩進んで、ちょっとむづかしくしました。マス目に入れるのは、Esp.単語。カナではありません。Sugestojを読み、イス知でしらべ、わかったら、こんどは和イスでたしかめます。

Kaŝita vorto=ABCĈDE
=Korpoparto ĉe kapo.
Aŭd-organo.

1		8		10	11 A
				5 C	
2 Ĉ					B
				6	
3	7 D		9		
4					E

前号正答 A-B-C-Ĉ-D = ソトオミタ

正解者 略敬稱

北風智恵子, 黒岡輝也, 酒井利子, 佐納浩子,
芝本幸代, 巽 忠美, 田中祐子, 谷上 屹,
辻千早, 登崎みのり, 藪水美香.

今月応募要領

ハガキにkaŝita vortoをABCĈDEの順に書いて、640, 和歌山市小松原6丁目1-6, 前田米美宛に送る。

しめきり 3月31日

賞品: Solvinto ricevos premion, kvankam aĵo ankoraŭ ne estas difinita.

ほんとの話 VERE li rakontis tion al li

Porko kaj Matematiko

Digna sinjoro, s-ro FAJSZI Karoly, hungaro, alparolis en la Poŝta Muzeo en Budapeŝto dum la 68a Universala Kongreso, al s-ro Okumura-Rinzo, japano, instruisto de matematiko el Osaka :

" Ĉu vi konas kial porkoj malŝatas matematikon ?"

" ??.. Ne-e-e... Kial ?"

" Antaŭ 2500 jaroj, kiam matematikisto Pitagoro

eltrovis la faman teorion ' Tri Kvadratoj ',

li pro ĝojo oferis al Dio 1000 porkojn por

danki Lian favoron. Unu el

la 1000 porkoj, pro timo,

mortigota, forkuris kaj

kaŝis sin ie. Liaj idoj

kaj praidoj kaj prapraidoj

multiĝis jaron post jaro, sed neniu el ili

forgesis la timon fare de Pitagoro, kaj ankoraŭ

nun ili malŝatas matematikon. Jen estas kial

porkoj malŝatas matematikon, vi sciu."



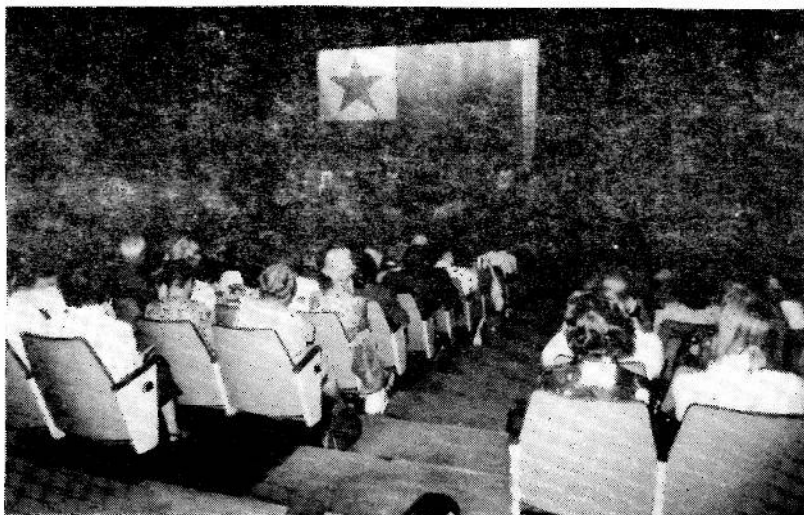
Kaj tra Kopenhag-Kongreso en 1975

HASEGAŬA-JOŠIFUMI



1-aŭgusto, 1975

Hodiaŭ mi devas telefoni al Japanio. Mi atingis la poŝt-oficejon de la centra stacio je 9:00. Tiam en Japanio estas 5:00 vespere. Mi parolis tri minutojn kun la oficisto de Japana Vojaĝa Agentejo. Mi pagis 79 danajn kronojn. Unu granda parto de mia laboro finiĝis. La agentejo sendos telekson al ĉe-Kopenhaga Japana Ambasadorejo, atestante ke mi certe aĉetis Eurail Pas en la agentejo. Mi arbitre sciigis senpermeso la adreson de la ambasadorejo al Japanio...poste



■ 通信講座案内 ■
 ハガキで申し込み宛
 先は、〒640和歌山
 彦川 2506 の 2、
 江川 治邦 宛。
 往復の通信と收受
 講者負担(60円×2)、
 スクリーニング1回1,000円
 (3回)。全16課。
 約4ヶ月で終了。
 電話申し込み、問合せ。
 22-8660 前田

ili riproĉis min pro tio.
Mi esperis kaj avidis ke
la agentejo sendu telekson

hodiaŭ, sed bedaŭrinde, ne!
Mi atendos ĝis morgaŭ.

Post la telefonado, mi reiris al la Y.H. Mi duŝis min kaj lavis vestaĵojn. Mi sendis miajn nebezonatajn librojn al mia hejmo. Vespere mi iris al la kongresejo por amuzi esperantan teatron. Ĝi estis bela, sed mi ne multe komprenis Esperanton bedaŭrinde. Ĝi okazis je 8:00 ~ 10:00.

Vespere estis tre malvarme. Mi vestiĝis nur per ĉemizo, do, plie sentis malvarme. Ĉiuj aliaj vestiĝis per ĵerzo kaj jako.

[前号 誤植, P. 5, 19行 liĝas → loĝas]

エスペラント 漫筆 (12)

・・・田中 正美

1938年(昭和13年)11月末頃、私は全く予期しなかった一通のハガキを受取った。差出人は和歌山の岩崎氏。文面には、12月X日にザメンホフ祭を和歌山市商工会議所で開くから、是非出席するようにとある。私は小躍りしたくなる程のうれしさでその通知状を読んだ。地方の小さな町に住んで、そうした機会のない izolita [esperantisto にとっては実際有難い連絡であった。

12月の何日だったか、とにかく指定された日、仕事を終わると私はただちに田辺駅へ走り、目的地の和歌山市へ汽車で行った。会合の場所であった商工会議所に着き、受付に行くところこに2~3人の若い人が立っていた。中の1人は黒い僧衣をまとった Bonzo であった。

彼は、矢継早やに私に話かけてきた。

Bonvenon!

Kian nomon?

De kie vi venis?

彼の質問は早口で聞きとり難く、瞬時面喰らっていた私は、ようやく自分の名前を告げると、彼は会場の中にいる人へ向かって大声で叫んだ。

Zamenhof el Tanabe

Nun alvenis!

会場内にいた10名余りの人たちは一斉に私の方を振り向き、歓迎の目を向けてくれた。

会合の間、隣にいた青年が私にささやいていうには、『あの僧衣を着た Bonzo は服部とってわれわれの間では彼のことを Strangulo と呼んでいる。実際変わっていて、その行動から言うこと、すべてが凡人ばなれしている』云々と。さて、この日の出席者はほとんど和歌山市内の人であった。今、この時の出席者の名前を書けないの



は残念で仕方がない。この催しを企画してくれた岩崎さんは当時県商工課の官吏で、熱心なエスペランチストであった。あの困難な世相の中で、恐らく県下で初めてであろうザメンホフ祭を開いたその勇気と努力は、永く記録すべきであろう。

エスペランチストには服部さんに似た一風変わった人が多い。新宮の榎本さんもその中にはいるし、長谷毛原の石井さんもその一人ではないかと思う。この人は、昨年9月才で物故されたが、機会あるごとにエスペラントの話を持ち出すので、美里町界隈では知らぬ人はなかった。エスペラントをウタに歌いこんで説明するのであるが、これは大本の出口王仁三郎の著書から引用したのであろう。かくいう私も、家族の者から変人扱いされている気配(フシ)がある。とにかく、この年になってもエスペラントの本を手ばなしたことがない。また戦後数年間、自家用車のボディに『エスペラントを学ぼう』と書いて走り回り、家の者のひんしゆくを買ったこともあった。

話は横道にそれたが、あのザメンホフ祭に、和歌山新聞社に勤めていた青年エスペランチストが

出席していて、この人のすすめで帰りは船を利用することになり、私は彼から新聞社の証明書をもらい、午前1時和歌浦港発新宮行き船に乗り、深夜の船旅を味わった記憶が残っている。

翌年5月、私は思い切って新しい道を選ぶことになった。今までのサラリーマン生活を止め、一商人として海南市で古本屋を開くことにした。同僚からは無謀だといわれたが、私の決意は変らなかつた。開店して間もないある日、二人連れの訪問客があった。私は半ば忘れていたが、この二人

は、昨年のザメンホフ祭に参加していた山根、百木の両氏であった。この人たちとは同志としての交流を持ち続けた。次に来た客は、楠見、上田という特高の刑事であった。私の身边は既に田辺時代からマークされていたが、開店草々、海南署の刑事が来ようとは予想だにしていなかったので、驚きだった。この有難くもない客は、その後もしばしば店に現われ、私が召集で戦争に狩り立てられるまで続いた。(未完)

=====
私のがみともだち

世界にひろげよう Amikeca---Rond'!

---メントーオの横顔つづき--- (オランダ)

1980年の初夏、彼は肋膜炎を患い、更にその冬から背柱に痛みを感じ出し、人並の歩行がむづかしくなり、左腰も痛み出したという。

--- la maljuneco alportas ĉiajn malagrabiaĵojn ---と彼は嘆きながらも、スイス旅行を敢行し、ドイツにも出かけた。奥さんもまた以前からの高血圧症に加え、最近医師の誤診から左眼失明し、--- operacio ne plu helpas ---と知らされた彼は、大いに憤慨した。

いろいろなことが通りすぎた今、彼は清い空気を吸いながら、家庭菜園で自家用の野菜類、じゃがいも(彼等の主食)、香辛料等の栽培に余念がない。夏頃の手紙には:

--- Tosiko, vere tiuj produktoj estas bongustaj, multe pli ol la produktoj el la butikoj, kiuj estas preparitaj kun kemiaĵoj. Cetere kostas multe da tempo. ---

--- Tosiko, estas miraklo, kiam oni vidas ke unu malgranda "fazeolplanteto" (fazeoleto=いんげん豆) produktas pli ol cent verdajn fazeolojn. ---と、そのよろこびの声を伝えている。

酒井利子

~~~~~  
オートマチック・パチンコは Elektronu Zen

~~~~~  
1983年5月10日

--- (前文の近頃の異常気象の事は省略) ---

オランダで出版された、日本文化の紹介書『柔軟な心 (Flekseblaj Emocioj)』について。本の中の日本語を少し書きぬいてみましょう。あなたには何のことがよくおわかりだと思います。あとへ著者の意見をくっつけて、くらべてみました。例えば『電子禅 (Elektrona Zen)』ということばは、彼によると「オートマチック・パチンコ」のことだそうである。この機械で遊んでいる人のことを「パチ・プロ」と彼

はっています。ところで「Kugishi」とは、一体何のことでしょう。彼の説明によると、オートマチック・パチンコの釘を金槌でたたく男のことだそうです。次の手紙では、もう少し書きます。

--- (後文要約: 奥さん左眼失明のこと、孫の子守りについて考え方の違い、など)

1983年6月6日

はいけい

私の誕生日にすばらしい贈物。何といううれしい驚き。あなたはほんとにやさしい人です。小箱のまわりに紙を折りたたんで、その「驚き」を包みこんでくださったお手柄



は、実にデリケート。郵便物にあなたがなさるすべてのしぐさには、日本の心がただよっています。そしてあなたの愛を感じます。尊敬と愛をもってお礼申しあげます。

お孫さんのヤスコさん、あのお祭りのパレードで（訳註：商工祭パレード、鼓笛隊での出演を）ずっと前から楽しみにしていたのに、その時になって無情（原文：kiel ĝojestingulo）の雨とは、全くお気の毒でした。

（訳註：和歌祭のお話、前便で説明）

徳川時代はあなたの国にとって、大へんな（原文：granda kaj grava）ことでした。

ある本で読みましたが：徳川家は江戸（東京）で、1615年から1868年まで国を統治していました。他の本によると、きれいな絵があって、例えば四国の田植えのことを、ウラベ・ケンコウはこう書いています。「5月、屋根瓦が、あやめで飾られる時、早苗が植えられる時、小さい水鳥の深い叫び声がかたまる。心は悲しみでちぢまる。」この小さい鳥のエスプラント名は知りませんが、くいな（akvo-ralo）でしょうか。それから阿蘇山（九州）の水田について「人も動物も見えない——そのありさまは、ちょうど水をいっぱい含んだスポンジのよう」と萩原朔太郎が書いています。それから鶴飼いの絵があります。芭蕉は書いています。「喜びに満ちて彼等は出て行き、悲しみに満ちて帰る、鶴の舟！ 鶴達は、せつかくとった魚を主人がとってしまうので悲しいのです。」

それから有名な火山フジヤマ、高さ3776メートル。既に天と地が分れた時から、スルガ

の国にそびえるフジヤマは、誇りと威厳をもち、神の孤高をもって立っている。白い雲さえも敵えて preterpeli しようとはしない。雪は絶えまなく降り続く。「私はこのフジヤマの高峰を、いつまでも語りつづけ、歌いつづけたい。」とヤマベノアカヒトは書いた。トシコさん、多分あなたも、彼と同じ頃の学校へ通っていたのでしょうか？（訳註：勿論大へんな思いちがい）この本は実にきれいな本で、美しいさし絵があって、157 ページ、たて 30 cm よこ 20 cm。私は図書館で借りました。ここに書かれた、日本、日本人の話とか印象が、当たっているのかどうか、いつも知りたく思っています。

日本人の日常生活について少し書きぬいてみようと思うのですが、よろしいでしょうか。彼（訳註：この彼は多分『柔軟な心』の著者のことだろうか）はこんなことから書きはじめています。「日本は全く変わった姿（原文 vido）を持っている。例えば観光客は（訳註：ヨーロッパへ）飛行機でやってくると、まっすぐデラックスホテルへはいる。商社マンはタクシーで、その大会社の事務所へ直行する。ここで日本について2つの意見が出てくるのですが、それにしても、日本人からすれば、日本は本当はどう見えるのでしょうか？日本で生れ、日本だけで育った人たちは、この日本の実情をどう判断しているのでしょうか。」

ひとつの見方（konstat0）として、「日本は変わっている（原文：alia）」。「この alia は、我々ヨーロッパ人は、「不可解（nekomprenebla）」という風に位置づけ（klasifikas）ることが多いのです。そのわけは、「日本人自身か、それを望んでいるから」というのです。今日世界で、外国人の目から、見すかされないでいよう（resti senpenetrebla）などと強く考えている国民はいません。こういう傾向をもった島国の人々の心を学ぶということが、このミステリーヴェールをはがす第一歩。

第2はたぶんこの問題でしょう。「あの限られた地面の上で、あれほどたくさんの人が、どうして調和を保って生きていけるのか。（povas harmonie vivi）」ここで著者はこんな話をさみこんでいます。「ある時、明治天皇が、prince Matsukata に、いったいわしの子は何人あるのかと尋ねた。皇子はおだやかに、あまりくわしくお子様の数をかぞえることは、おひかえくださいとお願ひした。ほんとは 23 人。歴史によれば天皇は 80 歳になってもまだ子どもをもうけた」と。日本は産児制限政策をうまく実行しているとはいえ、日常の様子を見れば、やはり日本の社会は、estas "unu", kie la homoj dum tage kaj nokte svarmas kaj kie por postvivi ili ĉiunomente devas sin-

regi. その結果急速に、広範にわたる礼儀作法 (granda serio da bonmaniero-preskriboj) が発達してきました。これは平安時代にできたもので、きちんとした感覚にもとづき、各人が他のどの人に対しても、その場その場の状況に応じてまもらねばならないもの。そして同時に自分をかくすようにつとめる (zorgi mem resti nevidebla)。 (Tiu nevidebla signifas "ne esti elstara" 原文)。こういったデリケートでこみいった習慣に適應していくことが、日本人としてしあわせにくらす第1の条件というのです。

礼儀正しさについては、他の章にあります。まず言葉がそれに適應していきました。ここでいくつか日本語を書きとめてみます。以下の日本語、あなたおわかりですか、そしてどう説明なさいますか。私は知りたく思います。たとえばマイリマシタ、イキマシタ、イラッシャイマシタ。それから日本語で自分自身をいう時、私を指す代名詞がいくつもあって、そのひとつひとつが、その人についての特別な意味をあらわすというのは、ほんとうですか？ここまでのこと、何しろ私の読んだ木のうけ売りなので、よくおわかりいただけたらと思います。

あなたの手紙からもうひとつ。子どもの養育に関する習慣についての、私の批判どうかお許しください。実のところ、私の国でもそんなことがあるのです。あなたの国ほどでもないのですが。私の国でも、じいさんばあさんは、夜の子守りに使われています。しかし——じいさんばあさんの好意をおそまつにはしない (原文: ne misuzi) という努力に欠けています。というのは、そうしないと

彼等は (訳註: 老夫婦か、若夫婦か、明記なし) すぐいうでしょう: 「すみません、今日もあしたも夜はひまがないので」と。トシコさん、私はよく批判的にあなたに反論しているのは自分でもわかっています。しかし私は自問するのですが「もしあなたの娘さんに、母親や親類がいなくなったら、誰が子どもの面倒をみるのでしょうか?」。子どもを守りできるという仕事で、あなたが若くいられるというのなら、それもいいでしょう。若くといえばあなたのお年は? ああ、いや、大へん失礼しました。ご婦人にお年をきくなんでいけません。

ある舞踏会で若者があるご夫人にダンスを申しこみました。夫人はことわっていました。「せっかくですが、私は“子ども”とはダンスはしません」若者は答えました。「これは失礼、ご妊娠なさっているとは知らなかったもんで」。あなたもご自分のお年をお考えになった方が? それからまた、きれいな写真ありがとうございます。ヤスコの写真にちょっと感激。すっかりきれいに成長した女の子。ちいさかった子どもも、成長は早いですね。あなたとご主人との写真はまた大へんおもむきがあります (delikata)。日本独特のイス (訳註: ざぶとん?)。とてもすわりごちが、よさそうにお見つけします。あなたはよくそれに座って昔のことを思われるのですか? ウメの花——私は知りません。

Kara mia, mi nun finas kaj atendas vian leteron. Tulkore mi salutas vin kaj la ceterajn familianojn.
Via Antonio.

〔前号 誤字訂正 [P.5 下から8行目 duonan → duonon] [P.6 左欄, ↑13行 klisaĵo → klisaĵoj] [右欄 ↑18行 kontraŭ → kontraŭ] [同行 ekmarsantaĵ → ekmarŝantaĵ] [P.7 左欄 ↓9行 ずい文 → ずい分]〕

SERIOZE

■ 例会のようす ■

継続講座と例会、同時に別室で、毎週土曜日午後2時～4時、県職員会館で開かれています。

継続講座は、「福本テキスト」、「大島新エスペラント講座」、投入テキストなどを使って、途中参加でもわかりやすく聞けます。テキスト代 800円。参加費会費は無料。 講師 福本

例会は「城戸崎ザメンホフ読本」(ハムレット P.33のあたり 担当 殿井), 「Jen Nia Mondo」(第19課 Lingvoj で聞いた、り、しゃべったり、

担当 辻), その他 エス作文, informo など。

会場 県職員会館は、県庁前バス停から西へ約 300m、五又路のつきあたり。

■ 会費 ■

年額 2,500円、(1口 500円の最低 5口)

学生、家族は年 1,000円 (2口)

会誌 VERDA MONTETO 年6回配布。

会計係 牛島 美恵子

〒640 和歌山市 狐島 65 の 12

編集担当 前田 米美

〒640 和歌山市 小松原 6-1-6。

〒700 福本博次 さいえ 松下享代

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA-Yonemi (dumonata) N-ro 22

LERNEME

Kio estas lia profesio?

Li nun estas emerito.

Ĉu li estis instruisto antaŭe?

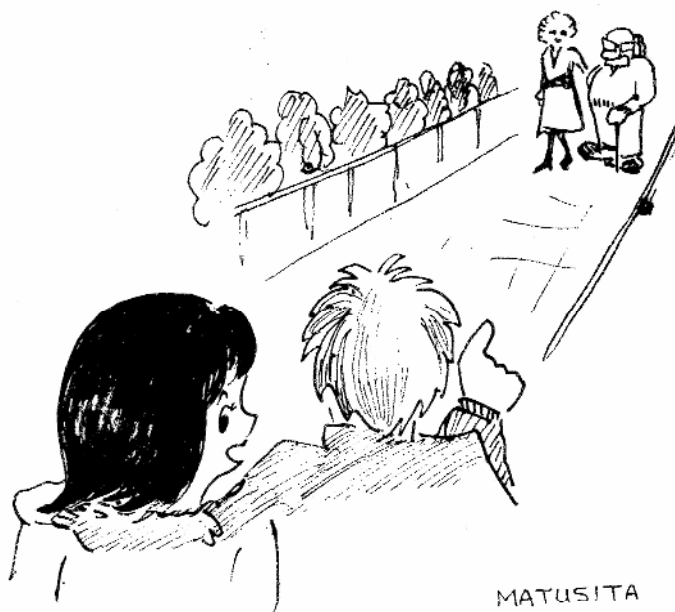
Jes, li estis.

Sed nun li jam ne estas instruisto.

Ĉu ŝi ankaŭ estas instruistino?

Jes, ŝi estas.

Sed ŝi baldaŭ estos emeritino.



国際文通の書式

世界のどこの政治、経済、文化圏からもヒモを持たない、エスペラントの国際総合マガジンMONATOOの編集者 Stefan Maul 氏が、国際文通の書式について、1982年の同誌付録 Praktika Poskalendaro で各国の習慣を次のようにまとめています。

[前田]

[形式]

手書きの時も、タイプの時も、びんせんには、次のことは必ず書くようにしましょう。

発信年月日

発信者の正確な住所

受信者への呼びかけ

発信年月日と発信者住所は、びんせんの初めに書か終りに書かかは、各国の習慣が違うようで、書く場所は、そう重要ではありません。

呼びかけは、相手との親密さに応じて書きわけますが、普通の手紙、公式の手紙または公式に近い手紙なら

Estimata sinjoro A

Estimata sinjorino B

地位の高い人に対しては

Tre estimata

Altestimata など、

公的な地位の高い人(例えば、大統領、王様、公爵、外交官)などに対しては、(国によってはもう時代おくれになっていますが)

Via prezidenta moŝto

親しい友人、知人なら

Kara sinjoro

Kara amiko

または単に

Kara Laŭrenco (相手の名前)

を使われるといいでしょう。

恋人同志なら、もちろん、もっと親しみのある呼びかけがあるでしょう。

社会主義者、共産主義者それに組合員同志は

----kamarado で呼びかけますし、

エスペランティスト同志は

---samideano をよく使っています。

もし、相手の性別がわからない時は単に

Estimata だけを書きます。

官庁、事務所、商社など、相手の個人名がわからない時は、単に、

Estimataj gesinjoroj と書きます。

手紙の終りには、あいさつをつけてサインをしましょう。

たとえ内容が忠告、警告、脅迫であっても、親密の度合によって、以下の中からえらんで

ください。

Sincere

Sincere via

Kun afablaj salutoj

Kun koraj salutoj

Kore via

Amike

など。

公式の手紙に限っておすすめるのは

Altestime

決して忘れないようにしてほしいのは、タイプの場合でも、あなたの自筆でサインすること。そうでないと、匿名か、にせ手紙と見られます。

[封筒の宛名]

封筒やハガキには、必ず2つの住所氏名をはっきり書いてください。相手の宛名と自分の宛名と。でないと、相手に届かないとか、相手が転居、死亡、受取拒否の場合、もどってこないことがおこります。

2つの宛名を書く場所については、国によっていろんなケース、いろんな習慣があります。最もよく使われ、郵便局もおすすめの適切な書き方は、右半分に相手の宛名、左上のすみに自分の宛名を書くやりかたです。

自分の宛名を封筒のうらに書いてもいいのです。その形式は

氏 名

町名または私書箱、

市、

国 名

ソビエト、ブルガリアなど若干の国では逆に書きます。(これの方が手紙の送達経路から見て、より合理的。)

国 名、

市、

町名または私書箱

氏 名

いずれも、行をかえて書くこと。国によって(例えばイギリス)県名、地方名、自治領国名、連合国名なども書きますが、これもできれば、行をかえます。

[郵便番号]

1980年7月から、中国もアラビア数字の郵便番号を導入しました。郵便番号は第2次大戦後、ドイツが提唱した郵便配送システム。中国はこれを受入れた最後の大国。今はほとんど全世界がこのシステムを使っている、郵送をよりたやすく安全にしています。ただし、すべての国が同じ方法でなくて、国によって郵便番号を、まちの前においたり、後においたり、また(例えば日本では)国名の前においたりしていますし、ある国では、

アラビア数字だけで町の名をはぶいたり、またオランダではアルファベットを加えたり、イギリス、カナダのようにアルファベットと数字をまぜたりしています。だから外国あての手紙を書く場合、その国々のやり方をよく注意しておく必要があります。その場合、郵便番号は、あなたの国の郵便局が使うのではなく、宛先国内の郵便局のために重要なものとなるのです。同様に外国宛の手紙にあなたの宛名の郵便番号を書く時も、相手の人が返信の際、宛名に郵便番号をどう書けばよいかわかるように、きちんと書いてください。

ヨーロッパでは、宛名書きの簡略化について、各国郵政省間の協定ができています。即ち、郵便番号の前に、自動車の国別記号アルファベットを書けば、国名をくわしく書かなくてもいいことになっています。これはヨーロッパ内だけで通用することで、他の大陸宛に書く時は、必ず国名をはっきり書き加えてください！

宛名書の実例

Stefan Maul
Pferseer Str. 15,
D-8900 Augsburg,
FR Germanio

Oomoto
Kameoka,
Kioto-hu,
621 Japanio

Conrad Fisher
Route 6, Schaw's
Headville
PA 16335
USA

〔切手〕

切手は不足のないように、きっちり貼ってください。不足の罰金で相手にいやな思いをさせないように。相手が切手を集めている人だとわかっていたら、きれいな、変わった切手を貼ってあげましょう。その時は、切手を封筒などの端いっぱいにはらないで、最小限1cmはあけて、きれいにしっかり貼ってあげましょう。そうすれば長い配送の間破れたりせず、収集家は楽にはずせるのです。

〔日付〕

日付の書き方にもいろいろあります。現代では、公式とか学術上の必要から、国際的にアラビア数字で次の順序で書かれています。年一月一日。例えば、1981 0101 は1981年1月1日。けれど私信の場合は、月の名は完全綴りで書いた方がいいでしょう。略した形を使う人もいます。1 jan. 81. 月の名の省略は、はじめの3文字をとるよう

に。 jan, feb, mar, apr, maj, jun, jul, aüg, sep, okt, nov, dec. このポケットカレンダーで曜日の省略は次のようにしています。 lu=lundo, ma=mardo, me=merkredo, ja=ĵaŭdo, ve=vendredo sa=sabato, di=dimanĉo.

年とった人の中には、月の名をラテン数字で書く、昔の方法でやる人もいます。

1月はI、2月はIIなど。

1981年1月1日なら、1. I. 1981.

1981年12月1日なら、1. XII. 1981.

なぜか 突然 ここで

SERIOZE

- ❑ SERĈU VORTOJN 今回お休み
SOLVO DE LA LASTA N-RO.

1	S	A	B	A	T	O
	A		A		E	K
2	L	A	B	O	R	U
	U		I		A	L
3	T	O	L	A	Ĵ	O
4	G	D	O	R	O	J

KASITA VORTO

ABCĈDE= ORELOJ

SOLVINTOJ: (略敬稱)

黒明輝世, 栗恵美, 谷上 屹.

笠崎みのり, Gratulon!

- ❑ 田中正美さんの「エスペラント漫筆」も、しばらく、中休みされます。

❑ 各種大会案内

- ・全国合宿 焼津 5月3日(木)~6日(日)
- ・KLE&大会 京都 6月9日(土)~10日(日)
- ・UEA 世界大会 カナダ・バンクーバー
7月21日(土)~28日(土)
- ・SAT 世界大会 フランス・ホルドー
8月1日(木)~8日(水)
- ・日本大会 盛岡 8月18日(土)~19日(日)

- ❑ 5月5日(土)は祝日で 例会休みます

Kaj tra Kopenhag-Kongreso en 1975

HASEGAŬA-JOŠIFUMI



la 2a de aŭgusto, 1975

Matene unue mi vizitis la akceptejon de Y.H. por rezervi al mi unu tagon pli da restado. Kaj mi vizitis la kongresejon. Hodiaŭ okazis kongresfermo je 10:00. Mi alvenis tien iom post 10:00. Tie mi vidis la amikon Johannes. Ni sidis kune. Ankaŭ lia bulgara amikino sidis kun li.

De tie mi telefonis al Japana Ambasadorejo kaj mi konfirmis ke la Ambasadorejo ricevis la telekson pri mia Eurail Pas el Japana Vojaĝa Agentejo. Mi estis tre ĝoja. Tuj mi vizitis tien, kaj poste al D.S.B. (Dana Nacia Trajno) kun la papero de

telekso, sed ve! hodiaŭ D.S.B. estis fermita, ĉar estis sabate! Tial devos viziti ĝin denove lunde! kaj ĝis tiam mi devos resti en Kopenhago...kaj mi devas ŝanĝi mian vojaĝplanon. Mi atingos Hamburgon pli malfrue ol antaŭa plano.

Mi trovis, kia valora bileto por mi Eurail Pas estas! En la kongresejo mi aĉetis esperantan atlason. Eksterlanda atlaso interesis min. Mi tagmanĝis ĉe restoracio en la stacidomo. (Matene mi ne povis manĝi pro okupiteco.) Post tio, mi promenis sur la strato ĉirkaŭ la stacio.

Survoje, unu japana junulo alparolis al mi. Li propagandis kristan religion. Li lernis dum 3 jaroj en la

(5ページの下の欄へ)

=====
私 の て が み と も だ ち
=====

世界にひろげよう Amikeca --- Round!

オランダ・テレビ『将軍』評判記

1983年10月24日 (88便)

先週テレビで日本のフィルムを見ました。12回連続の“Shogun”。日出する国のドラマ。あなた、ごらんになりました？雑誌によれば、アメリカでは、125 milionojの人がこのフィルムを見たとか。(訳注、ケタちがい?) 17世紀の話で原作はClavell。彼は第二次大戦中捕虜となり、1942年には、中尉で Changi 収容所にいて、その間“King Rat”を書いた。この本の収益は、日本文化研究のための日本滞在費にあてた。日本の歴史をしらべていたら、Will Adams の名前に出会う。Adams は、舟乗りで、航海から、船の建造にわたる知識の持主。17世紀、日本でサムライになる。

この話を見つけた Clavell は“Shogun”のロマンを書く意欲をそそられたのであった。Adams は John Blackthorne となってよみが

える。フィルムの中では、Anjin (航海士)とも名乗っているが、... この名前はご存じですか。

(中略)

Blackthorne は、サムライ・トラナガと親しくなるが、トラナガは、日本の最高権威者将軍になる野望をみたすため、Blackthorne の航海の知識を利用する。

それにしても、この映画は至るところ、ほとんど誇張しすぎ。1600年頃の人々の生活は今日よりも酷なものだということはわかりませんが、これについて、意見を異にする人も多いでしょう。

来週の木曜日は“Shogun”の第2回を見ます。むごい場面が多く出てきますが、私はこれが大へんざらいです。こんな残酷さもうたくさんですが、この映画では、避けられないようです。

美しいロマンもあります。Blackthorne と、美しい日本婦人マリコさん (Yoko Shimada)。誇張といえば、当時日本人は毎日風呂に入るのに、Blackthorne は、自分の国では年1回だという。

religia lernejo en Danlando. Ni parolis pri aliaj aferoj longan tempon. Li diris ke li forgesis iom japanan lingvon. Li invitis min al lia kunsido, sed mi ne konsentis iri tien, ĉar mi estis laca kaj havis farendajn aferojn.

Mi aĉetis bananojn kaj unu litron da lakto ĉe supermaga-zeno en la stacidomo. En la revena trajno al Y.H., mi vidis du japanajn studentojn kaj ili intencis iri al Y.H., kie mi tranoktas... tial mi gvidis ilin.

— la 93-a letero de Antonio (la lasta letero) —

私たちの手紙の往復も、はや93回になりました。平均月1回以上の割合で到着する手紙も、時としては malreguleco が生じます。最初は彼が肋膜炎の高熱で苦しんだ時、次は私の伴侶が急逝した時、そして最近では彼の国におきた striko の影響を受けて。

7月13日付けのハガキがどうしたことが、9月27日に配達されました。その文面にいわく

La 6-an de junio mi sendis leteron al vi. Depost tiu tempo mi ne aŭdis ion pri vi. Okazis ja ne io malagraba al vi, ĉu ne? Sendu, mi petas, nur karton kiel vivosignon. Kore salutas vin via maltrankvila amiko.
まことにナンセンスといいたまいますか。改めてヨーロッパと日本のへだたりを感じさせられます。

さて93番目の手紙をご紹介します。話題はテレビ番組『将軍』です。誌名はわかりませんが、オランダのある写真たっぴりの雑誌に、今年2月5日放映の“Shogun”のことが載ったとあって、早速2ページはずし、エス訳して送ってくれました。アントニオからのホットニュースというところです。オランダの日本に対する熱い視線が感じられます。 酒井利子

NEDERLANDANOJ

SURMARE EN JAPANIO

NEDERLANDERS OVERZEE IN JAPAN:

KOMENIGIS PER LA AMO ^{Nome de La Sipo}

HET BEGON MET DE LIEFDE

日本の海のオランダ人

1984年2月10日 着(93便)

それは“DE LIEFDE”(La amo)で
はじまった。

la belega I.V. Serio “Shogun”の中で、英人航海士 John Blackthorne の役を演じているのは、アメリカの俳優 Richard Chamberlain。原作はJames Clavellの本だが、史実は、もう一つのテレビ番組 “Nederlanders Overzee”(Nederlandanoj surmare)と関係をもっている。

“Shogun”の映画作者は、作中の人や物の名前をいくつか変えている。たとえば、1600年、はじめて日本にたどり着いたオランダ船の名は、“De Liefde”(La amo)となっているが、史実では“De Erasmus”(アントニオ註: La Erasmo, エラスムス。オランダの高名なラテン語学者で作家、1467

~1536)。この船は、へさきに木彫の Erasmo の像をとりつけてあって、現在でもこの木彫の像だけは保存されているが、船自体は瀬戸内海を大阪へ航行中 Orkano のため（雑誌のオランダ文該当箇所は、in een storm vergingとなっているから、Stormo のためか）沈んでしまった。木彫 Erasmo のへさきは、今東京の博物館にあって、1930



年以來日本の国宝となっている。ということは、日本とオランダの間に、長い間の kontaktoがあったという大きな証しとなる。

“Shogun” 中の航海士の名前 John Blackthorne も実名は William Adams (三浦安針)。平戸島にある彼の墓へは今も多くの日本人が定期的におまいりしている。

“La Amo” (船の名)

オランダ船“La Amo”は1598年ロッテルダムを出帆した。同伴した船は“La Espero” “La Fido”、“La Kreda”、“La Gaja Komisio”。この5隻の船の目標は、マゼラン海峡を通して、世界をまわり、特に日本を訪れること。これが fariĝis katastrofa

vojaĝo。どの船も世界をまわる航海を実現することなく、ただこの“La Amo”だけが、2年後にやっと日本にたどり着いた。

“La Amo”号の船長 Gerardo van Beuningen と乗組員は、チリの海岸で土民によって既に殺されていた。後任船長の Jakobo Kvakernako はまもなく、おそろしい瘧疾に苦しみ、やむなく船の指揮は英人航海士 William Adams に委ねなければならなかった。

日本によくたどり着いた時、生きていた24人の乗組員のうち、やっと自分の足で立てたのはたった6人という有様。

William Adams は、通商に努力をかさねた末、やっと Shogun の信頼を得、オランダ・日本の通商交渉の基礎をつくった。

Hoog aanzien (Alt-estimo)

彼 William Adams は、日本で高い国家的地位を得たが、遂にイギリスの妻の許に帰ることはなかった。Shogun は、彼の懇願にもかかわらず、帰国を許さなかったのだ。

“La Amo”の他の乗組員たちも、高い地位についた。そのうちの数人は、タイ国にいるオランダ人と連絡をとることができ、オランダ本国では、ロッテルダム出帆以来7年たってやっと、この生存者のことを知ったということだった。

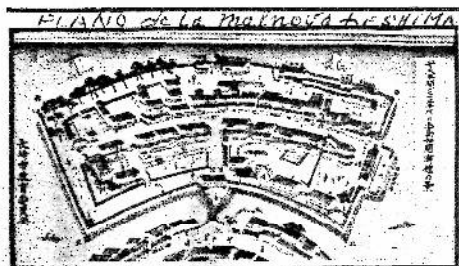
1609年から、オランダ人たちは、平戸島にたしかな足場を持ち、日本と通商をはじめることができた。オランダ人たちの商売は何年もの間大へん栄えたが、1638年頃、Shogun は平戸のオランダ商館を破壊することを命じた。当時オランダ人たちの指導者で“tiutempa ĉefo”といわれていたのは、フランス人 François Caron で、彼は Shogun の

命に従い、商館を破壊した。こういう柔順さを見た将軍は、オランダ人との交渉だけは残すこととし、他の商人はすべて国土の西から追いはらうこととした。

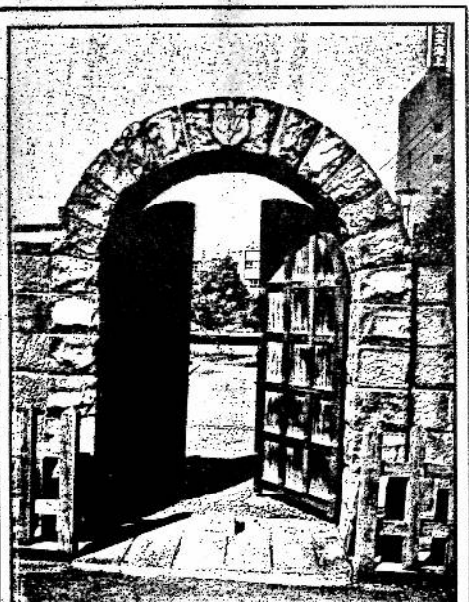
日本は閉ざされた国となった。何びとも出られない、入れない。若干の中国人とオランダ人以外は。

Vooreiland (Antaū Insulo)

長崎港に小さな人工島がつくられた。半円形をしていて、これが“Deshima”または、“Vooreiland (Antaū Insulo)”とよばれ、ここにオランダ人の居住が許された。この島はある種の収容所のようなもので、オラン



PLANTAAL-INSULO EN NAGASAKI
Bismarck van het oude Des- i nieuw contact kunnen krijgen.



MALNOVA ENIR DORDEDO ALLA INSULO DESHIMA

ダ人は島の外に出ることは許されない。対岸に通じる橋には昼も夜も番兵が立っていた。この島にはオランダ人数人のほか、200人以上の日本人が住み、大部分番人と通訳。オランダ人はこの小さな島から、鎖国日本との通商に成功し、それが200年以上続くの

だ。
通訳とオランダ人とは、特に何回となく交渉を持つから、西洋の多くの思想が鎖国日本に入っていた。通訳たちはオランダ語をよくマスターし、オランダ語の本の翻訳をはじめた。航海術、動植物学などの本である。オランダ人は年に1回だけ Deshima を出ることが許された。Shogun 訪問である。

Shogun は“Edo”、今の東京の城に住んでいた。この旅行はいわゆる“TOKAIDO”を通る6週間以上の旅であった。“TOKAIDO”は、数百キロに及ぶ、日本の長い縦貫道路である。オランダ人は当然この旅行中、日本の多くの文物をながめる機会に恵まれた。目的地に着くと、慣習として Shogun に高価な贈り物をする。Deshima で通商を許されたお礼として。現在でも日本人はこの数百年昔のオランダとの関係を大切に考えている。近年、長崎市は、すっかり新しくなったこの Deshima 地区に、古い昔の栄光のしるしを再建しようとしている。

昭和59年4月14日

ワ-プロ 福本 博次

さしえ 松下 享代

編集 前田 米美

640 和歌山市小松原6丁目-6

TEL 0734-22-8660

例会 毎週土曜 午後2~4時 県職員会館

但し 5月5日(土)は祝日で休みます。

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA-Yonemi (dumonata) N-ro 23

LERNEME

Bonan Matenon!

Ĉu jam estas matene?

Jes, jam estas matene.

Ĉu nun pluvas?

Ne, nun ne plu pluvas.

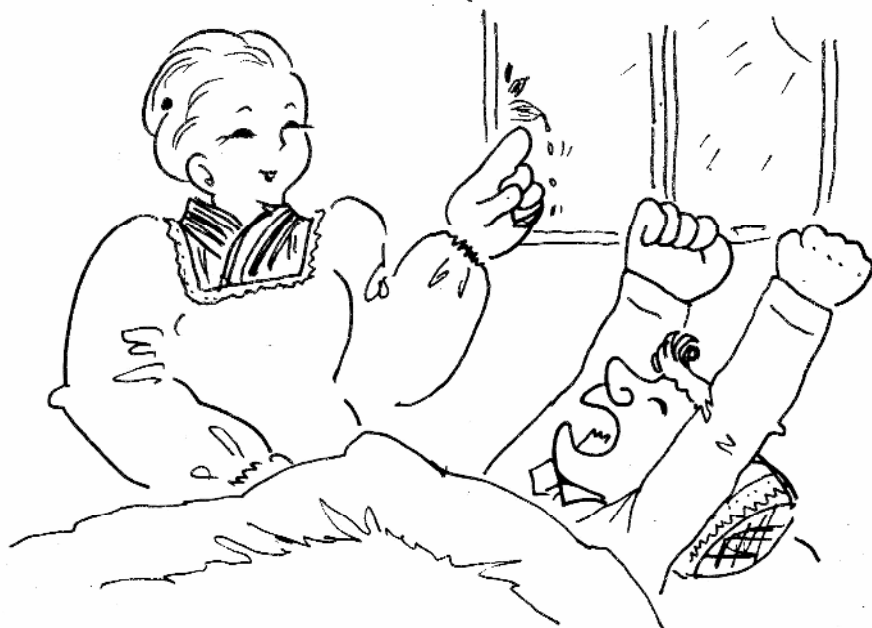
Ĉu hieraŭ forte ventis?

Jes, hieraŭ forte ventis.

Ĉu hodiaŭ estas bela vetero?

Jes, tre bela, kaj morgaŭ estos varme.

(El "Fukumoto-Teksto")



MATUSITA

せっかく
やるからには、
(例会での皆さんの bablado から)

前田米美

せっかくエスペラントをやるからには、もっといじくる時間をふやそう。たしかにエスペラントはやさしい言葉です。少なくとも文法と造語法については。それに、欧米人だけでなく、日本人もこんなに熱心に英語をやっているのに、エスペラントの単語には、ハハンあれかなとすぐ意味が想像できるものが多いです。

ところで文法と造語法と単語のいくつかがわかって、エスペラントが「わかった」と、間もなくやめてしまうのは、全くもったいない話です。やめてしまうのは、その後の単語の蓄積が苦しくなってくるからのようです。エスペラントだって、ひとつの言葉ですから、単語をコツコツ覚える苦勞は、のがれられません。

のがれられませんが苦勞たらしく考えないで、あまり欲ばらず、自分のペースに合せて、すこしでも楽しく、気楽に蓄積する方法を計画してほしいものです。人間には悲しい(?)ことに、平素使わないもの、必要を感じないものは、忘れてしまうくせがあります。文法や造語法を忘れてしまつては、もとの木阿弥、エスペラントはやらなかったのと同じ状態にもどってしまいます。もったいない。

「忘れる」ということは、人間のストレス解消の自浄作用ですから、決して悲しむべきことではありません。けれど、私も60才半ばに近づき、人様の顔は憶えているのに、お名前を忘れていた時は、くやしき悲しく、また失礼ではずかしく思うことはありません。もの忘れは年とともに、大体50才をすぎると、エスペラントの単語は、1日当り1つ、60才をすぎると1日当り2つくらいの割合で忘れていくようです。勿論個人差はありますが、10日もたてば20語! そこで一念発起、1日に2つ忘れても、3つ憶えてやろうと。それもいやいやながら苦しんで憶えた単語は、忘れるのも早いので、楽しく憶えるいい方法はないかと考えました。

そこで「いじくる」なのです。「勉強する」「暗記する」はだめ! おもしろそうなエスペラントをさがし、選び出すことです。

これはあくまでも自分中心に考え、人から笑われそうなどという見栄を棄てること。子どもみたいにやさしいもの、エスペラントのマンガ、seks-rakonto、絵本、うた、・・・

近ごろのエスペラントものではこんなものに事欠きません。でも注意していないと、

売切れ、廃刊になってしまうことも多いのです。私は、Monatoの(・・・ああ、これも近く財政難で廃刊の予定)のクロスワード・パズル(KRUC-ENIGMO)がおもしろくて、つい「緑丘」の編集をさぼって、夢中になってしまうのです。ちょっと変わった特殊な単語も出てきますが、老人ぼけの防止に好適のようです。

勿論、講師先生のおっしゃる通り、「文通」は大きなたのしみのひとつです。文通相手の使った単語は、あざやかに頭に入ります。しかし、自分にびったりした相手を探すとなると、なかなかうまくいかないことが多いようです。びったりいきすぎて、結婚まで発展した例もありますが。とにかく、初等講座のテキストの文とくらべて、外国から来た手紙の文の、何と生き生きしていることでしょうか。

年に1度が2度、私たちの例会にも、外国のエスペランチストが訪れてきます。こんな好機を見のがしてはいけません。はずかしがらずに、何でもいいから話しかけることです。ひと言でもふた言でも、とりかわした単語は、ズンと身にこたえます。会話のコツの50%は、話しかける勇気です。心臓です。文体として間違つてやしないかなどという心配はかなぐりすて、とりかわした単語は、あなたは一生忘れないでしよう。例会に来る外国人にも、初心者育てる配慮をよく承知してくれていて、ゆっくりつき合ってくれます。例会からも、そのようにしてくれと頼んでいるのです。

自分に合った、あるいは、手がとどくぐらいのちょっとむつかしい読物を何とか手に入れてほしいと思います。ところが初等者の読者を意識して編集された読物はわりと少ないのです。この「緑丘」誌はそれをずい分気にしながら作っているのですが、如何でしょうか。

例会勉強会

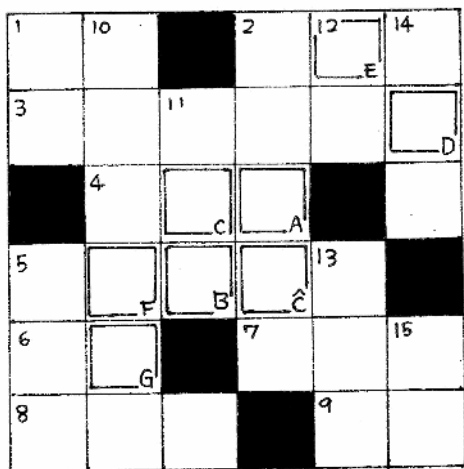
毎週 土曜日 午後2時～4時
場所 梁職員会館(梁村前バス停西入る
約300m. 五又路つまあたり)

7月 7. 14. 21. 28日.
8月 4. 11. 18. 25日 但し夏は
日本大会、世界大会、林間学校に お盆
などで 休むことが あります。

[現在の状況] 講読 サメンボフ読本「マルタ」
(殿井担当)、会話「Jen Nia Mondo」22課
「ストランの長巻」(辻担当)、作文練習など

SERĈU VORTOJN

"Mi deziras ke vi aperigu sekvantan 'SERĈU VORTOJN'. Ĉu vi bonvolus plenumi mian deziron?" というご要望。今回、賞品はありませんが、それでも応募してくださいませんか？ 正解者のお名前は、次号で発表します。どうか 奮って、kaŝita vorto を mal-kaŝi して、編集生まで。640, 和歌山市小松原 6丁目1の6, 前田米美 宛 ハガキで。



§Sugestoj§

Horizontale:

1. Nomo de la 20a litero.
Prepozicio kun signifo;
"en egalaj partoj konsistantaj el"
2. Organo de homa korpo en ventro, servanta por filtri URINON el la sango.(radiko)
3. Malokcidento. Tie la suno levigas. (radiko)
(radiko=formo de vorto sen -o, -a, -e, -as ...ktp)
4. Skandinava aer-fero.(rad.)
5. Plimaljuna.(rad.)
6. Ne difinita objekto, unu el RILATIVOCJ.
7. Unu el fiŝkaptilo. Teksa-

ĵo el ŝnuroj, fadenoj ktp. interplektitaj kun grandaj interspaĉoj. (rad.)

8. Loko (kun sufikso) -o.
9. * Adverbo aŭ interjekcio, esprimanta ke oni malakceptas, rifuzas, rigardas kontraŭa.

Vertikale:

1. Nomo de la 20a litero.
2. Denova fero.(rad.)
5. Respektplene al Dio kaj religiaj aferoj.
10. La kaŝita vorto de la lasta "Serĉu vortojn" en la februara N-ro de V.M.
11. Pronomo.
12. Prepozicio tre ofte uzata.
13. Havigi al iu malfacilaĵon, malhelpon. (rad.)
14. Mallongigo de "Netransitiva verbo".
15. Trinkaĵo, verda aŭ nigra. Ne kafo. (rad.)

Kaŝita vorto=ABCĈDEFG.

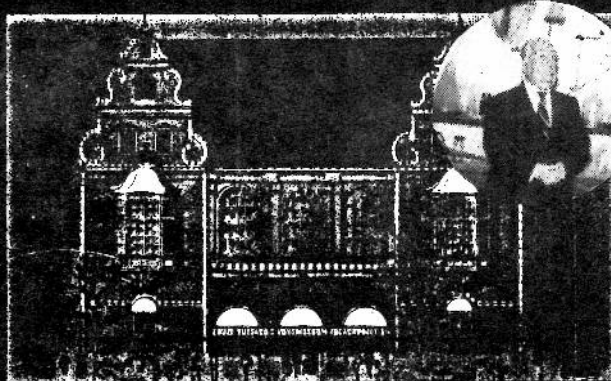
Tio pli ĉarmas korespondadon.

簡単に解いてしまわれの方へ:

今回の "Serĉu Vortojn" の問題を作って、編集生を助けてくださいませんか。

- どこかの一行に、今回の kaŝita vorto を使うこと。
- 従って、たてよこ 8 マスの問題となります。
- この種 Enigma 作りの原則として
 - a) 黒いマス目が、たてよこ 2 つ以上つながらないこと。(斜めはよい)
 - b) 白いマス目のことばは、全部 どこかでつながっていて、離れ島をつくらないこと。
- 尚 Sugestoj をつけて下されば、尚更がいい。

LOUIS TUSSAUD'S WAXMUSEUM COPENHAGEN



En fantastisk oplevelse for hele familien. Louis Tussauds verdensberømte voks museum nu også i København. Mere end 100 kendte personer, Konger, dronninger, eventyrfigurer m.m. Udfoldkommen og uskengivsel. Åben alle ugens dage.

A fantastic experience for the whole family. Louis Tussaud's world famous wax museum is also now in Copenhagen. More than 100 well known figures. Kings, queens, characters from fairy tales etc., reproduced faithfully and realistically. Open every day of the week.

Ein einmaliges Erlebnis für die ganze Familie. Louis Tussauds berühmtes Wachsmuseum ist jetzt auch in Kopenhagen. Über 100 berühmte Persönlichkeiten, Könige, Kaiserinnen, Märchenfiguren, historische Persönlichkeiten, nach der Natur. Täglich geöffnet.

Extraordinaire pour les familles. Louis Tussauds célèbre musée de cire de 100 personnages célèbres, rois, reines, personnages de contes de fées, reproduits fidèlement. Ouvert tous les jours.



H. C. Andersens Boulevard 22 · Ved Rådhuspladsen · nabo til TIVOLI

VOJAGEME

Hasegaŭa devis resti
du tagojn pli
en Kopenhago!

R. Okumura.

Kaj tra Kopenhag-
Kongreso en 1975

HASEGAŬA-
JOŠIFUMI

la 3-a de
aŭgusto,
1975

Matene mi rezervis
por hodiaŭa tranokto
ĉe la akceptejo de Y.
H. (Copenhagen Hostel).
Mi tranoktis jam 6
tagojn ĉi tie. Tre
longa restado!

Hodiaŭ estas tute
libera tago por mi.
Tial mi migros en Ko-
penhago. Matene estis
nuba, sed de tagmeze
fariĝis tre bona vete-
ro.

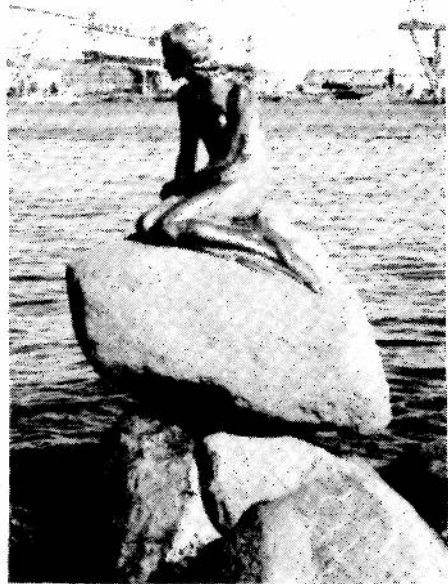
Danaj domoj estas ne
grandaj, sed tre belaj
havante multajn florojn.

Mi vizitis vaksopupan
muzeon. Mi pagis multe
(12 kaj duonkronojn),
sed ĝi estis ne tre
interesa por mi kompare
kun la kosto.

Kaj mi vizitis faman
amuzparkon Tivoli.
Matene la bileto estas
malmultekosta. Sed



Tivoli



Marvirineto

la vizitantoj estis malmultaj, ĉar matene amuzaj spektakloj estas malmultaj. Post la vizito al Tivoli, mi manĝis "hamburgeron" kaj "frankfurteron" kun tre bongusta "Softa Ice" (dana tipa granda graciaĵo) kiel la tagmanĝon.

Kiam mi vizitis "Rondan Preĝejon", mi vidis japanan junulon. Kun li parolante, mi vizitis Kastelon Rosenborg. Kaj li direktis sin al Munkeno en Germanio. Mi vizitis faman "Marvirineto"-n. Tie estis multaj homoj. Mi revenis al Y.H., post aĉetado por la vespermanĝo kaj la matenmanĝo ĉe supermagazeno en la Centra Stacidomo. Hodiaŭ mi multe paŝis kaj miaj piedoj estis tre lacaj. Post la atingo al Y.H., mi intencis duŝi min, sed la akvo estis tre malvarma, tial mi ĉesigis tion baldaŭ. Mi lavis miajn vestojn, ĉar mi devos foriri morgaŭ matene.

緑丘漫筆 (1)

前田米美

本誌先月号 (Febbraio, 1984) で、海南市の田中正美さんは、「エスペラント漫筆」を、12回で一応かく筆されました。それは、1938年 (昭和13年) 12月の和歌山商工会議所でのザメンホフ祭のお話でした。

1938年といえば、当時私は和歌山県師範学校の4年生で、既にエスペラント活動をはじめていましたが、このザメンホフ祭にさそわれたような気がするのです。しかしザメンホフ祭は、学生、先生にとって毎年不都合な時期・・・期末試験。それで私も多分その理由でか、出席した記憶はないのです。

「緑丘、VERDA MONTEFIO」も、この頃発刊されていました。和歌山城や師範学校があった、緑ゆたかな丘、岡山または伏虎山の姿を誌名にしたのです。緑丘会は当時の師範生や、和歌山中学校 (現在の桐蔭高校)、和歌山商業、和歌山工業生など、学生グループで作ったエスペラント会で、前田のほか、松下正行 (太地住、元三輪輪小学校長)、吉田信隆 (満州で戦病死) の3人が、他の会員から会費をとって「エスペラントを教えてやろう」という、かなり一方的な雑誌中心の会でした。発刊は昭和13年ごろだったでしょうか。

事ここに至った発端、いきさつを、おぼろげな記憶をたよりに書きとめておきたいと思います。記憶がいや、記憶欠落事項がありましたら、ご遠慮なくご指摘いただければ、有難く思います。まず次ページの写真をごらんください。1929年 (昭和4年) に創設された、国際連盟協会和歌山支部の日曜学校の人たち。後列まん中で、やや顔をかたむけた白髪の老人が創立者 S-ro J. Ogasawara (小笠原蒼至夫氏) で、立っている子どもたちの左端うしろに前田がいます。うしろの大人たちのうち、まん中の背の高い人が児玉稔氏、国際連盟協会和歌山支部長 (?) で日曜学校の事務的な世話をしてくれていた人。あとの4人は皆小学校の先生たち。

この日曜学校は、日曜の朝9時ごろ、「日曜学校があるんやて、お話聞かしてくれんんやて、行かんかあ」と、小松原6丁目界隈にどこからともなく口コミでお誘いがあり、近所のわんぱく小学生たちが、やんま探りの予定を変更して出かけたものでした。場所は、今の三和銀行とそのうしろの医院を合せた一郭の広大な小笠原氏のお邸の応接室。皆かしこまっていると、小学校の先生が楽しいお伽話をして下さり、行動的な子どもたちが感激でシュンとなったところで、小笠原校長が当時の世界の国際政治情勢をわかりやすく話し

てくださるのでした。

写真の子どもたちの顔ぶれは、ほとんど皆小松原5~6丁目の子ども。世界情勢よりもお伽話の方がずっと面白かったのですが、回を重ねるうちに、小学校の先生が休まれることが多くなり、子ども的人数も少なくなると、小笠原夫人はお昼にライスカレーをご馳走してくださるようになる。私たちはこんどは、それの方が大の楽しみ、当時は牛肉など月に1~2回しか口に入りませんでしたから

しかし、「子どものうちから、外国の人となかよしになれば、この世に戦争はなくなる」という小笠原さんの熱意は、今も私たちの心に強く残っています。

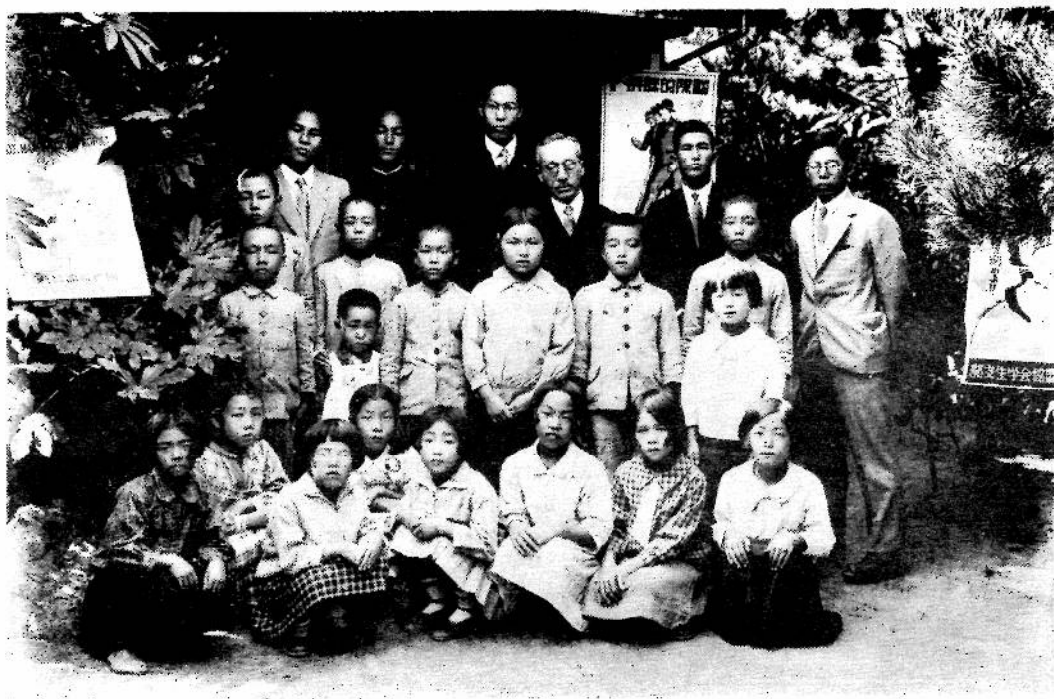
1931年5月15日には、アメリカのガイ博士夫妻が来訪されて、子どもたちは生れて初めて "I love the children of the world" という英語を、何回も唱えて憶えこみ、同年7月17日には、中国山東省済南大学の学生の来訪があり、吹上小学校の講堂に動員されて集まった小学生は500人以上となりました。500人という子どもども集団の指導は、小学校の先生方がこれに当り、交歓は勿論通訳を通じてしましたが、小笠原氏は英語でしゃべり、途中中国語がまじり、意思の疎通はかなり困難だったような印象が残っています。

多分この頃、小笠原氏は「子どものうちから世界はなかよく」という理想実現の為に、ことばが大きな障害となっていることを痛感されたことと思います。そしてこの同じ講堂で、初めてエスペラント講座が開かれましたが、子どもたちにはその講義がむずかしく、2~3回、回を重ねるうちに受講者が数人に減ってしまい、中止となりました。

皮肉にも、済南大学生が帰国の船旅途上に満州事変が起り、この大学生たちは帰国後小笠原氏宛に、抗議の手紙をたくさん送ってきたという話も、かすかに憶えています。

ここで小笠原氏は、いよいよエスペラント誌 "La Suno" を発行し、世界に向って日本の軍部の始めた戦争を弁護しようとするのですが、その少し前、本格的なエスペラント講座が、小笠原氏の力で始まりました。

講師は、当時広島高等師範学校の学生であった奥村林蔵先生。1934年 (昭和9年) の夏休みのことでした。



Ĉi tiu Dimanca Lernejo estis fondita en 1929 sub la kontrolo de Ŭakajama filio de la Asocio por la Ligo de Nacioj por instigi al geknaboj ĝeneralan scion pri celo kaj movado de la Ligo de Nacioj celante planti Internaciismon en la koroj junaj.

Post kvarjara klopodado nun mi vidas unuan ĝojindan rikolton de internaciismo ekfloranta.

Antaŭlastjare 1931 Gesinoroj D-ro H. H. Guy el Usono, kiuj estis membroj de The Social and Religious Research vizitis nian Dimancan Lernejon en Ŭakajama survoje de ilia rondovojago tra Japanujo, kaj bonvole paroladis al 200 geknaboj.

Post lia parolado li donacis unu frazon al junaj koroj Impresemaj, t.e. angle: I love the children of the world. De tiam ĝi farigis nia moto. Ankaŭ samjare nin vizitis studentaro de Tsinan Universitato de Shan-tung, Ĉinujo. Ni kantis kaj paroladis en amika atmosfero internacia.

Nuntempe niaj geknaboj ricevas en Esperanto multajn amikecplenajn postkartojn aŭ leterojn de la amikoj el la tuta mondo.

Per Esperanto ilia amikeco ĉiam kreskas super nacioj, gentoj, kaj distanco. Kredante ke kiam ili estos kreskinta, ni vidos veran pacon sur la bomaro, mi konstante semas senlace pacismon en la korojn de juna generacio. Kantante en la koro "La Vojo" de nia Majstro.....

J. Ogasuara.

"Fokus"-EME

(ほくそ笑め?)

はるかなる 里ソ帰り

国際結婚も近ごろ珍しく
なくなってきたが、旧姓小
林富美子さんの場合、かな
り異色である。ご夫君は
北アイルランド……とい



えば、日本人には物騒
なバクダンが……と
心配されるむきも多か
ろうが、日本の爆破事
件の回数だって相当な
もの。ご夫君にいわせ
れば、北アイルの紛争
は、日本でもよく理解
されていないとのこと。

4月21日(木)と28
日(土)の2回にわたって、
緑丘会例会に、会員と
して、ご夫妻そろって
出席。←

ご夫君のエスペラントは流暢で、英語ナマリなど
全然感じさせない。それもそのはず、ケンブリッジ
大学卒、日本の東大に留学2年、専門は言語学で、
11の国語はしゃべれるという。私たちの勉強を聞いて
いて、「日本の人は大てい、不必要なところに母
音をつけるが、皆さんののは、必要なところの母音が
消えています」とご指摘。そのあと、言語学から、
記号論とかいうむづかしいお話を、日本人にもわか
らない術語を日本語ですらすら説明されて、我々は
目を白黒。

紀の国会館では、目ざとく、お好きなワインを見
つけ、慎重に産地年代を選んだあと、我々に逆にご
馳走して下さった。

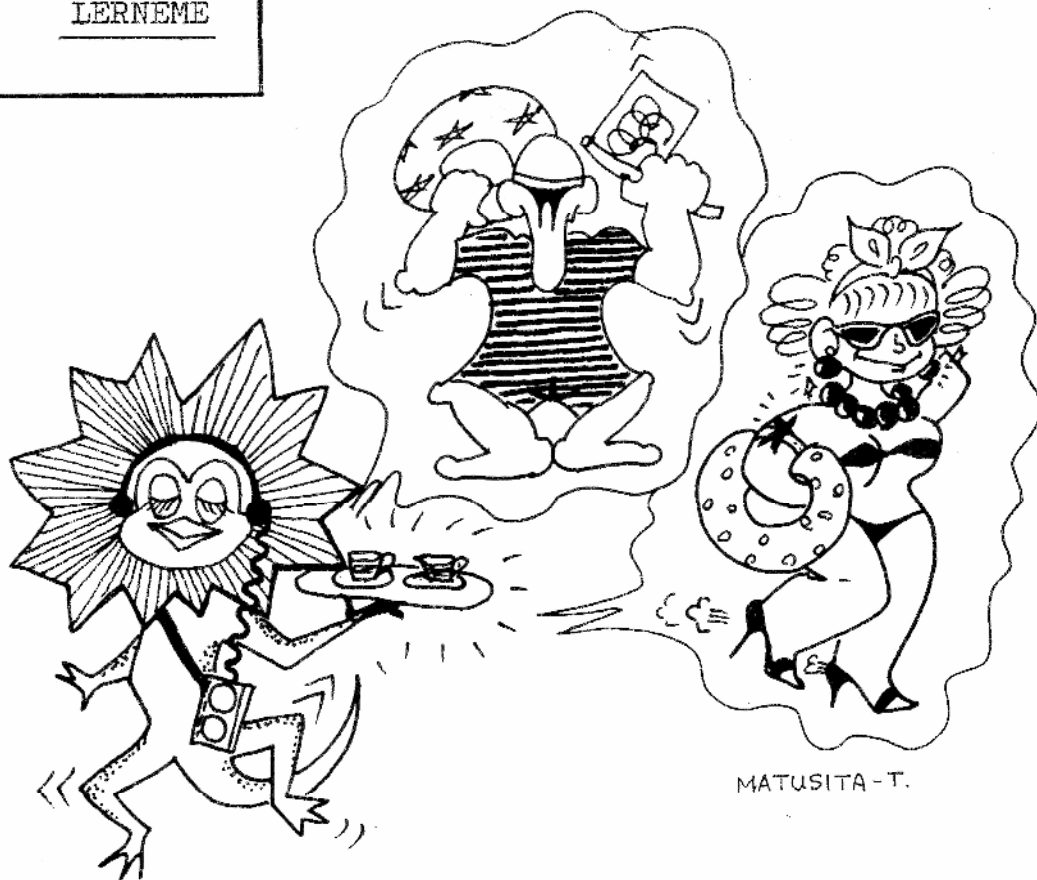
富美子さんも、いいご主人を見つけたねといった
ら、彼女はすかしそうに、「見つけれられた方ですト。
ワインが ずっとキエてきました。

昭和59年6月14日、ワフコ福本博次、さしえ
松下享代、編集前田米美 640 和歌山市小松原
6丁目1-6、TEL 0734-22-8660

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA-Yonemi (dumonata) N-ro 24

LERNEME



MATUSITA-T.

Li tre ŝatas naĝi.
 Plaĉas al ŝi promeni
 sur marbordo.
 Plaĉas al mi aŭskulti
 muzikon sola.
 Ĉu plaĉas al vi legi

detektivan novelon?
 Ne, al mi ne plaĉas legi
 detektivan novelon.
 Ĉu kafo plaĉas al vi?
 Jes, kafo plaĉas al mi.
 (El "Fukumoto-Teksto")

初心者のエスペラント文通 (1)

辻 千早

「エスペラント」、そんなのやって何になるの、そんなのやるくらいだったら、英会話でもやればよいのに。こんなことはよく言われる。

私はかつて、アメリカの高校生と文通したことがある。それは私が教師をしていた頃、学校にとっても意欲的な生徒がいたので、余暇の利用に、アメリカ、ノースカロライナの女の子と文通させたことがあった。その生徒に英語で手紙を書くように言ったが、長い時間かかって結局最初の挨拶ぐらいを英語で書いて、「後、先生書いて」と言ってくる。仕方がないので、私が書くことになるのだが、私も本当の英語の先生でないで和英辞典をひきまくって、文法の間違いだらけの文章を作って出した。ところが10日ぐらいで、返事が来る。生徒は喜んでいますが、また返事を書かなければならない。1カ月ぐらいかかって、また出した手紙の返事が10日で戻ってくる。当り前の話である。アメリカ人が日本語で日本人に手紙を書くようなものだ。とてもしんどくなって、4回で止めてしまった。相手の女の子も、随分下手な英語だなあーと、笑っていたらう。その点エスペラントは対等の文通が出来るし、どこの国でもよい、自分が初心者であれば相手に初心者を選ぶことが出来る。

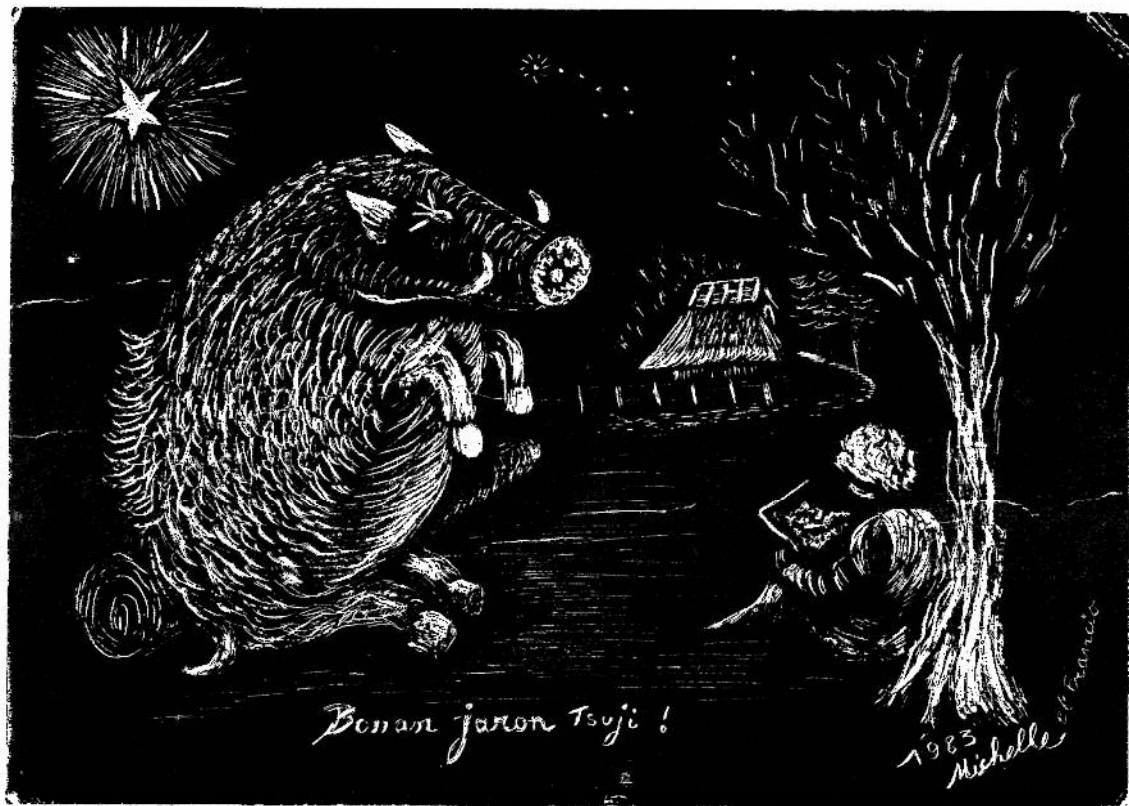
それからもう一つ。初めて文通した時は、エスペラントの実力の方もまだまだで、初心者マークを付けたドライバーのようなものでした。1行読むのに2つぐらい分からない単語が出てきて、辞書を引かなくてはならず、返事を書くのも苦になって、なかなか筆が進まず、1週間もかかる始末であった。しかし丁度1年たち、努力した甲斐があって、初心者マークもはずせ(？)、まだ片手運転とは参らぬが、文章を読むのも大して苦勞せず、手紙を出すのも、そう億劫ではなくなってきた。

前置きが長くなった。では私の文通相手を紹介しよう。フランス南部、シャルベントラスに住む、michelle Portigliatti さん、ミッシェル夫人、太めのおばはん。1935年生れ。49才。



最初 fraŭlino と書いて出したが、4回目に "mi ĉiam ridetas kiam vi nomas min fraŭlino sed mi neniam diris al vi. ĉar ne estas grava afero.

mi havas edzon kaj grandan filon 20 jar an それからは sinjorino と書くようにした。職業は画家、絵かきだけでは食べていけないのか、"mi laboras. mi estas vendistino dum du tagoj semajne ĉe grandega magazeno." つまり百貨店でパートをしているらしい。元々前田先生の文通相手であったが、私も下手な絵を画くので話が合うのではないかと、それに文章に間違いが多く、と言っては失礼だが余り上手ではなく、辻さんに丁度よいのではないかと譲ってもらった。性格は両家によくみられるように、大ざっぱでできない字で判断しなければ分らない所が多い。



Bonan jaron Tsuji!

1983
Michelle

最初彼女は自分の写真を送ってきた。それを見て、私は漫画チックに彼女の顔を画いて送った。それに対して、彼女は私の写真を見て、クレパスの絵を送って来た。若過ぎるがなかなかよく似ている。さすがである。何時も右片隅に絵を画いている自分の姿も画いている。しばらくして私の家内の写真も送れと来たので、何枚も送ったが、今度は余りにも若過ぎて似てはいなかった。

次に私は第1回和歌山市風祭兩展に入選した紀伊風土記の丘の古い家の水彩画を送った。それに対して美しい年賀状が送られてきた。その中に Maeda sendis al mi karton kie estas Apro. la signo de la jaro 83 つまり干支(えと)の猪と紀伊風土記の丘の古い家を入れたすばらしい年賀状であった。

その後彼女は簡単なクッキーを送って来たりして、平凡な文通が続いた。そのエスペラント文を掲載しても面白くないし、判じ読みしなければならぬ字が多いので、読むのに一苦労であるので止めておこう。

秋も過ぎて新しい84年が訪れた。私は彼女に年賀状を出したが、彼女からは年賀状の代りに1通の手紙が来た。それによると

mi estas mult-malsana.
a. mi vivas ĉe sanejo.
o. mi ne scias per esperanto mian malsanecon.
エスペラントで説明できない病気で入院しているらしい。彼女は骨の絵を画いて説明しているのだが、私にはよく分らない。どうも背骨の第5番目か第6番目の骨が悪いようだ。それで文通も遠慮して出さないようにした。

それから半年が過ぎた。私はその間に同じ緑丘会の酒井先生から第2番目の文通相手を紹介されたわけだが、ミッシェルさんのことが気掛りで手紙を出した所、tre kara Chihaya, mi pli bone fartas sed mi estas tiel kiel antaue. と返事が来た。すっかり良くなったらしい。ところが次の相手と物凄く熱心に文通しているので、ミッシェルさんとの文通は気が抜けたようになり、今のところ忙しさもあって返事を出さずはってある。1度ノランクがあるとあまり書く気がしないし、もっと実力があればすぐ手紙が書けるのだが、今の私の力ではまだまださっと文章ができる力がないので当然である。(つづく)

幻の打出の小槌

S-ro Okumura — Rinzo

あっちこっちからのアンケート依頼状や人会勧誘状が来ます。どうして私の住所氏名を入手するのか全く不思議です。とにかく返信料付の封筒などまで送られてくるのですから、義理堅く礼儀正しい私としては捨て置くわけには参りません。それで、とにかく特別の事情の無い限り返事を送っています。もちろん全文 에스バラントで。かつ本名で。

受取った相手は商売上なんとかして読まねばならず、担当者間で一騒動した上で仕方

なくなくでも 에스バラントの勉強をしましょう。これが国際語というものか、これが 에스バラントというものか、と判ってくれたら私の目的は十分に達せられたことになる。読んだあとガッカリしようがしまいが問題ではない。私としては礼儀に欠ける点はないし、郵政省は郵便料金の収入が増すし、相手方は眼界視野を広げ得るし、正に一挙三得とはこのことでしょう。

最近の返信例を1つお見せ致しましょう。



Osaka La 8an de Junio 1984

Alte Estimata Sinjoro.

Vi donis al mi grandan ĝojon kaj honoron min inviti al la aliĝo al la American Express Card. Mi kore dankas.

Sed, tamen...

Unue mi sentis senliman ĝojon kaj feliĉon, ĉar mi, estante ĉiam malriĉa, ne sufiĉa eĉ por ĉiutaga manĝo, ne povis aĉeti bonajn objektojn, ne povis manĝi bongustaĵojn, nek povis vojaĝi enlande kaj eksterlanden kompreneble, kaj via donaco la invito al la American Card proponas al mi la posedon de kapablo aĉeti, manĝi kaj vojaĝi senpage, kun nenia prizorgo de mia monujo. La Card estas vere al mi la Uĉide-no-Kozuĉi, kiun mi aŭdis kaj legis nur en legendoj. La Uĉide-no-Kozuĉi estas tuj antaŭ mia okulo, tuj apud mia mano. Kia feliĉo, kia plezuro, kia ĝojo...

Kaj... poste mi trovis ke por enmanigi la Card, mi devas jam antaŭe provizi multan monon en banko, posedi abundan riĉon kaj enspezon, per kiu mi pagas poste kun procentaĵo, kredeble sufiĉe alta procentaĵo. Kia seniluziigo, kia malreviigo, konklude kia trompo al naivulo kiel mi.

Kun malespero

mi finas.

これはおことわりの返事ですが、はめて書くアンケートもあります。S-ro MAEDA も今度アメリカへ行かれますが、飛行機中でア

ンケート用紙がありますから、うんとエスペラントではめて書いてみて下さい。

(59.6.28)

←(前田) やりました。タイ航空からていねいな英語のお返事
もらいました。私のエスペラント文がよくわかったようでした!!

VOJAGEME

遂に 新しい
ユ-レイルパスを手にも!!

Per la nova
"Eurailpas"o,
Sola mi al
eŭrop-ĉaso.

HASEGAŬA
JOŠIFUMI

la 4a de
aŭgusto, 1975

Matene frue mi foriris de Avedore en Kopenhago. Unue mi vizitis la oficejon de D.S.B. apud Centra Stacio por ricevi renovigitan Eurailpass. Bone mi povis ricevi ĝin! Mi estis tre ĝoja. Tuj mi iris al la stacio por veturi per internacia ekspreso TEE "Merkur" de 9:50 matene.

En la stacio mi vidis japanan studenton. Parolante kun li en la vagono, ni veturis al Okcidenta Germanio. Mi iros al Hamburgo sed li al alia regiono. Li donacis al mi saketon por enmeti valorajn aĵojn, pendigante de kolo sub jako kontraŭ ŝtelo. Mi estis denove tre ĝoja, ĉar ĝis tiam mi enmetis valoraĵojn en "haramaki". Uzi "haramaki" ne estas bona, ĉar mi devis elmeti aĵojn antaŭ alies rigardoj.

2106300

№ 748118 № 748118

EURAILPASS

1cl

2	MONTHS	FIRST DAY	16	07	1975
		DAY MONTH YEAR			
		LAST DAY	15	09	1975
		DAY MONTH YEAR			

Mr Yoshifumi Hasegawa

Country Japan Passport No ME 2262196

This ticket is strictly personal and not transferable

Mia trajno alvenis je 2:30 al Hamburgo. Mi enmetis mian pezan valizon en lukeston de la stacidomo kaj tuj iris al la junulara gastejo sed mi veturis per erara trajno. Do, finfine mi atingis la stacion apud la celata gastejo iom malfrue.

Post la atingo de la stacio, mi ne povis trovi la gastejon sed iu bonkora germano gvidis min al ĝi. Mi tre dankis lin. Ankaŭ en ĉi tiu gastejo estis kelkaj japanaj junuloj.

Mi denove iris al la centra stacio, post la rezervo de la tranĉto, por preni mian valizon. Mi aĉetis ŝlosilon kun ĉeno por gardi valizon, ĉe iu supermagazeno apud la stacio. Kaj mi reiris al la gastejo por vespermanĝi, sed la manĝo estis jam finita, ĉar mi atingis tien iom malfrue.

Vespere mi promenis sur seksema strato apud la gastejo

kun kelkaj japanaj studentoj. Ĉe iu manĝejo la aliaj trinkis bieron kaj mi vespermanĝis. Germanaj manĝaĵoj estis pli malmultekostaj ol la danaj.

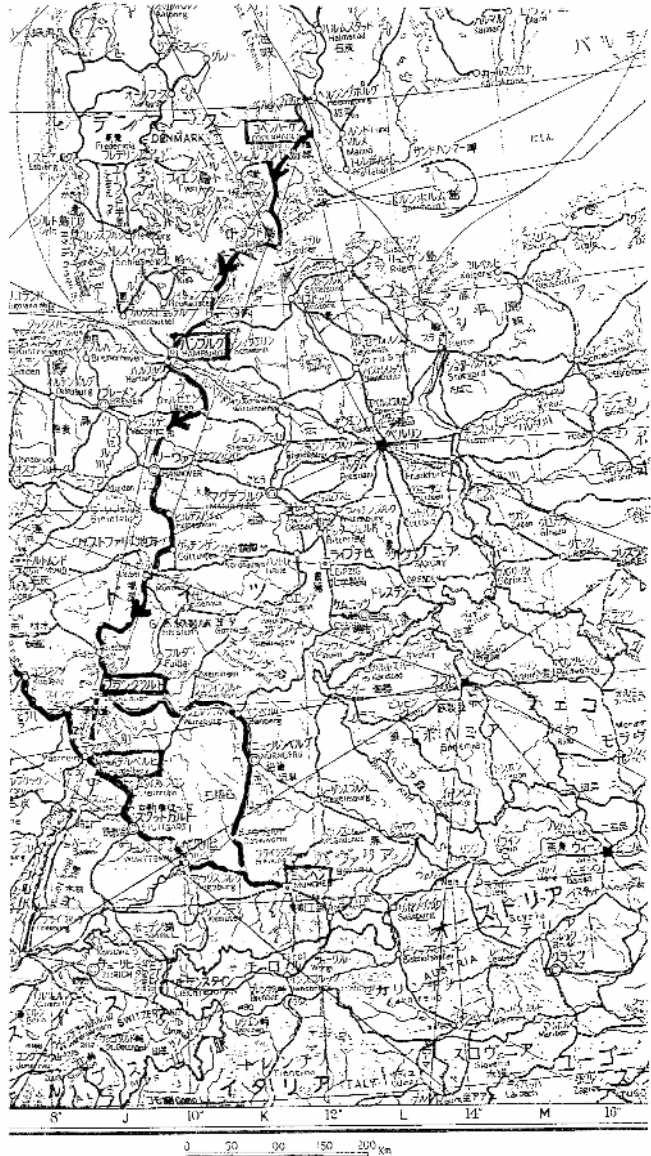
Post tio, ni eniris en "sex show" por amuzi, ĉar ĝi kostis nur tri germanajn markojn sed ni estis milde truditaj trinki iun trinkaĵon dum la spektado kaj ĝi estis altekosta! Plie la "show" estis ne tre interesa. Poste ni NUR vidis "stratajn virinojn", kiuj vendas sekson. Aliaj demandis la prezon. Ĝi estis ĉirkaŭ 30 g.m. (Tiam 1 g.m. kostis 150 jenojn)

Iom post 10:00, ni revenis al la gastejo.

Aliaj Vojaĝoj

☐ 西ドイツは、カールスルーエ近くの Durmersheim に住む Dieter Yoshie kleemann ご夫妻一家が、トーマスくん(14才)、アンドレアスくん(13才)と、今年の夏お里帰り。子どもさん達は8月5日、ご夫妻は8月10日西ドイツを立ち、先ず群馬県太田市の実家へ。18日からの盛岡の日本大会に参加し、しばらく東北地方の旅りをたのしまれ、帰国は9月1日午後9:30 成田発の予定。南西地方には来られないのは残念。

☐ 北アイルランドの、マイケル・フミコ・ラ4夫妻は、7月23日(休暇の運問延長して)、日本を立ち、8月10日ごろまで、ドーバー海峡に臨む Hastings に滞在の後、ポートルッシュへ帰られる予定。ポートルッシュでは、住所が変わります。詳細は、前田 まはけ 大谷へ。



- 前田、本号の編集ほったらかして、7月13日から8月3日まで、アメリカはポートランドの、Tutpacifika kaj ELNA Kongresojと、カナダ、バンクーバーのUEA世界大会へ参加、残りの3日を利用して、カリフォルニアの、自分の生れを果樹園を見てきました。

本号、8月号はそのためのすっきりおくれて、発行は9月上旬の予定。(8月26日)

SERIOZE

- SERĈU VORTOJN は今回お休みさせていただきました。

前回の kaŝita vorto は "FILATELO"。正答者は 辻 千早さん おひとりでした。前回は少しむつかしかったですが。

- 土曜日の例会は、7月中も8月中もずっと休まず続いています。その間

Jen Nia Mondo は、Leciono 24まで進みました。殿井さんが休まれて、Marta は P.40 の中程のところに 6/23 進んだところまで。投入のみなので、Eroŝenko の "Unu paĝeto en mia terneja vivo" を読み終り、今 Privat (701) の "Vivo de Zamenhof" にとりかかっています。R.O. や La Movado の作文にも応募しています。

- 勝手ながら前田の「緑丘漫筆」も今回お休みいただきました。しかし 奥村环藏先生から、当時の資料どっさり、恐らく奥村先生お手持ちのものすべてお送りいただいたので、この資料の紹介文だけでも、かなり続くことになりましょう。

- 7月28日(土)の例会に、京都の三宅さん来訪、しが岳のフリスカ林間学校の説明と勧誘されました。

- 会計係の牛島美恵子さん、7月初旬入院、3週間の予定。現在自宅療養中、経過良好、9月いっぱい休養されるとのこと。

- 9月の例会は、1日、8日、22日、29日の4回。15日は祝日で休みます。今、アリゾナの「ザメンホフの生理」という大作にとりくむ為、午後1時から始めています。2時おぎからは、やさしい読物 "SAVO EL LA NEGRO" (雪からの脱出) を読む予定です。会場は、いつもの、県職員会館。県庁前バス停を西へ約300m、五又路のつきあたり。

- 会費年2,500円、学生、家族は年1,000円
会誌 VERDA MONTETO 年6回配布。

- 特報。ポートランドとバンクーバーの大会に、中国から 鄧国相 (ZOU GUOJIANG, ILI ポポーラ・チネオ編集担当)、楊开源 (JIANG KAIYUAN, 国際旅行社担当)、薛梅仙 (XUE MEIXIAN, 女性、北京エスペラント放送担当) の3人が参加していて、バンクーバーでは、informejo までつくり、1986年の北京での世界大会に是非来てほしいと、けんめいに宣伝していました。前田もつかまって、「和歌山からは何人くらい来てくれるか」としつこく聞かれるので「2~3人くらいかな」と答えて、大へん喜んで、記念品をいくつかくれました。

アメリカを主として、太平洋岸の各国、それにヨーロッパからの参加者たちも、北京大会に参加しようと考えている人々が、かなり多いようで、その人たちも、往復の途中、必ず日本へも来るよとっていましたから、1988年には、日本へも、かなりエスペランティストがやってくるような感じでした。

1984年9月1日。ワープロ 福本博次、
さしえ 松下享代。編集 前田栄美
640 和歌山市、小松原6丁目1の6、
TEL 0734-22-8660

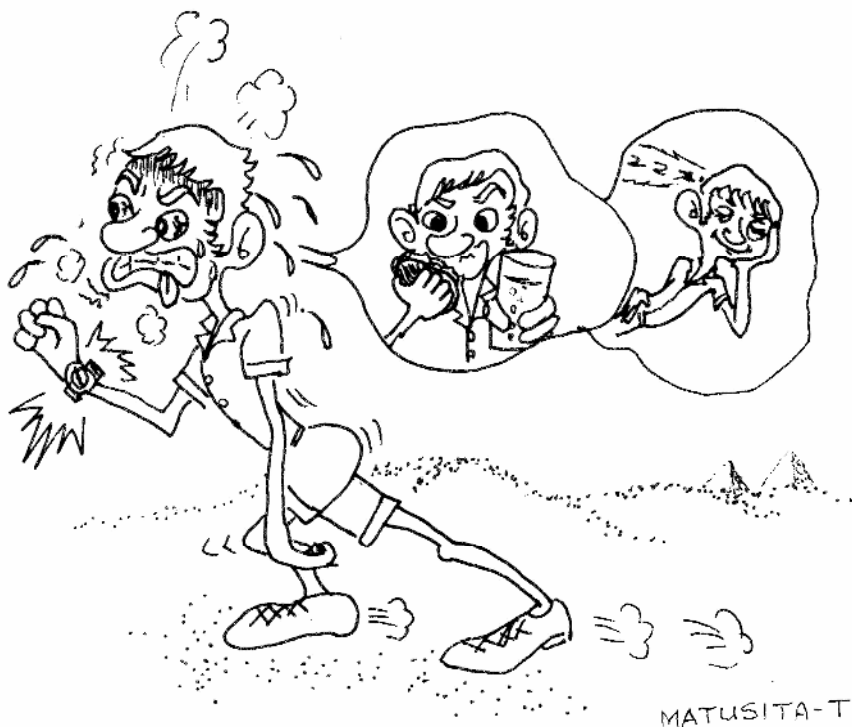
- 前号 8A0-ジ 左らん、19行、ケンブリッジは
オックスフォードの誤り。おわび申し上げます。

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA-Yonemi (dumonata) N-ro 25

HARDEME

Mi ne havas tempon.
Tempo mankas al mi.
Ĉu vi bezonas akvon?
Jes, mi bezonas akvon.
Ĉu vi bezonas manĝi?
Jes, manĝi estas necese por mi,
kaj akvo necesas por mi,
kaj dormi necesas por mi.



初心者の「スペラント文通」(2)

辻 千早



酒井先生の文通相手、アントニオさんはオランダ人である。その人に紹介された人は何とチュニジアからである。チュニジアといえば、アフリカの北岸、リビアとアルジェリアに挟まれた小国。サハラ砂漠に面し、元フランス領、首都はチュニス。カルタゴの遺跡でよく知られている。相手の住む町は、Monastir、普通の地図には載っていない。地中海に面する美しい海岸とホテルが沢山あり、いろいろな国の観光客が多いと書いてある。

さて、相手の名前は、Karia Achor、カール・アコールとでも読むのか、会ってないので判らない。38才の女性。チュニジアはアラブ人の国だが、写真で見ると彼女は白人である。フランス人ですかと書いたが、その返事はない。そのことについては、深く詮索しないことにした。2人の娘がいる。職業は事務員、しかし今は主婦として、家で働いている。この辺の事情はエスペラントで、

＊＊ 写真の説明。日本人の友達を招いて、日本食を食べている所。この日本人はイギリス人の妻となっている。その日本人の横が本人。その横が2人の娘、主人はこの写真を撮っているからいない。

Mia profesio estas oficistino, sed en luno mi ne povas labori. Kiel eksterlandano mi ne povas labori sen kontrakto. Pro tio mi ne laboras kaj mastrumas en mia loĝejo.

真に初心者でもよく分かる易しい文体である。チュニジアでは外国人は契約がないと働けないとは、どうも分かり難いが、とにかく主婦である彼女は日本についても興味があり、沢山知りたらしい。

Via lando tre interesas min kaj mi volas ekscii pli multe pri ĝi.

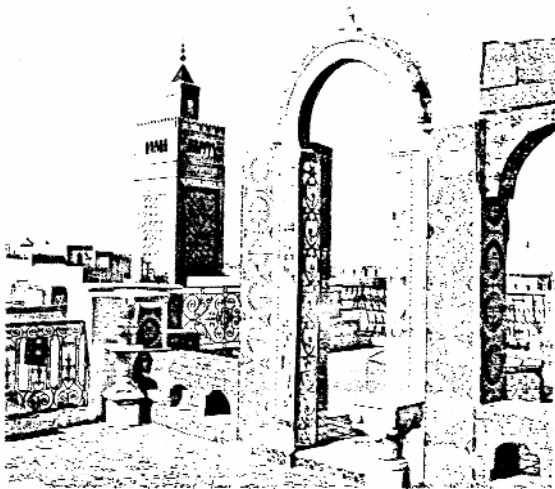
Mi interesiĝas pri la vivo, kutimoj kultura kaj naturo.

それにしても、また字が分かり難い。外人の字はそれぞれ特徴があって、nかuか、mかwか分からないし、その他の字でも馴れないとよく分からない。最初にクリームをつけなければ、ミッシェルさんの時のようになると思っ、苦情を申しあげた所、今度はよく分かる字で、

Mi pardonpetas pro mia malbona man-skribo. Mi provas skribi pli legeble. mi bedaŭrinde ne havas skribmaŝinon.

非常に真面目な態度に感激した。私の家にもタイプライターはあるが、使っていない。それに彼女の家にはない。どうも慎ましい生活をしているらしい。日本人は金持ちで、大学生でもバイトをして、海外旅行に行く時代である。

私はかつてパリで、日本の小学生が団体でエッフェル塔の前の広場を歩いているのに出会ったことがあったが、彼女は、
Mi neniam vojaĝis Japanion. Via lando estas tre malproksima kaj mi neniam havis rimedojn por viziti ĝin.



チュニス、Medinaの屋根

その遠い国、砂漠となつめやし、丸い屋根とモザイクタイルの美しいモスクのある、アラブの国。彼女はチュニジアの風景を、seka kaj flava、といている。日本はまるで反対で、mlseka kaj verda、と思う。夏のチュニジアは乾期で、

Dum somero neniam pluvas kaj suno ĉion brulas.

太陽が毎日、キラキラ照っているらしい。今年は日本も物凄く暑かったが、そちらはどうかと聞くと、

Ĉe ni estas nun somera varmeĝo. Merkrede la temperaturo atingis pli ol 40°C en ombro.

日陰で40°C、日本で記録された最高温度に近い。

Tre varmega vento el Sahara blovis. Tage estas ege varmeĝo.

Mi foriras el domo nur vespere kaj nokte. Posttagmeze homoj ripozas, sed neblas bone ripozi en tia varmeĝo.

サハラ砂漠からの熱風のため、人々は日中、家の中にじっとしているが、それでもよく休めないらしい。砂漠の国の気候がよく分かる。(終)

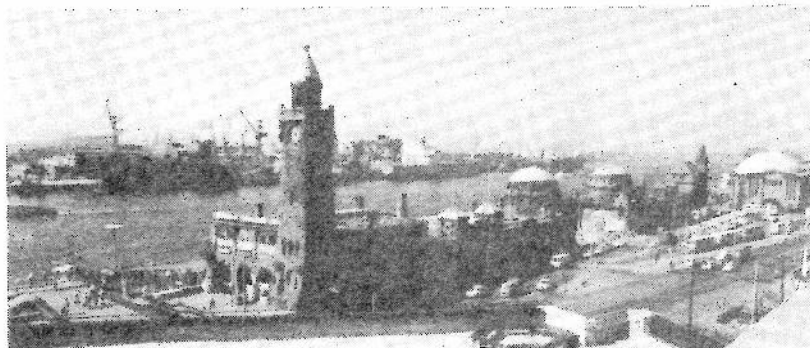
*** 前号でミッシェルさんから簡単なクッキーが送って来たとありましたが、クッキーの誤りで、間違って申訳けありませんでした。クッキーとは、画家がよく使う言葉で、2~3分で書く簡単なスケッチのことです。

VOJEGEME

やまユースホステルをさがせ!

Per la nova "Eurailpas"o,
Sola mi al eŭrop-ĉaso.

HASEGAŬA
JOŠIFUMI



HAMBURG
(4-5, Aŭg. '75)



La lago "ALSTER"

la 5a de aŭgusto, 1975
Hodiaŭ mi intencas veturi per
la internacia ekspreso (11:40
a.m.) al Frankfurt. Ĝis tiam
mi promenis ĉirkaŭ la lago
"ALSTER" en Hamburgo. Ĝi estis
bela lago. Blankaj veloj kuris
sur ĝi.

Mi veturis per TEE (internacia
ekspreso) "Helmetia" ĝis Frank-
furt.

Ĉe la stacio de Hamburgo, mi
hazarde vidis japanan maljunu-
lon, kiun mi vidis antaŭe en
la hotelo Metropol en Moskvo.
Li estas profesoro de univer-
sitato. Ni veturis interparolante
en sama ĉambro de TEE,

kaj li elvagoniĝis survoje ĉe
iu stacio.

Mia trajno atingis Frankfur-
ton je 4:30 p.m. La atingo
estis malfrua kaj tial mi ne
havis sufiĉan tempon serĉi
hotelon senhelpe. Mi provis
trovi malmultekostan hotelon
ĉe turisma oficejo antaŭ la
stacidomo. Mi trovis hotelon
sed ĝi ne estis malmultekos-
ta, nome 22 D.M. + 2 D.M. (por
la turisma oficejo), tamen
mi ne havis alian rimedon.

La hotelo estis malgranda,
sed pura. Mi duŝis min ves-
pere, por tio mi devis ankaŭ

Frankfurt.

↓ Hotelo "Glockshuber", malgranda, pura sed multekosta.



↑ Junulara gastejo, malmultekosta.

pagi pli 2.5 D.M. (tiam 1 D.M. estis ĉirkaŭ 130 jenoj.)

la 6a de aŭgusto, 1975

Matenmanĝo de la hotelo estis je 6:00. Post la matinmanĝo mi serĉis junularan gastejon, kiun mi jam trovis en gvidlibro, ĉar la junulara gastejo estis pli malmultekosta ol la hotelo. Mi iris, demandante per kiu trajno mi veturu al la gastejo, sed mi ne povis facile atingi tiun gastejon ĝis a.m.9:00.

Tamen la akceptisto de la gastejo diris al mi ke venu denove je 3:00. Mi reiris al la hotelo por elporti mian valizon. Mi povis resti ĉe la hotelo ĝis 12:00, do mi skribis poŝtkartojn al Japanio kaj ĉi tiun taglibron.

Post eliro de la hotelo mi enmetis mian valizon en lukoston ĉe la stacidomo, kaj mi vizitis botanikan ĝardenon. La ĝardeno estis tre granda, bela kaj bona. Mi fotis multe sed mi ne povis resti tie longan tempon bedaŭrinde.

Mi alvenis al la junulara gastejo(Y.H.) je 3:30. Tie mi vidis multajn japanajn junulojn. Vespere kun unu japana studento, mi promenis sur la stratoj de Frankfurt. Ni estis tre soifaj. Eble tio estas pro varmecco kaj sekeco. Ni revenis al la gastejo por manĝi..tre malmultekoste.

Tie ni alparolis al du hindaj junulinoj. Ili estis tre malaltaj kaj lernas en Parizo. Ili parolis multe al ni angle.

(daŭrigota)



()内年令。1.前田(15) 2.山崎(15) 3.登地(17) 4.小笠原
 会長、5.児玉理事、6.花光(第13)、7.橋本(15)、8.小原(15)
 9.奥村講師、10.鈴木(15)、11.花光(姉16)、12.福原 応援、
 13.有地(17)、14.井沼(14) 1934年(昭和9)吹上小学校

緑丘漫筆 (2)

前田米美

昭和9年(1934年)の夏休み、当時広島高等師範学校の学生だった奥村林蔵先生は、詰襟の学生服で私たちの前に現われました。いならぶ生徒たちはほとんど私の小学校同級生で、当時中学2年生。男女あわせて11名。背広ネクタイ長髪七三分けの大人がりっぱな人だと思っていた私たちの、前に立った奥村先生は丸刈り頭の学生服だから、はじめはちょっとタヨリないなと……。ところが講習は黒板をほとんど使わない。

Kiu vi estas? Mi estas Yamazaki.
 Kio vi estas? Mi estas japano.
 Kie vi loĝas? Mi loĝas en Wakayama.

生徒同志のやりとり。そして最後に、Bonan tagon, amiko. 今思えばこれは正に Cseh-Metodo. そして耳と口からの学習は印象強烈でした。家に帰ってからも、Bonan tagon, amiko. とやるものですから、私の母も死ぬま

でこれを覚えていて、1965年フランスからロバール夫妻が来た時も、一発 Bonan tagon とやって、ビックリさせました。

というのは、第1回目かなりの量の(文法的に見れば)エス文を、全部暗記しておいでといわれたからでした。第1日から、Cu……? があり、Jes、Ne で答え、世界の国名も数個。英語と混同の心配? 全然ありませんでした。耳にひびく音は全く違っていたから。書いてある通りに読む! これが中2英語で苦しんでいた私たちに実にありがたいこと。暗記についても、皆幼いやわらかい頭だったから簡単。講習11日間で、第4日、サンタルチアをエスペラントで歌い、福原フミ子さんというすごい美人が応援に来てエスペラントで話し、私たちすっかり感激。第8日にはもう短い手紙文。最終日まで、手紙文5例、歌3つ(サンタルチア、君が代、Espero)そして、エスペラントの精神がしっかりと胸に住みつきました。

翌年4月の春休み中、この生徒たち数人が小笠原氏郎に集まって、どっさりたまった“La Suno”の反響の手紙の整理に当たりました。“La Suno”第1号は既に、昭和9年10月27日に発行されていましたが、それまでにも、ヨーロッパを中心に広く読まれていたエスペラント誌“Heroldo”にのせた文通希望広告への申し込みが殺到し、それに対して手紙形式の印刷物の返事でまかなっていませんでしたから、この頃には文通希望、“La Suno”送ってはしい、“La Suno”の記事への意見、批判や反論、それにまじって、Ieter-chenoや各国のEsp.雑誌がぞくぞくと小笠原氏宅に届いていました。私たちのEsp.の力ではこの整理は遅々として進まず、時々松田勝彦さんと呼んだりして事務にあたっていました。なかなか処理し切れませんでした。来た手紙の名簿も作りましたが、それも1200~1300くらいもあり、ほとんど世界各国、小さな国にまでわたっていたように記憶しています。この時にはわたしも、『エスペラント』でたいしたもんだなと思いました。

さて、新しいエスペランチストの養成が急務でした。昭和10年の夏休み、再び奥村先生が和歌山へ呼ばれて、講習会が開かれました。

この辺の事情をもう少し詳しく補って、奥村先生からの投稿を載せましたので、紹介いたします。

 * 私と和歌山の *
 * エスペラント *

奥村 林蔵

田中正美氏のエスペラント漫筆に続いて、前田米美氏の緑丘漫筆。いよいよ機が熟した感があります。

私が広島にいた時、広島エス会の会誌が発行され、その3号から私が3年間編集発行を担当。

毎号 Taglibro 欄を設けて県内市内のエス関係記事を漏らさず載せました。また「広島エス運動講話」欄を随時設けて古老の思い出話、探し出した古文書、古記録、エス雑誌のバックナンバーの再検などを克明に載せました。そして広島を去るに当り、それらを整理して、Esperanto-Movado en Hiroŝima 1冊(人名篇と事項篇)をガリ版で印刷して関係方面に配りました。広島が私の手にちょうど手頃、大きすぎず小さすぎずで、うまく仕上げました。

和歌山もちょうどそんな感じですが、今からそういう心づもりでやり始められる時期と思います。

さて、私の和歌山でのエス活動は――
 昭和9年7月、大阪の進藤静太郎氏(当時のKR, ano de Konstanta Reprezentantaro de Naciaj Societoj、今の Ĉef-Delegito のような役)の推挙で、和歌山市の国際日曜学校のエスペラント講師として、8月2日市電『兵舎前』で下車し、小笠原登志大氏邸へ着き、中二階へ泊めていただき、12日まで10日間の講習をしました。

会場は吹上小学校の教室。生徒は近所の少年少女で和歌山師範生、和歌山中学生、吹上小学校児童などでした。

はじめの5日は問答を主とし、あと5日は黒板を用いて文章をやりました。授業は午前中だけで午後はみな一籍に遊びました。

第2回目は昭和10年7月26日から8月4日まで、午前中で、今度は文通を主としてやりました。何分小笠原氏の発行された La Suno で文通申込みが殺到し、何とか相手のできるのが前田くんだけなので、大急ぎで働き手を養成する必要があったわけです。

両年で出席した生徒は
 前田米美、松下正行、山崎金次郎、小堀秀雄、高木 弥、堀本 正、吉田信隆、花光みどり、鈴木てい、井沼しず、有地(女)、花光(弟) (次頁へ)



1935年(昭10)
 小笠原氏宅前撮影

La Ŭakajama filio de la Japana Internacia Asocio Ĝiusomere okazigas Esperantan kurson. La bildo montras la kursanojn en la lasta somero. (De maldekstre dekstren) La fronta vico: F-ino T. Ĉida, S-ro K. Ogasawara, S-ro J. Ogasawara, F-inoj M. Hanamicu, kaj H. Kiŝi. La posta vico: S-roj K. Jamasaki, U. Takagi, N. Joŝida, R. Okumura, J. Kumagae, J. Maeda, kaj M. Macusita.

小笠原謙三、熊谷(男)、山田(男)、橋本(男)、登地(男)

の諸君で、続いた人もすぐやめた人もあります。

応援に来ていただいた人々は
進藤静太郎、松田勝彦、松本鼎、福原扶美子、岸浜子、西村正雄の諸氏。利

大人の講習生には、千田鏡子、出津野健蔵の二氏。このお二人、前者は今和歌山で、後者は横浜で今も尚エスペラントを続けておられる。

主唱者の小笠原啓志夫氏はご自身エスペラントはなさらなかった。又この仕事の世話をなさった児玉稔氏は商工会議所の職員であったかと思う。

国際連盟に協力する日本国際協会和歌山支部の子供部として、日曜学校を小笠原氏が設立され、和歌山商工会議所のえらい役におられた関係で、そのの所員の児玉氏が協力された。これが昭和4年7月7日のこと。昭和4年9月15日、第15回会合で国際日曜学校と改称、昭和9年エスペラントを本式にとりいれることとなつて私が呼ばれたとのことです。

和歌山エスペラントで特筆すべき la Suno の発行、その後消滅に至る経過、緑丘会の創立などは、前田氏がいずれ詳しく書かれると思う。

ただ、la Suno の内容は小笠原氏、エスペラントの世話は進藤氏、松田氏らであったことを私が書いておこう。

昭和何年であったか緑丘20周年かに、生野

高校の生徒をつれて和歌山を訪問したことがある。児島壯一氏も来会された。

その他に1回、小笠原氏のご遺族が北の方へ転居なさるので、おわかれの会をとのことで和歌山を訪れ、小笠原氏宅で前田君らと奥様、2令嬢とで別れのお茶をのんだことがある。

私のエスペラント生活は広島での4年、和歌山での2回、生野高校での37年。広島の4年のまとめはすでにすんだ。和歌山での2回のまとめは今ここにできた。生野での37年はこの9月に4冊の活動記録として製本されることになっている。

昭和53年アテネでの世界エスペラント大会で、白髪の初老会員から、la Suno の残りはないか、私は昔 la Suno を送ってもらっていたが戦争のためなくした、探してくれぬかとのまれたことがある。帰国後 la Suno の第1号を送り、中の写真の1人に印をつけて、これが当時の奥村だと書き送ったら『おぼえてる！』と言って来た。今ダダベストに在任の D-ro Canéby

とにかく和歌山のエスペラントはなつかしい嬉しい。前田君がいる。桐蔭高校生だった江川君がいる。千田さんがおられる。千恵子さんがある。VMのバズルへ生高生から投書して賞品をごっそり横取りしてしまう。県外の者が編を利かせては悪いと思いつつも、ついーすみません。(59.7.5)

SERIOZE

編集発行、和歌山緑丘会 〒640 和歌山市小松原6-1-6、前田米美方 TEL 22-8660

年間会計報告 558.11.21~59.10.13. 中島

[収入]	前年度繰越	31041	
	会費	72600	右へ参照
	JELの団体割引	9360	JEL ETEC KLEG 2600
	Z祭の準備へ寄付	2710	
	Z祭の時の寄付	6000	
	計	121711	

[支出]	印刷費	46,440	緑丘12,2,4,6, 8,10月号まで
	通信費	23,320	切手ハガキ封筒
	会議費	9,070	Z祭結果、来客講演費
	交際費	8,180	緑丘紙、中元
	事務用品費	19,200	お札紙、白紙
	計	106,210	

差引次年度へ繰越 15501 緑丘12月号、Z祭用にあてます。

本年中会費拂込者(略敬稱): 橋田、牛島、江川、大谷、岡垣内、木下、楠本、小林、酒井、櫻谷、高橋、田中、谷上、辻、殿井、畑中、長谷川、福本、舟尾、堀川、前田、松下正、松下宏、松下正、宮本、吉田 計26名

ザメンホフ祭

日時: 12月8日(土) 午後1時~4時30分
場所: 県職員会館
県庁前バス停 西 300m
会費: 500円

詳細は次号または別便で。

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA -Yonemi (dumonata) N-ro 26

VETERO

Ankoraŭ neĝas.

Ĉirkaŭ tagmeze Tondris.

Hieraŭ nokte estis malvarme.

Matene nebulis sur la montoj.

Morgaŭ estos nuba vetero.

Plaĉas al mi babili apud forno en vintro.

Mi ankaŭ tre ŝatas skii.



KORESPONDEME

初心者のエスペラント文通 (3)

辻 千早

前にも書いた通り、私は小さい時、ハンガリーのイルマ・フォンカさんと文通したことがある。文章は父が書き、返事も訳してもらった。その文通はすべて美しい絵葉書であり、又その切手も美しかった。それらの切手も絵葉書も、長い年月の間、ほしい人にすべて差上げたので、1枚も残っていない。

カーラ・アコールさんとの文通はもう8回になるが、一回平均4枚の美しい切手がはってあり、そして一枚として同じ切手がなかった。私が絵を描くというので、苦心して記念切手をはってくれるのだと思う。そこにカーラさんの優しい心遣いが偲ばれる。私の記事も最終回をむかえた。彼女が日本の習慣を知りたいというので、お祭の話や写真を送った。それに対し、彼女は回教国最大の祭(Aid)について書いてきた。

La 30-an de junio okazis en nia

lando granda mohamedana festo "Aid". Tiu festo sekvas la monaton "Ramadan". Oni ne devas manĝi kaj trinki ekde sunleviĝo ĝis sunsubiro. Oni manĝas nur vespere kaj nokte dum unu monato. Tiu monato finas per "Aid". Ĝi komenciĝas tre frue matene. Ĉiuj homoj iras al tombejo. Tie oni sidas ĉirkaŭ tomboj de siaj gefamilianoj. Oni atendas ĝis la pafado de Kanono, kiu anoncas komencon de Aido. Poste ĉiuj bondeziras unu al alia kaj revenas hejmen. Tie oni matermanĝas diversajn sukeraĵojn. Oni ankaŭ preparas specialan manĝaĵon, salitan fison, kiu estas preparita per cepo kaj sekverbenoj. Bongusta manĝaĵo. Dum tiu tago homoj vizitas iliajn gekonatulojn



Bildokarto de "El Jem"(Tunizio):Koloseo

kaj bondeziras. Oni devas senti amikemaj kaj gajaj. Infanoj vestas sin per novaj vestaĵoj kaj ŝuoj. Tiu festo daŭras 2 tagojn.

大砲で合図するのも面白いし、子供達が、この祭で、新しい服を買ってもらうのは、遠い昔の、私の子供時代のお正月の風景を思い出して懐かしく思う。

それらの手紙に対して、私は丁度お盆であったので、その説明をした。

それから、私の家の隣がお宮の神官の家であり、その神官が私の義理の弟であるので、何時もお祭を手伝わなければならない。そのため、夏祭のことについて書いた。しかし、東洋の習慣について理解するのも難しいし、私のエスペラントの表現力も大したことはないので、すごく苦勞して理解してくれたようである。

彼女はフランス人でなく、チェコスロバキアの人であると知らせてきた。そして彼女の夫は

織物工場の管理人で活躍している。

彼女は今までアパートに暮らしていたが、やがて新しい家が出る。その時、部屋の壁に私の送ったスケッチを掛けたいと言ってきたが、スケッチでは余りにもお粗末であるので、下手ながら油絵を送りたいと思って、どんなものを描きましょうかと尋ねたが、その返事はなく、申出を感謝していると書いてあった。

しかし、この秋は、秋祭り、亡き母の25回忌法要の準備と後片付け、県展の大作2枚の製作と、退職以来かつてない忙しさで、未だに彼女の所へ送る絵も描いてないし、何を描くかも決めていない。秋祭りも法要もすみ、県展の絵も完成し、やっと彼女の所に返事と絵を送っていないのに気が付いた。いまお詫びの手紙を出したところである。このようにして、彼女との文通は益々頻繁になり、心暖まる文通をずっと続けて行きたいと思っている。

種時<毎口

S-ro Okumura-Rinzo

生野高校1年5組の数学]の時間。

ふとした拍子で「この問題、解けるか。解けたら褒美をやる。」と言ってしまった。そしたら3名の生徒が正解を示して、「先生、褒美ください。何くれるんですか?」

「うーん。よし。昼休みに私の居る生活指導部室に來い。やる。」

ちゃんとして来た3人に与えたのがエスペラント案内、拙著エスペラント1頁文法とEl Popola Cinio 1冊ずつ。

次の数学の時間。「先生、あんなん読めません。字引が無くちゃ。貸してください。」

「そうやね。よし貸そう。放課後來い。」

来た3人へ、宮本・賞名のエスペラント和エスの1冊ずつを来春3月末まで貸すことにした。(学校には50組余りの備付品があるので、22人いる必修クラブのエスペラントの方へ22組貸してもまだ余裕がある。)

そしてその翌日、思いついて、必修クラブ1年生用の教材である“La Varma Sudo kaj la frosta Nordo”のコピーの2ページ分を与えた。クラスの全員が見ている前で。

さて、読んでくれるだろうか。やりっ放しではどうなるか。ひとつ大出血投資をするか?

さて、翌日。考えてこの3人へ葉書を1枚ずつ書いた。タイプで打って、簡単なエスペラント十行程ずつ。赤ペンで語幹語尾などの区切りを辞典で引きやすいように付けて。宛名もエスペラント。ただし差出人は匿名で。

さて結果は?---

「先生、読めましたよ。判りましたよ。」と3人とも。よかった。120円投資の効があった!!

1日して、何と、エスペラントの葉書が1枚私あてに舞い込んだ。宛名もエスペラント書き、挿画まで添えて。(それが下のもの。)

Kara mia amiko

Bonan tagon! Kial vi fantos?

Vi scribas al mi la leteron de Esperanto tial mi esprimos al vi dankon.

Mi ŝatas Esperanton.



Ĉiu vi estas?

Sincere via.

Mr. OKUMURA

まことにこれは驚き、桃の木、山椒の木である。

すっかり感激して、今度は絵葉書(去年UKの途中に通ったレニングラードのもの)に又タイプで簡単な文を、赤ペンで区切りを加えて送った。

そしたら相手もさる者、アラスカの北極狐の絵葉書で反撃して来た。

27/VI/1984

Kara Mia Amiko,
Ĉi poŝt-karton estas ajo kioŝ
mi aĉetis en ALASKA. ALASKA
estas tre nordo, kaj ALASKA
estas tre frosta. Mi iris tie
en somero, kvankam tie estis
frosta. Sed tiea naturo estis
bela kaj impona.
Via sincere
S-ro Kubo-Hisaŝi.

又またびっくり。いよいよ本物。ではーと今度は便箋に十数行をタイプで打った。しかし期未考査も近いし、夏休みに入れば私はカナダの69 UKにいて返事もまなるまい。この

辺で独り立ち出来る手段を示さねばならぬ。そこで、文末に次の3行を書き加えた。

“Venu al mi en la ĉambro Seikacu-Sidoobu. Mi donos al vi lernolibron de Esperanto. Per ĝi, vi mem lernu Esperanton”

さて、これの返事は来るか。そして生活指導部室へ「先牛、どんな本くれますか。それから外国の少年少女のアドレスもあるそうですがー」と買いにくるか。

必修1年生に指導して、韓国エス会へ無料でくれる美しいカラー写真パンフレット Koreujo (オリンピックと国状紹介の政府後援の出版物。説明全文エスペラント)の申込葉書を書かせたとき、指導プリントを余分に3組作って置いて、この3人にも配っておいた。そのプリントを読んで自分で韓国へ pet-letero を出したのだろうか。

必修1年生は22名いるが、部活動のエスペラントは2年女生徒1人きりという惨状。

あれやこれや考えて、浮いたりしょげたり
の今日この頃でございます。

(59年7月4日)

LEGINDA LEGENDO

Tondro

Ianak-M

Tondroj loĝas en la ĉielo. Dum la somero ĝi ofte aperas antaŭ ni kune kun ĝiaj filoj.

Kiam ni estis infanaĝoj, se venas fulmotondroj, ni rapide rifuĝis en la moskito-vuaion, kovrante per la manoj sian umbilikon.

Se vi vizitas Kojasan-Sanktejon, kie vi povas trovi multajn kaj grandajn cipresojn, kriptomeriojn tie kaj ĉi tie. Inter ili vidiĝas duone kadukiĝintaj arbegoj, kies ŝeloj mizere forprenitaj de la tondroj.

Ŝajnas al mi, ke la tondroj de Kojasan ŝatas mordi la ŝelojn de la arbegoj, pro kio la arbegaj trunkoj fariĝis nudaj sen-ŝeligite.

Ne malproksime de Kainan-si, estas vilaĝo Kizu, kie staras malnova templo nomata Honenĝi sur la monteto. Ĉirkaŭata de densaj multjaraj arbegoj.

Unu el la legendoj pri la tondroj post-lasitaj en la templo, mi volas skribi jene aldoninte mian fikcion.

De antikvaj tempoj la distriktoj de Kizu estis vaste konata pro la fulmotondroj, kiuj multfoje falas celante arbegojn antaŭ la templo.

Ĉiun fojon kiam la tondroj revenis, ĝi for-kondukis vilaĝanon preferinte belan junulinon.

En iu somera tago abrupte komencis fulmotondri kun granda pluvo kaj daŭris ĉirkau unu horon.

Post la foriro de la fulmotondro, la vilaĝanoj ekvidis ke la knabino de la vilaĝo-estro malaperis.

La vilaĝanoj serĉis kaj serĉis sin ĉie en la vilaĝo sed bedaŭrinde ili povis trovi ŝian figuron nenie.

Baldaŭ, kiel strange, la knabino vivante sin trovis antaŭ la vilaĝanoj

post tri-tagaj for-estoj portante pak-aĵon kun si.

Kun ĝojo la vilaĝanoj ĉirkaŭis ŝin kaj demandis.

"Kiel vi pasigis la tempon dum tri tagoj?"

"Mi iris kun la tondroj al ĝia Komunumo en la ĉielo. Ili akceptis min tre varme kiel la gaston el la sub ĉiela mondo."

"Kion vi portis kun vi?"

La knabino respondis.

"Mi ricevis donacon de la ĉef-tondro kiam mi revenis."

"Kio estas en la pakajo?"

"La kestoj estas totale tri, kiuj super metitaj."

Klarigante knabino forigis la kovrilon de la plej supra kesto.

"Bonvole vidu."



Rigardante la enhavon de la kesto, la vilaĝanoj konsterniĝis, ĉar tie multaj okul-globoj estis vice aranĝ-itaj. Kaj la meza kesto estis plen-plena de umbilikoj.

La vilaĝanoj plue postulis al ŝi montri la lastan keston, liam ŝi obstine rifuzis ilian preponon.

Ŝi firme premante la keston per

ambaŭ manoj diris.

"La ĉef-tondro diris al mi, kiam mi ricevis de li donacon, ke la suban keston mi neniam devas montri antaŭ la publikoj. Ĉar ĝi estas alt-valoraj propretoj de la inoj."

La vilaĝanoj ne postulis pluan kom-enton krom kelkaj esplor-amantoj...



VOJAĜEME

Proksime al fraŭlinoj

Hasegaŭa-
Joŝifumi

La hindaj junulinoj estis tre malaltaj kaj ili lernas en Parizo. Ni iris eksteren por trinki cidron. Ni serĉis tiun trinkaĵon longtempe, sed ni ne povis trovi la vendejon. Tial ni trinkis bieron. Mi ne ŝatas bieron bedaŭrinde, kaj ankaŭ ili hindaj.

Du hindaj studentinoj kaj la japana studento multe parolis sed mi ne parolis multe, ĉar mi ne povas paroli bone anglan lingvon kaj

bedaŝrinde ili ne povas paroli Esperanton.

Ni revenis al la gastejo je 10:00. Ni promesis rendevui kune en Heidelberg morgaŭ je 2:00 antaŭ tiea turisma informejo. Hindinoj iros per "pet-veturo", kion ili trovos sur la vojo, dum ni iros per trajno.

la 7-an de aŭgusto, 1975

Mi matenmanĝis panojn bongustajn en la gastejo. Mi rezervis hodiaŭan tranokton en ĉi-gastejo.

Mi kaj japana amiko Inamura iris al la stacidomo Frankfurt, kaj veturis al Heidelberg.

Ni serĉis sidlokon apud fraŭlinoj. Mi sidis apud fraŭlino kaj la patrino usonaj kaj li sidis apud ĉarmaj italaj virinoj feliĉe. Mi parolis kun la usonaninoj kaj li kun la italinaj.

La italinaj ne povas bone paroli anglan lingvon, tial mi parolis en Esperanto, ĉar Esperanto similas al itala lingvo. Ni povis bone kompreni

la paroladon. Ili loĝas en BARI en suda Italio kaj hodiaŭ ili tranoktos en Heidelberg. Ni multe parolis en la trajno. Ni intencis iri kun ili, sed ni vidis la hindinojn. Ni devas iri kun la hindinoj, ĉar ni promesis al ili hodiaŭan akompanion. Ili venis per petveturo sur la vojo, tial ni apartiĝis de la ĉarmaj italinaj.

Post la ricevo de mapo ĉe Heidelberg informejo, ni veturis per urbotrajno.



ザメンホフ祭

12月8日(土) 午後1時~4時

場所: 県職員会館

県庁前バス停 西入る 300m 5又路のつぎあたり

会費: 500円

- ・今年はずかしいお話はやめて、懇親茶話会のかたちでやりましょう。
- ・関西エスペラント連盟から Esp.の本を売りに来てくださる予定。
- ・なにか 飛び入りの、うたやゲームがあるかも。
- ・当日、緑丘会年間会費(1985年分) 拂いこみ受けつけます。2,500円、家族学生1,000円。

会計係 牛島美恵子さんまで。

{〒640 和歌山市 狐島 65の12

・遠くの方は、会費拂込 切手(60円)で代用かまいません。

牛島美恵子 宛

TRAMONDEME

ことしのバンクーバー世界大会の大会宣言です。少数民族の文化と言葉は、諸国繁栄の
かげで、片隅に追いやられ、圧迫をうけ勝ちです。そういう視点から見たエスペラントの
立場は、また重要な意味を持ってまいります。

この宣言の、大へん論理的な箇条書きが簡潔でわかりやすく、最後に *rekomendas* とや
わらかい調子でまとめています。 *pretendas*, *asertas*, *konkludas* とでもやりたいと
ころ。

8頁に拙訳を試みました。訳し方についても、ご批判ください。 UEAの *esperanto*
誌9月号から10月号まで。

(前 田)

KONGRESA REZOLUCIO

Por lingva demokratio en internaciaj rilatoj

La 69a Universala Kongreso de Esperanto, kunvenante en Vankuvero, Kanado, de la 21a ĝis la 28a de julio 1984, kun 802 partoprenantoj el 46 landoj, kaj priirtraktinte la temon *Lingvaj minoritatoj: ĉu nur nacia fenomeno?*,

konstatas

1. ke ĉiu homo havas rajton al sia lingvo kaj kulturo kaj ke la homaro havas devon labori por konservi la diversecon de lingvoj kaj kulturoj, samtempe ebligante socian komunikadon kaj ekonomian kaj socian evoluon;
2. ke en la internacia sfero, same kiel en la nacia sfero, ekzistas fortaj kaj malfortaj lingvoj;
3. ke tiu malegaleco estas rezulto de ekonomiaj, politikaj kaj sociaj kaŭzoj;
4. ke ĝi donas avantaĝojn al la denaskaj parolantoj de tiuj ĉefaj lingvoj kaj metas ŝarĝon sur la ekonomiojn kaj edukajn sistemojn de la landoj kun pli malfortaj lingvoj aŭ kun multaj diversaj lingvoj;
5. ke tiuj avantaĝoj kaj malavantaĝoj estas evidentaj en la ĉiutaga internacia dialogo de la ŝtatoj kaj de unuopuloj;
6. ke ili estas aparte evidentaj en la lingvaj servoj

de la grandaj interŝtataj organizoj, kiuj laboras ĉefe por liveri tradukadon kaj interpretadon inter la grandaj lingvoj;

7. ke necesas rekoni la internacian malegalecon de lingvoj kaj labori por minimumigi ĝin;

8. ke la Internacia Lingvo Esperanto, tra preskaŭ cent jaroj de kontinua uzo en plej diversaj cirkonstancoj, montris sian kapablon ŝirmi la malgrandajn lingvojn kaj meti ĉiun internacian komunikadon sur egalan nivelon;

9. ke tiu lingvo, precipe en kombino kun moderna komunika tekniko kaj novaj progresoj en aŭtomatigita tradukado, donas bonajn perspektivojn por solvi almenaŭ parton de la problemoj de internacia komunikado kaj ebligi grandskalan demokratigon de la internacia lingva komunikado;

10. ke tiu demokratiigo povus doni avantaĝojn al la malgrandaj lingvoj, samtempe ebligante ilian ŝirmigon kontraŭ la altrudo de la grandaj lingvoj kaj kulturoj kaj ilian pli vastan uzadon en internaciaj organizoj.

La Kongreso tial rekomendas

ke la ŝtatoj kaj internaciaj instancoj, la edukaj instancoj en la diversaj landoj, kaj tiuj kiuj respondencas pri interŝtata komerco, turismo kaj kulturaj interŝanĝoj, ekzameni la potencialon kaj perspektivojn de Esperanto kiel lingvo por internacia uzado kaj por la demokratiigo de lingvo-uzo en internaciaj rilatoj.

大会決議

国際関係における
ことばの民主主義のために

1984年7月21日から28日まで、カナダ・バンクーバーで69回世界エスペラント大会が開かれ、46カ国から802人の参加があったが、大会のテーマ「ことばの少数派：それは国内だけの現象か？」について討議の結果
確認事項

1. 人間はひとりひとり自分のことばと文化について権利を持ち、人類は、社会間の交流や、経済的社会的発展を可能ならしめると同時に、ことばと文化の多様性を守っていくいとなみをすべきである。
2. 国際社会には、(多民族をかかえる)各国内とおなじように、強い言語と弱い言語が生きている。
3. この強弱の不均衡は、経済的・政治的・社会的要因によってできた結果である。
4. この不均衡は、主役となって使われている言語を母語としている人たちに特権を与え、弱い言語あるいは多数言語を持つ国々の、経済や教育制度に重荷を与えている。
5. こうした特権と不利益は、国家間や個人間の、日常の国際的な会話の中に、はっきり見られる。
6. この特権と不利益は、強い言語同志の間で翻訳や通訳を主として行なっている大きな国際組織の言語サービス面で、特に顕著で

7. この国際的言語の不平等を見きわめ、それを最小限におさえる活動が必要である。
8. 国際語エスペラントが、ほとんど100年にわたり実に多様な場で使われていることは、弱小言語を守り、いろんな国際交流を同じ対等の立場におく力のあることを示している。
9. 特に近代通信技術と、新しく進展を見せられている自動翻訳とが組合わされる時、少なくとも国際的な意思疎通の諸問題の一部を解決し、言語交流を大幅に民主化させるために、エスペラントは明るい展望を与えている。
10. その民主化は、弱小言語が、大言語大文化のおしつけから身を守り、国際組織の中でもより広汎に使われるようになるという利点をもたらすことになるであろう。

よって大会は以下のことを提言する。
世界の国々、国際的な諸機関、各国の教育関係者たち、それに貿易・観光・文化交流にたずさわる人たちは、エスペラントを、国際的な使用のためのことばとして、また国際関係における言語使用の民主化のためのことばとして、その潜在的な力と発展性を検討されんことを。

(前田 訳)

SERIOZE

- ❖ 主野高校の奥村先生、海都市の田中さんからたのしい原稿いただきましたので、有難く掲載。田中さんの popollegendo は、文字がごまかくなりすぎました。反省しています。
- ❖ "緑血漫筆" また休ませていただきました。次回から "La Suno" を少し紹介したいと思います。どなたか、"La Suno" の N-R04 お持ちの方、おられますか。私の手許にはそろっていませんので、コピーさせていただいたら。
- ❖ 12月8日のザメンホフ祭の時、緑丘会の会費といっしょに、有志の方の、関西エスペラント連盟 (KLEG) と、日本エスペラント学会 (JEI) の、来年度会費仲介拂込の受け付けをいたしま

す。KLEG 年 3,200円 月刊誌 "La Movado", JEI 年 4,800円 月刊誌 "エスペラント" (La Revuo Orienta)。

❖ 例会は、冬休みいたします。

休む日：12月15日 22日、29日 1月4日 11日の各土曜日。

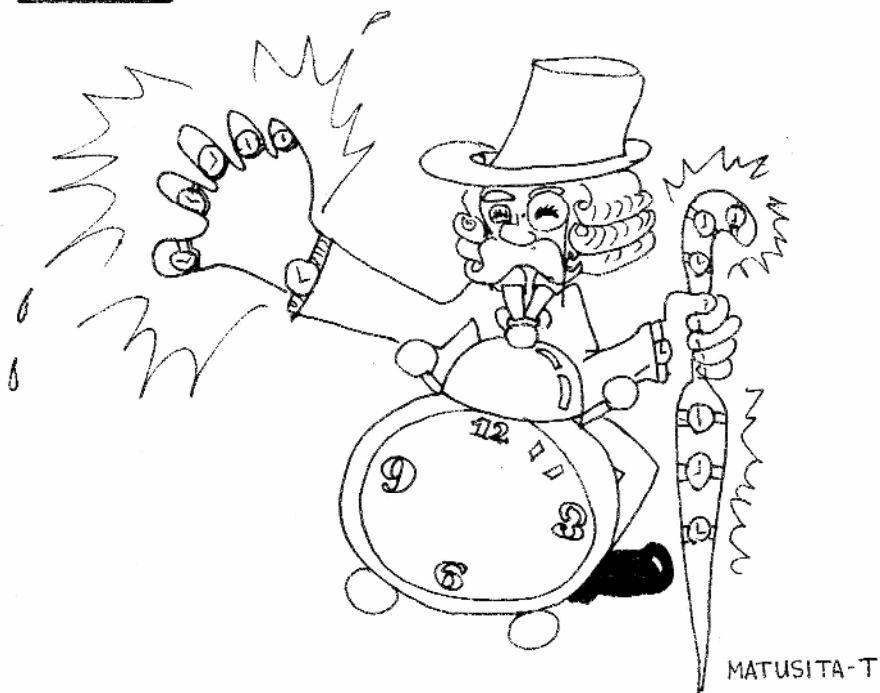
再開日：1月18日 午後2時～4時。

今、例会では、アリヴァ著「Vivo de Zamenhof」の美しい詩のように流れる名文に酔っています。ザメンホフの、感銘深い伝記です。そのほか、世間話、作文のけいこ、簡単な会話、投入読物などによる勉強など。本誌あうけつりの方ほどなたでも、無料で参加見学自由。のぞきにきて下さい。(前田)

VERDA MONTETO

Redaktite ĉe MAEDA-Yonemi (dumonata) N-ro 27

LERNEME



Kio estas tio? Tio estas horloĝo.

Ĉu ĝi estas bona horloĝo?

Jes, ĝi estas bona horloĝo.

Kia estas la bona horloĝo?

La bona horloĝo estas nova.

Ĉu ĝi estas via horloĝo?

Jes, ĝi estas mia horloĝo.

(El Fukumoto-teksto, 71-4)

Pri la rakontoj de TOONO

Tanaka-m

Kiel vi japanoj jam bone scias la libron de "la rakontoj de TOONO", verkita de la folkloristo Janagida Kunio, kiu publikis ĝin unufoje en la fino de Meiji-erao kaj post tiam, ĝis nun, multaj japanoj legis ĝin.

En ĉi tiu libro troviĝas 299 rakontoj, kiuj estas de antaŭaj jaroj tradicie vivantaj dum longa tempo inter la popoloj de la provincoj de TOONO.

Lasttempe iu skribisto publikis artikolon pri la libro "Rakontoj de TOONO" en iu gazeto, kaj li skribis kritikante la libron, ke en tiu oni ne povas renkontiĝi kun am-aferaj rakontoj, kvankam en aliaj provincaj leĝendoj kaj rakontoj oni ofte renkontiĝas kun la tiaj.

Kial en la provincoj de TOONO ne estas rakontoj similaj al am-aferaj rakontoj?

Li havis suspekton, li decidis vojaĝi al TOONO kaj mem esplori tion. Alveninte al TOONO li en ĉiutago vizitadis maljunulojn, kiuj de longe loĝas en la vilaĝo kaj aŭdis multajn rakontojn, kiuj ne troviĝas en la libro de "la rakontoj de TOONO" de Janagida.

El tiuj rakontoj li prezentis al ni ĉi tiun rakonton. Jen!
(aranĝita de Tanaka)

* Personoj *

maljunulo : Ĉefo de la kamparana domo. Li povas paroli sed ne aŭdi.

maljunulino : Edzino de la ĉefo.

matche : makleristo de lignaĵo (*1)

La maljunulo eksentis ke la edzino gajnis monon kaj demandis al ŝi:

"Ĉu vi enmanigis multajn monojn lasttempe?"

Ŝi respondis sugeste per la mano montrante sian sinon kvazaŭ estus mono en la sino. (Ŝi volis esprimi al li; "jes mi gajnis monon.")

La maljunulo plue demandis; "Kiamaniere vi povis akiri monon?" La edzino sugeste montris per la mano sian malantaŭan direkton kaj due forprenis kelkajn harojn de sia kapo kaj ĝin forĵetis en la fajrujon.

La maljunulo diris; "hej, vi vendis kejaki (zelkovo *2) arbojn, kiuj staris en malantaŭa monto. Ĉu ne, mi bone komprenis vin kaj al kiu vi vendis ĝin?"

La edzino respondis geste, komence ŝi etendis sian manon al la femuro de la maljunulo kaj sekve per la mano montris sian postkavon, sugestis kvazaŭ ekpafon de furzo.



La maljunulo: "Oh! mi komprenis, vi vendis al la makleristo Matahe kaj kiom da mono vi ricevis por tio?"

La edzino respondis geste, ŝi rapide etendis manojn kaj kaptis la maljunulon je la testiko (*3), en kiu estas du globoj.

La maljunulo ekkriis kun granda ĝojo: "Oh! jes! Vi gajnis du-rijojn (*4) da mono."

La maljunulo rememoris ion, kion dum longa tempo forgesis kaj fariĝis bonhumora:

"Mia kara, mi estas tre kontenta ke vi kaptis monojn."

- *1. Lia nomo japane "Matahe"
"mata" ----femulo, "he" --furzo
- *2. Kejaki ke----haro
jaki--brurigo
- *3. Testiko : "kintama", kiu signifas
ormonojn laŭ la sama sono en
japana lingvo.
- *4. Rijo : antikva japana monunuco

"Kontakto" (年6回発行)の1984年:6号は、日本特集。ルクセンブルグの Claude Nourmont さんの日本観:

"日本に来て、はじめて驚いたのは、人の多いことではなかった。日本人なら、パリその他、ヨーロッパの大都市へ行けば、いくらでも。驚いたのは、日本人の群集で、カメラの持っていないのに 初めて 出くわした事。 ---- "

Kaptu bonan gvidanton

Hasegaŭa-Joŝifumi

En la trajno de la urbo Heidelberg, ni (mi, Inamura kaj du hindinoj) vidis du germanajn gestudentojn. Ili estas gefratoj kaj gvidis nin al diversaj lokoj en la urbo. (vd. foton en la lasta V.M.)

Unue ni vizitis la universitaton, kie ni tagmanĝis. Poste ni, 6 personoj, vizitis preĝejon kaj kastelon. De la kastelo, du usonaj novgeedzoj partoprenis en nia grupo. Ili intence profitis gvidadon de la germa-

noj. Inamura bone povas paroli anglan lingvon. Mi pensis, ke angla lingvo estas ankaŭ necesa en eksterlanda vojaĝo.

Survoje de nia migrado, la usonanoj apartiĝis, kaj poste la hindinoj ankaŭ. La hindinoj devas frue reiri al la gastejo, ĉar per petveturo.

Mi, Inamura kaj la germanaj gefratoj, 4 personoj, vespermanĝis ĉe malnovmoda manĝejo. Ni tre dankis ilin pro ilia kunestado, kaj ni vespere

次頁
下欄へ
↓



malnovmoda manĝejo en Heidelberg

緑丘漫筆 (3)

前田米美

昭和9年と10年、ふた夏の講習会を受けた
Esperantistojの卵たちにとって、まだ La
Suno誌で小笠原啓至夫氏がどんな事を世界に訴
えていたのか、内容を深く読むことはできませ
んでした。

今、それを読みかえてみて、時代の大きな
移り変わりを感じ、和歌山のEsperantistoj
にとっても、歴史の大きなひとコマと言えら
れます。それをこの欄で取りあげてみたいの
ですが、私としては若干ためらいました。要約
するには、どうしても私の主観が入ってしま
います。でも思い切ってやってみます。

“La Suno” 第1号
発行 昭和9年(1934)10月27日
編集兼発行人 児玉 稔
発行所 和歌山市西汀町1、
和歌山商工会議所内
日本国際協会和歌山支部
編集局 和歌山市豊原町
小笠原啓至夫 方

当時既に満州国が成立し、日本は国際聯盟を
脱退してしまっていたから、発行所の名前には、
日本国際聯盟協会の聯盟の文字をはずしてい
ます。しかし、celo, entreprenoj, laboroj
k.a. de la Ligo de Nacioj は受けついで、
子どもたちに伝えていくと、小笠原氏は、
第1号の巻頭文の中で書いておられます。

P. 1~3 Karaj Samideanoj
—日本人は好戦的だという非難を受けてい
るが、それは誤解。過去2500年の日本の歴史で、
戦争はたった3回。1回は13世紀対モンゴル
の防衛戦、2~3回は19~20世紀の日清、
日露戦で、この戦争の結果極東の小国日本の名
が世界に初めて知られたのだから無理もない。

現在満州で日本は、自国の権利を守るために戦
ったが、これも偏った宣伝の為に誤解されてい
る。こうした誤解を取り除くため、私は日曜学
校に子どもたちを集め、世界との文通を求め、
国際的な友情を促進したいと考えている。昨年
1933年2月にその第1歩を踏み出したが (ハ
ガキ大のアート紙数枚に、日曜学校の写真、名
前、住所などを印刷し、封筒にいれたものを世
界に発送)、その結果現在までに、世界21か国
256人の友だちから、約500通のおたよりをい
ただいた。

その内訳は、アルジェリア1、イギリス52、
オーストリア3、ベルギー2、ブルガリア2、
チェコ13、デンマーク5、エストニア6、フィン
ランド6、フランス2、ドイツ36、ハンガリ
ー5、スペイン10、ユーゴスラビア7、カナダ
2、ラトビア1、オランダ26、ポーランド6、
スウェーデン57、アメリカ1、ソビエト13。—

P. 4 Simioj Parolas

—動物園で猿の親子が、「人間ってなんてバ
カな動物。猿よりも進んでいるというが、進ん
でいるのは人殺しの道具ばかり。宗教・愛があ
るといながら、平気で大量の人殺しをしてる
ね。」

P. 4 Fundamento de mondopaco

—国際交流によって世界平和を築こう。
Pacamantoj sen Esperanto similas al
malsaĝuloj, kiuj penas faligi la
lunon per longa bastoneto.

P. 4 ESPERANTO kaj MALARMADO

—Ŝtatestoj en la mondo! Se vi
unuope elspezos la dekmilionon de la
armado por varbi sialandanon al

apartiĝis. La germanaj ge-
fratoj estis tre bonkoraj.
Mi skribos dankleteron al
ili poste el Japanio.

Ni du revenis al la gastejo.
Tie mi vidis japanan studen-
ton, kun kiu mi, antaŭ kelkaj

tagoj, envagoniĝis de Kopen-
hago al Germanio.

La samĉambranoj en la gast-
eja granda ĉambro, ĉiuj est-
as japanaj junuloj. Eble
japanoj en la gastejo nomb-
ris 20.

(daŭrigota)



JARO 1

N-RO 1

REDAKCIO: Ĉe J. Ogasawara,
Tojohama-ĉo, Ŭakajama-ŝi, Japanujo:

Karaj Samideanoj!

J. Ogasawara

Oni havas eraran konstaton pri nacieco de japanoj, kiuj bedaŭrinde ricevas riproĉon militema. Ĉu la riproĉo estas trafa? Mi diras, ke ne; ke oni neniom scias veran econ de japana nacio. Kial kaj kiel mi povas diri tion al vi?

Jen rigardu la historion de japana nacio! Kiom da fojoj ili militis kontraŭ alia nacio? — Nur tri fojojn. Mi diras, nur tri dum 2,500 jaroj de la unua Mikado ĝis la

Esperanto, vi povos ŝpari duonon de la elspezo por armiloj post 5 jaroj, ni kredas.

la mondo povus fini militon"

P. 5 (日曜学校の子も達の写真: 本誌 N-ro 23. 1934. julio にのせたもの) — 1929年7月7日始めての会合。15人集まりました。この写真は、1930年9月28日に取ったもの。

P. 5. Elspezo por Armiloj kaj Homa Vivado

— Se la mondo elspezus por armado nur duonon de la nuna elspezo, la laboristoj povus akiri pli da libertempo kaj uzi ĝin por sin kulturi: Ĉiuj havus feliĉan dimanĉon.

Anatole France diris: "La infanoj de

(つづく)

マスコミの報道は強国中心の世界を表わしているが、一方、対等な国際関係を目指すエスペラントのもの見方は、それぞれ独自性をもつ諸民族の存在を想起させる。個人レベルの国外との文通の手段として最速、貴重。(東京 "Aktuale" 誌, 1月, アンケート特集号 より, 大丸文雄さん)

昭和九年十月十七日印刷

編

KORESPONDEME

スイスのおじさん

殿井 梅子

私の文通相手を紹介いたします。スイスはベルンに住むジャン・ルーファさん (Jean Ruffer)。福本さんのご紹介で私との文通がはじまったのは、1978年の終りころ。

第1回目の彼の自己紹介の手紙でお分りのように、この紳士は色々な趣味をお持ちのようで、就中テクテクと自分の脚で遠歩きをするのが

楽しみのように見受けられます。お年は前田先生と同じ位の方ですね。残念なことに、この方はどのようなお仕事をなさっているのか、ご家族構成はどうなっているのか edzigata oficisto da 58 jaroj というだけでそのほかは、全然わかりません。

bern, la 19-an de decembro 1978

estimata samideanino,

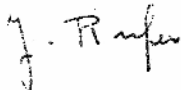
ĉu vi deziras korespondi kun mi?

mi estas edzigata oficisto da 58 jaroj. mi interesiĝas pri la perpieda turismo, pri la lingvoj (esperanta, franca, germana, itala, angla), pri la sciencoj, pri la religioj, pri la ĉiutaga vivo, k. t. p. mi kolektas bildkartojn.

mi ricevis vian adreson el s-ro fukumoto hirotsugu.

mi deziras al vi benitan kristnaskon kaj feliĉan novjaron kaj atendante vian respondon, mi salutas vin sincere.

S-ro Jean RUFER
poŝtrestante
* CH - 3000 Bern 12 Marzili *
Switzerland



* - * = sur unu sola linio!

さすが立派なエスペラントですね。彼は又語学の達人のように思われます。第2回目の使いではエスペラントの他に、仏、独、伊、英のどの語で書いてもらっても結構だと言っておられます。

"Vi povas skribi al mi en la esperanta, franca, germana, itala kaj angla lingvoj. Sed mi nur respondas en la esperanta, franca kaj germana lingvoj.

(つづく)

前号でおたすねしました La Sund N-R04は、江川氏からご提供いただき、おかげで、N-R08まで、編集生の手許にそろっています。

★ 1985年度(昭60年)分の緑丘会費(年2500円)を、昨年12月末までに、下記の方から、確かにおいただきました。ありがとうございます。敬稱略させていただきます。

牛島美恵子、江川治邦、大谷宏治、岡垣内匠、酒井利子、高橋千恵子、田中正美、谷上屹、辻千早、殿井梅子、長谷川好史、福本博次、舟尾公男、前田米美、松下享代、松下弘幸、松下 宏、万賀伊津子、宮本勝正、宮本美乃里、

★ 緑丘会費は、年額2,500円、学生家族1,000円です。携い込みは、切手(60円、10円、40円)でもけっこうです。郵便の振替口座を開くのは、お金の出し入れ回数の少いこの会の会計にとっては、却って不便で、不利です。携い込み先：〒640 和歌山市 孤島 65の12、牛島美恵子 宛。

★ 会費は主として、この雑誌の印刷や、発行費用にあてています。印刷費は100部で7,800円、発送費は4,000円、1回の発行に当り、約12,000円くらいです。年6回発行すると、72,000円。

★ 現在(1月25日)緑丘会のふところぐあいは? 12月末までの会費収入は、48,500円(2,500円×19+1000円)。12月から1月にかけて、緑丘12月号印刷・発送、2条の費用の支出と、JEI、KLEG 会費団体割引や図書売上拂戻金などの収入 及び、前年度繰越15,501円差引残高は45,878円。緑丘誌年発行4回足らずという、会の会計はじまって以来のピンチ(Krizo)となりました。今までは、3年前の機関誌受賞40,000円の上に、初等講習会からの会費収入があったのですが、講習会からの収入が殆んどなくなっています。

★ そこで、対策案を2-3つ。

① 印刷部数、発送部数をへらす。

印刷部数は、100部よりへらしても印刷費は変わらないのです。(100部よりふやすと急に高くなる。)

発送部数を減らすのも、60円×4だけたすかりますが、あまり会計の足しにならないようです。

現在発送先は、他のEsp.団体、各新聞社・文化団体などの15部を含めて、80部。これを減らすのは、緑丘会の主旨や、この会誌の使命から考えて、避けたいと思います。

② 「緑丘V.M.」の発行回数年6回をへらす。(編集生にとって、6月、8月は大会シーズンで忙しいから、この月がありがたい)。また(は、むかしのように自費発行する。この場合、発行月を定期的にしない。

③ 会費を値上げする。毎年12月のザメンホフ祭に会費を集めていますので、少し時期遅れですが。

④ 第三种郵便物認可?の条件に、「緑丘」誌は、とてもとどきません。

○ くどくど書きましたが、結局、大変あつましいことながら、この雑誌を評価していただき、会費未納の方に、納入をお願い申しあげます。ご寄付勿論ありがたくいただきます。

○ その他、この件について、ご連絡なくご意見あ寄せください。

★ その他の会のうごき。

例会 毎週土曜日午後2:00~4:00、雇職員会館。Vivo de Z. 第6章。歌 La Karulon si sopiris. 三題ばなしの会誌。

講座 毎水曜日午後6:30~8:30、県職員会館。

毎木曜日 午前10:00~12:00、聖愛幼稚園。

和歌山市 吹上4丁目3-45。

1985年1月27日

7-700と巻紙例文 福本博次

さしえ 松下享代

編集 前田米美

〒640 和歌山市 小松原6丁目1-6

TEL (0734) 22-8660

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA-Yonemi (dumonata) N-ro 28

LERNEME

Ĉu ili havas paperon?

Ne, ili ne havas paperon.

Kion ili havas?

Ili havas gazeton.

Kian gazeton ili havas?

Ili havas Esperantan gazeton.

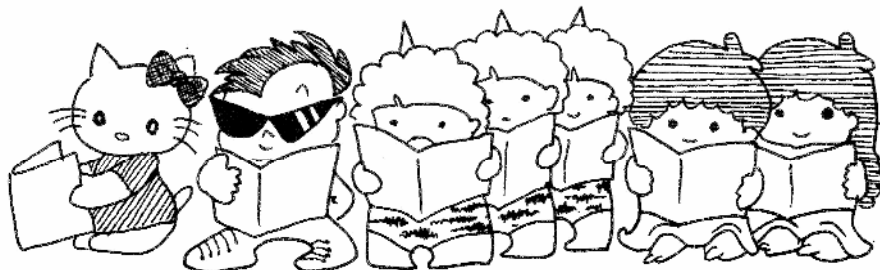
Kia ĝi estas?

Ĝi estas multe ilustrita.

Ĉu ĝi estas interesa?

Jes, ĝi estas interesa.

(Fuku-Teksto 35-5)



MATUSITA-T

緑丘漫筆 (4)

前田米美

私は大正9年、1920年生れて、La Suno の第2号が出た昭和10年では15才、和歌山県師範学校の1年生でした。学校は自宅から歩いて10分位のところにあつたのですが、当時の学制で、師範学校の本科生は、5年間の修業のうち、3年生までは強制的に寄宿舎にはいました。この寄宿舎生活3年間と、昼間の時間割にある学校教練とで、軍隊教育のようなものを受けるかわりに、卒業後の兵役は5ヶ月（普通は2年間）に短縮されるという短期現役兵制度という特典がありました。

当時満州国が既に成立し、美濃部達吉博士の天皇機関説は否定され、翌年の昭和11年には2.26事件が起っています。特高は左翼運動を徹底的に弾圧し、プロレタリア・エスペランチストの多くは収監され、そうでないエスペランチストも尋問されたりしたようでした。

師範学校では、松下(正)、吉田、前田の3人がエスペラントクラブ「緑丘会」発足させ、昭和13年頃から、本誌の前身「緑丘」を発行したり、近在の中学生を集めて講習会を開いたりしましたが、警察から尋問を受けたことはありませんでした。小笠原氏の protekto もあつたのだろうと想像しています。しかし師範学校の先生方からは、「エスペラントというのはコスモポリタンで、国家を認めないから、日本の国体に合わない」と批判されましたが、私がドイツのエスペラント文通相手から送られてきたヒトラーユーゲントのグラフ雑誌を某先生に見せたら、「これはすばらしい。いいことをやってるね。ちょっと貸してほしい」と持っていかれたままになってしまいました。一方早くから（大

正12年）エスペラントを採り入れていた大本教は、不敬罪と、軍部の革新派と結託しているということで、昭和10年12月8日大弾圧を受け、この師範学校の先生方教人も、大本教に関係しているということで、警察から呼び出し尋問を受けたという噂が、学生の間にとんと広がりました。

当時こうした情報は、口コミと新聞くらいしかなかったし、その新聞もろくに読まなかった私たちは、うす気味悪く、ただ日々の先生の講義をうのみに信じるばかり。既に言論統制はこうして着々と進められていたのです。

この頃の師範生は、『将来天皇陛下の赤子をお預りし、育て奉る「聖職」に就くのだ。しかも「一旦緩急アレハ義勇公に奉シ」一命を鴻毛（こうもう）の軽きに比し、家族への心配は二の次で、戦場に花と散るのは男子の本懐』と、全く素直に信じて疑わなかったのです。個人よりも、社会や国家の方がずっと重い時代、それに神までが参画して、がっちり固められました。

私達はいわゆる戦中派、何か目に見えない大きな力、実は後から考えれば、軍の上層部やそれに近い政治家や経済人の野望だったので、その大きなキカイの中の小さな歯車をもって自ら任じ、満足していました。しかも極度に少ない情報、それも完全に統制されていましたから、そういう事態を批判し抵抗することも知らず、無邪気に張り切っていました。戦後派の皆さん、戦争を知らない世代の人たち、それに当時危険を冒して反戦運動をしていた人から見れば、卑怯ないいわけと言われても、反論の余地

はありませんが、戦争というものは、一般大衆から見れば、ほんとうに知らないところで誰かがひそかに計画し、そんな体制が作られていて、この場合新聞マスコミも全面的にはアテにならない、そして気が付いた頃には坂道をころがり落ちるように突き進んでいってしまう

monstração。私の同級生や戦友たちも皆素朴に信じながらたくさん死んでいったし、私にしてもじゅう分その覚悟はしていたのに、何かの間違いかのように残^せ残り、今でもあの人たちをふみ台にして生きているというような感じは、拭い切れません。

小笠原善志夫氏にしても、当時のこの大きなワケ内では、私たちと同じようであったと思います。それでも、英語をよく話し、英字新聞にも目を通し、外国人にも友人があって、かなり世界事情については一般人よりも、くわしい人でした。国内新聞ではわからないような各国の思わくなどを、私たちにもおもしろく、わかりやすく話してくれました。国際協会から発行されていた時事雑誌（これにも問もなく政府の検閲がはいり、紙質も悪くなっていて、しばらくして休刊）も、目を通したあと、私たちにも読みなさいとあって、まわしてくれましたが、むつかしい政治経済の用語が並んでいて、私たちには半分も理解できたでしょうか。

明治元年生れですから、昭和10年で68才、でもかなり元気で、私たちが小笠原邸の応接室に集合すると、緊張してせかせかと歩きまわり、肘かけ椅子に腰をおろすと、盛んにゴマ塩の口ひげを撫で、その手を振って懸命に話していました。奥さんは早く亡くされて、長男は小笠原道生氏、この頃文部省の体育局長をされていた。娘さんも二人おられたようでした。後添の奥さんは、私たちにお昼のカレーライスや、おまぜごはんを作ってくれた人で、「ハツ

！もう出来たか。」「はい、エま（今）できま^す。」ということで、お名前のハツ（初）は、私たち悪童もよく記憶していました。その子どもさん方は、謙三さん、泰子さん、静子さんで、当時小学生だった謙三さんが私たちといっしょに、エスペラントを習っておられました。

さて、こうした世界情勢に明るい小笠原さんも和歌山の片田舎で接する新聞ラジオ雑誌の片よった情報だけでは、どうにもなくなっていきます。昭和10年2月蒋介石は日中提携を唱え、排日運動を禁止し、小笠原さんも La Suno誌上でそれを歓迎しましたが、中国にホウハイとして起った抗日運動は抑え切れず、11月には汪兆銘と共に何者かに狙撃され、汪兆銘は重傷を負いました。昭和11年は抗日運動が最高潮になり、上海の日本租界や広東省などで、日本人が狙撃されたり殺されたりし、昭和12年には7月遂に問題の蘆溝橋事件に端を発し、日本軍は中国大陸で行動を起こし、11月杭州湾上陸、そして同月、日独伊防共協定が結ばれて、坂道の上では、ブレーキどころか加速さえつき始めてしまいます。（勿論これは、日本側から一方的に見た事件のならばかたです。）

ほんの2～3年後には、このような展開になるとは、小笠原さんにもまだ予想もできなかった昭和10年の“La Suno” N-R0 2 は、aとbの2分冊になっていて、aは成人向の時事論説4ページ建て、bは青少年向の写真入り日本紹介判6ページ建てになっています。

N-R0 2A では、世界各地の血なまぐさい紛争に警告を発しながら（南米のボリビアとパラグアイ、イタリアとエチオピア、オーストリア宰相とユーゴ皇帝の暗殺、フランスとソビエトの同盟によるドイツ封じこめなど）、日本の立場を弁明し、“La Suno”の論調への投稿批判を求めています。この号に出ている Letero

el Niaj Amikoj に、オランダのD. L. さんからのものに：

Esperanto ne povas alporti la pacon. Zamenhof samkiel vi, forgesis ke krom lingvo-diferenco ekzistas alia, pli terura diferenco; la klasa diferenco... nome riĉa kaj malriĉa. Kapitalisto kaj laboristo. Kaj Esperanto neniam povos interpacigi ilin. Mi ne konsentas pri la esenco de "La Suno". Ĝi estas tro pacifista. Pacifismo via nur havas valoron en paca tempo sed en tempo de milito ĝi valoras mal-multe aŭ neniam....

N-RO 28. では、世界平和のために、青少年へ国際文通を求め、残りの5ページは、外国人に珍らしがられそうな写真をならべてグラフ雑誌風になっています。和歌山城の桜、水軒海水浴場、女学生の描いた日本画、小学生の絵や教室風景、女性のキモノ姿など。そして、6ページには、小笠原氏、児玉氏と日曜学校の生徒10名の写真と文通希望。欄外に： LERNU UNU LINGVON FACILAN KROM VIA PROPRA, ANSTATAŬ PROVI KELKAJN MALFACILAJN.

Paco de la mondo naskiĝos en la manoj de geknaboj.... Nia devizo.
(つづく)



Printempo en Japanujo

昭和10年ごろの和歌山城岡口門ふきの桜 ("La Suno" N-RO 28 より)

スイスのおじさん

殿井 梅子

スイス・ベルンに住むジャン・ルーファールさん、58才（1978年）の、第1回のお手紙は、1978年12月19日発、第2回は早速翌年の1月16日発とかなり急テンポでした。

この日（1月16日）、ベルンのお天気は快晴ですが、気温は零下15度。私がエスペラントを始めて3ヶ月なのに、上手に書けていて、よくわかるとおほめをいただきました。

ルーファールさんの手紙はタイプ打ちなので私には読みやすく、大変たすかります。時々妙な単語が出てきて、首をかしげます。

mi estas edzigata oficisto

ルーファールさんにしては、何げないことかも知れませんが、日本の男性なら多分こうは書かないでしょうね。日本の文字のことを少し書いてあげたら、それを japana lecono (leciono) とずっと続けて書かれるし、desegniがdesigniとなります。多分仏独伊英語と勉強されているので、混同してくるのでしょうか。不思議といおうか、おもしろいといおうか、彼は、文頭にも、固有名詞にも、大文字を全然使わないのです。すべて小文字ばかり。文頭が小文字なので、はじめはちょうどまごつきましたが、馴れると案外不便を感じなくなっていました。

——日本の女性がエスペラントを習うのは大変でしょうね。単語は一々覚えなくてはならないし、文法は日本語のとまるきり違うし——と同情してくれましたが、私はまた、彼のちょっとした間違いのエスペラントを見て、すっかり自信がついてしまいました。

ヨーロッパの人たちにとっても、語学の勉強はずい分大変なようで、1979年4月4日発のお手紙には、ベルンやスイス全体の複雑なことばの勉強について書いてくれました。

——今日は、スイスで使われていることばについて、少し書いてみたいと思います。

ベルンではベルン語が話されています。これはドイツ語の方言ですが、本物のドイツ語とはかなり違ってきます。文法も変わっていますし、単語もたくさん変わっています。たとえば、バターは、ドイツ語では“butter”ですが、ベルン語では“anke”。ベルン語には、英語の“to do”にあたる helpverboの“tun”が使われますが、ドイツ語にはありません。

スイスの言葉を語るには、必ず2つのグループに分けねばなりません。すなわち、『書きことば』と『話しことば』。そう、スイスでは

書きことばは、そのまま話さないのです！

スイスの書きことばは、ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語（これには sursilvana と ladina と2グループがあります）、それにラテン語（これは、切手やコインの文字、それに州立の建物の表示に使われています）。——

「うっそお！」とびっくりされるかも知れませんが、ほんとうにルーファールさんは、そう書かれています。私の翻訳が間違っているといけませんので、以下原文をそのまま御紹介します。

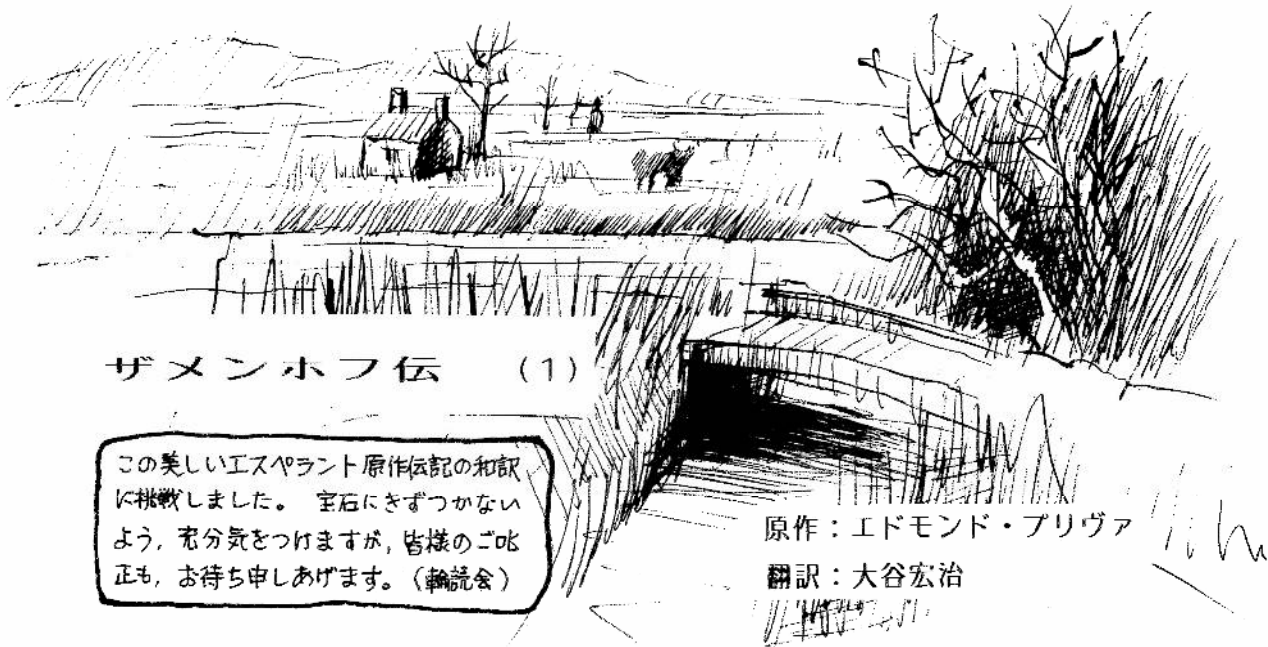
en la germanlingva parto de svislando, oni parolas ĉirkaŭ 20 diversajn dialektojn kaj en la itallingva parto de svislando, oni ankaŭ parolas kelkajn italingvajn dialektojn. la franca, la sursilvana kaj la ladina lingvoj estas parolataj same ol ili estas skribataj. nature, la ladina kaj la latina lingvoj estas du malsamaj lingvoj !

en bern ekzemple, en la infanaj ĝardenoj kaj dum la 2 unuaj jaroj de la elementaj lernejoj, oni parolas la bernan lingvon. la germana lingvo estas parolata en la lernejo nur ek de la 3a jaro de la elementa lernejo. sed hejme, la infanoj parolas berne.

kiam unu bernano parolas al unu alia bernano, ili utiligas la bernan lingvon. sed se la samaj bernanoj skribas unu al la alia, ili utiligas la germanan lingvon. ĉu vi komprenas kiel la sistemo funkcias ?

sed, se eksterlandanoj venas en la svisaj urboj, ili tre bone povas paroli la germanan, la francan kaj en multaj magazenoj ankaŭ la italan kaj la anglan lingvojn, ili ankaŭ ricevis respondon en tiuj ĉi lingvoj.

en svislando estas 5 bakalaŭr-ekzamenoj, a, b, c, d, kaj e. por la tipoj a, b, kaj c, oni lernas la germanan, francan, italan, anglan kaj latinan lingvojn. por la religia studo, ankaŭ la grekan kaj la hebrean lingvojn.



ザメンホフ伝 (1)

この美しいエスペラント原作伝記の和訳に挑戦しました。室石にきずつかないよう、充分気をつけますが、皆様のご叱正も、お待ち申し上げます。(翻訳会)

原作：エドモンド・ブリヴァ

翻訳：大谷宏治

第1章 リトワニアの地に住む諸民族

東欧と西欧の中間に、ミツケヴィッチが『タデオ氏』で歌ったリトワニアの国がある。

リトワニア！ 我が祖国よ！
民、汝が大いなる真価を知り初むるは、
健やかさに似て、汝を失いし時なり。
我、故郷を遙かに望み、
汝が麗しさを賞え、想いを綴る……
瑠璃色のニエーメンの流れに沿って、
懐かしき森や丘、緑の草原は広がる……

その麗しい土地に、既に何千年も前からアリア民族の中でも最も古い一族が住んでいた。北部では、今でもまだサンスクリットに似た古代リトワニア語が話されている。純粋な風俗や民謡には、何かしら古代インドを彷彿させるような神秘的な雰囲気漂っている。

その穏やかな民族は、13世紀までは、キリスト教に触れることなく、平和に暮してきた。

外界とは沼地や密林で遮断されていた。それまで野牛が徘徊し、人々は神々の住む巨大な樾の木の下で自然の力を崇め続けてきた。

しかし、その地で西の意志と東の忍耐が戦いを始めた。その土地を、中世にチュートン民族の騎士達が征服し、またある時ポーランドの貴族達が併合し、その後ロシア皇帝が攻めた。一方、迫害されたユダヤ人達が国王の誘いを受けて手工業や商売を始めようと世界中からそくそくとやって来た。こうして、その古い異民族はその土地に新たなパレスチナ(聖地)を見出し、都市を建設した。そして町は彼らユダヤ人で満ち溢れた。

その異民族は産業や商取引だけでなく、自分達の言葉であるイーディッシュ語や独自の信仰と安息日、それに独特の衣服も持ち込んだ。ユダヤ人達は、いつも迫害されているので、外では先祖代々臆病で、萎縮していたが、内ではモーゼから受け継いできた言い伝えに対する誇り高い忠誠心を抱いていた。

あなたがた、真実を知る者達よ、
私の教えを心に留めている者達よ、
私の言うことに耳を傾けよ。
人々の誹りを恐れてはならない、
罵りに戦ってはならない。
目覚めよ、目覚めよ、力を身につけよ、

ああ、主の御腕よ、
立ち上がり、古のごとく。
驕れる者を切り殺したのはあなたでは
なかったのか。
海を干上らせたのはあなたでは
なかったのか。(イザヤ書51章7,9,10)

【タイトルバック 辻千早さん】

SERIOZE

❖先月号、編集子のくどくどした愚痴を、暖くご理解
いただいたて、早速ご寄付や、会費払い込みいた
だきました。略敬納ながら、厚く御礼申し上げます。

【寄付】 5,000円 江川治邦,
7,500円 南 幸夫
400円切手50枚 牛島美穂子

【会費】 2,500円, 上中章子, 西原栄佳子,
山田素子, 山野 晴美
山本典子, 南 幸夫

これで、本年度VERDA MONTETO 発行6回分
の資金調えました。

❖ 本月号大へんおくれました。「さては、いよいよ」
と思われた方も? しかしVERDA MONTETOは健在で
した。先月号2月発刊のところ、7月12号早手まわし、
そして隔月刊4月号の本号、4月末にと、まる3か
月のご無沙汰。ご心配下さった方におわび申しあげ

ます。会費まだの方、どうか今からでも安心して
お払い込みを。

❖ 固い記事は、読みやすくするため、少し行間
をあけてみました。

❖ ラム・フミコさん、北アイルランドからわざわざ
記事をお寄せいただけていますが、次号に、
まわらせていただきました。「ザメンホフ伝」は
毎週土曜日の例会の、輪読解説を、大谷宏治さん
に、ガッチリまとめていただきました。

❖ 会合のようす

【例会】 毎週土曜日午後2:00~4:00 泉職工会館

【講座】 毎週木曜日午前10:00~12:00 聖愛幼稚園

1985年4月27日

(7-70) 榎本博次, (6-12) 松下幸代, 辻千早
(6-11) 前田米美

〒640 和歌山市 小萩原6丁目1-6
TEL. (0734) 22-8660

(スイスのおいさん フツギ)

vojn. por la tipo d, estas ankaŭ
la hispana lingvo devigata kaj por la
tipo e, ankaŭ la rusa.

la svisaj radio-dissendiloj dis-
sendas en la germana, franca, itala,
romanĉa, angia, hispana, portugala,
araba, esperanta, serba-kroata, turka
kaj greka lingvoj; eĉ en la tibeta
lingvo, sed nur unu aŭ dufoje monate.

mi deziras al vi ĝojan pasko-
feston!

mi esperas ke vi kaj familio
bonfartas kaj atendante viajn novaĵojn,
mi salutas vin elkore.

via

さて、この手紙の前、1月の彼のこの航空書
簡発送の翌日の日付で、おもしろい趣向の別の
手紙が届きました。ベルンの絵ハガキ1枚につ
けた手紙は、 hodiaŭ, en via spirita
akompanado, mi volas iomete promeni
en la urbo bern. 同じ絵ハガキの説明
でも、こう書かれると、ちょっと楽しくなりま
す。こんな手紙がずっと続いて、1982年ま
で、スイスのあちらこちら案内してもらいま
した。時にはヘリコプターにまで乗せてくださ
るのです。

そのご紹介は次号で。

Granda Botelo da "Coca-Cola"



la 8an de Aŭgusto, 1975

Matene frue mi kaj Inamura ekiris de la Y.H. en Frankfurt por ŝipveturi sur rivero Rejno. Sed ĉe la bushaltejo mi rimarkis ke mi forgesse lasis mian Eurail Pass ĉe la Y.H. Ni reiris al la Y.H. Tiel ni maltrafis nian fruan ŝipon.

Post la matenmanĝo ni denove ekveturis buse al la stacio Frankfurt. Tie ni aĉetis unu litron da kokakolaon por kunporti. La grandeco de la botelo surprizis min, ĉar tiam en Japanio, oni ne vendis tian

Hasegaŭa-Joŝifumi

grandan kokakolaon.

Je 10:15, ni ekveturis per la plezurŝipo, ek de Mainz. Ni rigardis similajn kastelojn daŭre laŭ la rivero. Ni parolis kun angla familio. Ni fotin nin apud la fama Loreley-Roko. Tie ni aŭdis muzikon de Loreley.

Mi kaj Inamura tagmanĝis en la ŝipo per panoj, kiujn Inamura elportis de la Y.H. Temas pri ke li prenis du fojojn da matenmanĝoj en la Y.H., ĉar la laboristino forgesis preni de li manĝobilon en la UNUA fojo kaj la manĝobileto FUNKCIIIS dufoje, do la duan manĝon li portis en la ŝipon!

Ĉe St.Goar, ni elŝipiĝis. La ŝipveturado estis interesa por ni.

Ni direktiĝis al la stacidomo St.Goar, sed ni veturis erare per la trajno, ne al Frankfurt. Tial ni rapide forlasis la trajnon ĉe iu stacio malgranda kaj denove ni veturis de tie al Frankfurt.

Ni atingis Y.H.-n je 18:00. Tie ni refoje vidis japanajn studentojn, kun kiuj ni promenis en Hamburgo, la pasintan vesperon.

(daŭrigota)

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA-Yonemi (du-monata) N-ro 29

LERNEME

Kio ili estas? Ili estas poŝtmarkoj.

Kiaj poŝtmarkoj ili estas?

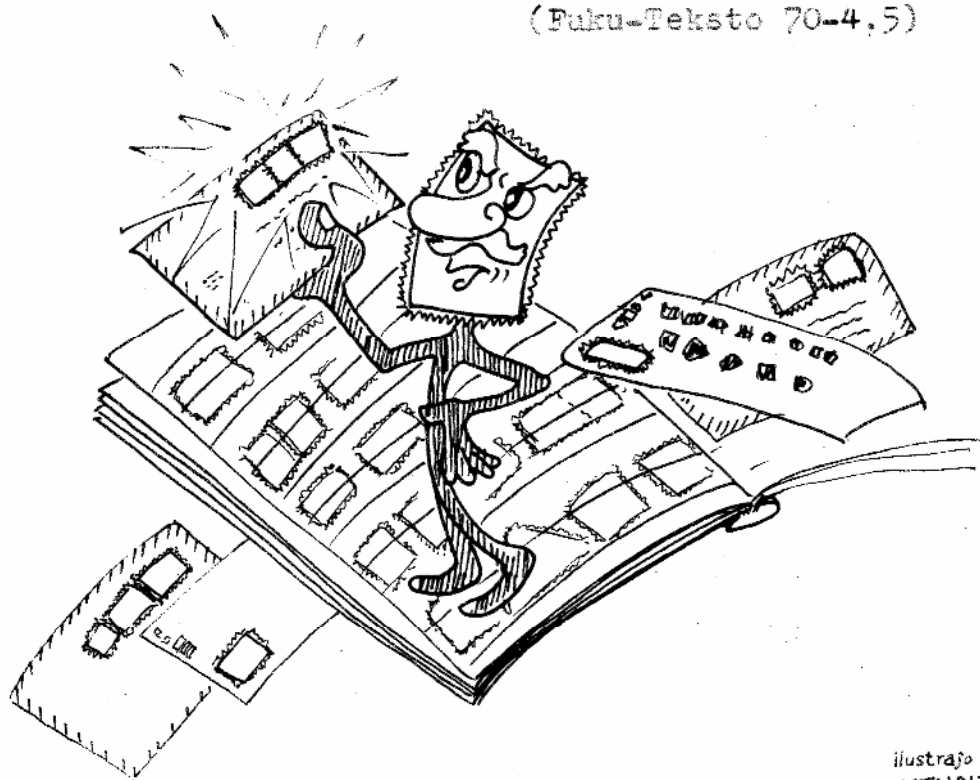
Ili estas belaj poŝtmarkoj.

Ĉu la belaj poŝtmarkoj estas enlandaj?

Ne, ili ne estas enlandaj

sed alilandaj.

(Faku-Teksto 70-4,5)



ilustrajo
MATUSITA-T

緑丘漫筆 (5)

前田米美

“La Suno” 第3号は、昭和11年（1936年）2月刊、8ページ建。その1～2ページに、LA GENERALA STATO DE LA MONDOと題して、小笠原氏は次のように当時の世界観を述べておられます。

「すべての人は世界の平和を望み、戦争の勃発をおそれている。けれども、兵器製造業者は心から戦争勃発を望み、あらゆる手段で戦争をアジることを忘れない。いつかは彼等に天罰が下るであろう。

世界の情勢は今や、戦争勃発は時間の問題となった。ヒトラーは前大戦で手足をもがれ、その後のドイツを建て直そうという国民の願いを受けて立ちあがった。フランスとの衝突は避けられない。ハンガリーは失地回復をねらい、ここにも紛争の種がある。イタリアとエチオピアの紛争では、イタリアは得るところがなからう。フランスとイギリスの外交は、自国の利益ばかりめざす古い型の外交で、色々な権謀、かけひきをもてあそんでいる。



イギリスの外交は抜目はないが、フランスはドイツをおさえつけることに狂奔している。

イギリスとフランスの政治家は、もっと忍耐と決断をもって、世界の情勢をよく見てほしい。世代は変わり、あなた方の古い外交は通用しなくなっている。ヨーロッパの共栄の為に、今の外交を変えるべきである。」

“La Suno” 第4号は、昭和11年（1936年）11月刊、8ページ。その巻頭 RETURNU GRANDAN MILITON の要旨は：

「国際聯盟は、イタリア・エチオピア紛争の解決に失敗した。世界に平和を約束し、侵略を抑制するという夢はどうなった。今や名のみ事務所にすぎない。ドイツとソビエトの関係は険悪。スペインの内乱で、罪のない人がたくさん殺されている。際限のない軍拡競争は、遂には世界を大戦に導き、国民は傷つき疲れ、若者は死に、経済は破綻する。すべてを失ってからやっと戦争は終わるのだろうか。

我々は全力を尽くして、こんな大戦を阻止せねばならない。」

なんだか、今の世界にも通じそうな。

P. 3に、“La Suno” nun iras al la jenaĵ landoj. として、41カ国が挙げられています。第1号では21カ国でした。

P. 8最終ページに、夏の講習会の集合写真があります。前列左から、松田さん（たしか“La Suno”翻訳の仕事をなさっていた？）小笠原謙三さん、小笠原善至夫さん、花光さん、岸さん。中列左から、前田、堰本（せきもと）正さん、小西治男さん、高木さん、井上さん、小堀さん、鈴木ていさん、そして背の高い児玉さん。後列左から西風さん、出津野さん、松下正行さん、吉田信隆さん、山崎金次郎さん。

“La Suno” 第5号は、昭和12年7月刊、8ページ建。巻頭、“Hitler! Vi ne intencu militon!”（ヒトラーよ、戦争を企てるな!）

「欧州大戦前、ドイツは経済的にも工業的にも繁栄し、軍備も完ぺきだった。真に世界最強国、世界戦争が起ったら必ず勝つだろうと思われた。しかしドイツは、イギリスと日本の出方を見誤り、戦争に負けた。

しかし、ドイツ人は今でも、世界で最も優れた民族であると信じ、次に戦争があったら、必ず勝つと思っている。

ドイツ人のみか、世界の大多数がドイツの勝利を信じていたのに、敗北を喫した。だからヒトラーよ、今の自国の繁栄を高く見誤ってはいけない。そして次の戦争をいたずらにそそのかしてはいけない。

真の平和は、決して戦争からは生れない。前の大戦の例でもよくわかるが、戦争は更に次の戦争の種をまく以外、何^物も得られない。

戦争でなく、誠意と正義による外交によって、成果をかちとるべきである。ヒトラーがもしそうすれば、私は、世界の国民がそれを支持し、彼と手を握ってほしいと思う。彼の行動は少し狂暴だが、決して狂人ではなく、熱心な愛国者なのだ。

Mi kredas, ke la mondo devas esplori grandanime liajn agojn. Ĉe ĉi fino mi ripetas.

“Hitler! Vi ne intencu militon!”
Vera paco neniel produktigas per milito.」

ところが、この年の11月、日独伊防共協定が結ばれ、日独は友好関係にはいりました。

(つづく)

BELETREME

北アイルランドから、短歌と
そのエス訳のたより

短歌と共の イギリス生活(1)

フミコ・ラム

北アイルランドに住み3年近くになります。初めの1年はホームシックにかかったりして大変でしたが、昨年主人と共に、半年近くも和歌山に里帰り出来たことも有りまして、今ではすっかりこちらの生活に馴染んでおります。嫁ぎ来て作り始めました短歌も、異国での寂しさ紛わすのに大いに役に立ったようです。「木の花」誌に載りました私の拙い短歌の中から主人が選び、エスペラント訳致しましたのを順を追って紹介致します。今回は第1回作品です。

あかあかと燃ゆる暖炉の傍に
翻訳に打ち込む夫を見てをり
(57.11)

Apud fajro brule brila
Rigardadas mi klopodon
De' la edz' l'odon
Per traduko pli bonstila

これは少し字余りですが、締切の迫りました英語から日本語への翻訳の仕事を、主人は10日間徹夜して仕上げました。いったん仕事に集中致しますと、他の物事は一切目に入らなくなりますので、私は暖炉の火を絶やさないようにしたり、夜食を作ったり致しました。

嫁ぎ来て植えしスノードロップの白き花
寒風に絶え今朝咲き出づる
(57.12)

Foje de la edziniĝo plantis mi
Bulbon de la neĝgalanto.
Spite de la frosta vento
Ĉi-monate ja ekfloris blanke ĝi.

結婚当時住んでおりましたのはテラスハウスといまして、150年程前に建てられました3階建ての長屋でした。庭がなかったものですから、昼間の一人の寂しさを紛らす為にと、家の中には鉢植え、外ではウィンドウボックスで花や野菜を育てました。9月に入りますと海よりの強い風と寒さの為に育たなくなってしまいます。スノードロップの小さな白い花が咲いた時は、嬉しかったものです。



KORESPONDEME

こいっしょに スイスのまち
ベルン を散歩しませんか。

スイスのおじさん

殿井 梅子

---1979年1月17日。朝、気温は零下8度。空は少し曇って、ベルンのまちには、雪が約7センチ。今年のスイスのカレンダーを別便で送ります。---

---今日、夢であなたをお連れして(en via spirita akompanado)、少しスイスのまちを散歩したいと思います。(訳註:夢ですから、寒いところか、絵ハガキでは、ぼかぼか

暖かそうな日ざし。普通の観光案内書やバスガイドは、ぬかりなく、くわしく、正確ですが、何となく味気ないのに比べて、ルーファーさんの案内は、簡単ですが生き生きして楽しく思っています。説明は、上の段を左から右へ。次に下の段を左から右へ。）

——まずスピタルガッセという大通り。通りの名前は“病院通り”という意味。向うのつきあたりは、刑務所の塔で、käfturmと申します。両側の歩道は家の中。というのは、雨や雪が降っても、買物客はゆっくりショーウィンドウを眺めて楽しめるということ。上段まん中は、スイス連邦局のテラスで、向うによく見えているのは、歴史博物館。そのはるか向う、お天気のよい日に、ここから見える山々は、eiger こどもを食べる大男、mönch 修道士、それに jungfrau 処女。この山々は、ベルンから約100kmのかなたです。上段

右はし、私たちは、kirchenfeld 教会堂広場の橋まで歩いて来ました。この橋の上からは、スイス連邦局の、大小3つの丸屋根がよく見えるのです。ここにスイス政府があります。

——左下同じ橋の上から東の方を見ると、このカテドラル（プロテスタント）と、aare 川が望見できます。そこから少し歩いて、熊穴にまいります。2頭の子熊が今ミルクを飲んでます。最後に来たのは、kramgasse、即ち“商店街”。有名な人形の出てくる時計塔と、旗手の噴水を見物いたします。——

——では、ここでお別れ。この次にまたこのあたりであなたを探し出して、この遠足を続けたいと思います。——

——あなたとご家族皆様のご健康をお祈りしつつ、お便りをお待ちします。——

ルーファー （つづく）



"VIVO DE ZAMENHOF" EDMOND PRIVAT

La kopirajto de la originalo,
La Esperanta eldono apartenas al:
THE ESPERANTO PUBLISHING CO.LTD.
9 Maycock Place, ORELIA(W.A.) 6167, AŬSTRALIO.



ザメンホフ伝 (2)

原作：エドモンド・プリヴァ

翻訳：大谷宏治 怒り：辻千早

18世紀の末にリトワニア・ポーランド共和国が崩壊したが、それよりだいぶ前からリトワニア人の貴族のほとんどが祖先の言葉を捨てていて、心も言葉もポーランド人になっていた。農民たちはまだ、北部ではリトワニア語を、南部では白ルテアニア語を使い続けていた。ポーランド語が話されているのは、お城やカトリック教会やビルノの上級学校、それに上流家庭であった。街々では、ドイツ人でさえ自分たちの居留地や居住地区を持っていた。しかし商店街では、主にユダヤ語が話されていた。この雑多な人種集団を19世紀中ずっとロシア帝国の熊の手が押えつけていた。どの町にもあらゆる階級のロシア人兵士や士官や役人が群れをなしていた。宮殿にはロシア人の知事が駐在していた。中央広場にはロシア教会の金色の塔が眩い光を放っていた。

二度にわたり、ポーランド人とリトワニア人は外国の支配を力尽くで払いのけようとした。1831年と1863年には英雄的な反乱者たちが血の嘆願をして世界中で話題になった。その度に征服者はますます残虐な報復を繰り返し、この国を抑えつけた。学校ではロシア語が強制されていた。

ピアリストック市に住んでいたザメンホフが6歳の頃は、第二回目の反乱がちょうど治まったばかりで、至る所に血と涙と憎しみの傷跡を残していた。人々の怒りをそらす為に、ロシア政府は諸民族を互いに反目させようと画策した。「分割統治」という方法が採られた。どの民族も既に他民族とはかなり異った日常生活を送っていたので、そのように民族感情を煽るのはいとも簡単であった。政府はまた経済的条件を利用して民族の対立を一層激化させた。

巧妙な法律を作つて村人を農奴から解放したが、同時に自分の土地を持ってないようにもしていた。従つて彼らは自らの労働で地代を払わなければならない、金持ちの地主に大変な妬みを抱いて苦しんだ。ポーランド人は自作農なのに、リトワニア人や白ロシア人は小作人のままで残されたので、争いが起る度に、民族の対立感情がますます険悪さを増していった。

その後この地に、リトワニア人の民族運動が復興し、情熱的な文学や愛国主義が花開いた。やがてその運動は、疑いや妬みの原因（もと）となりロシア人が迫害し、ポーランド人からは嫌われることになった。ユダヤ人に対してとつた皇帝の政策はもっと酷たらしく、狡賢いものであった。あらゆる法律や規則を作つて、ユダヤ人をロシア各地から西に追放したが、それはポーランドに放り込んで抵抗を弱めるのが狙いであつた。鞭で追われた羊の群れのように、何千人もの不幸なユダヤ人が毎年ポーランドに住みついていった。彼等はロシア語で教育を受けているので、ポーランドの習慣や言葉には不慣れであつた。生来利に聡く、飢え死にしまいともがいていたが、ポーランド社会からはまるで対ロシア防衛への大変な邪魔者のように見られ、何かにつけ忌み嫌われていた。

被抑圧民族というものは、絶え間無い苦難に晒されるので、まるで天啓のように、思想への非常に強い憧れを抱くものである。リトワニア・ポーランドの詩人ミツケヴィッチは、ロシア政府によりビルノから追放の憂目に遭つたが、世界の諸民族を救う為にヨーロッパ全土に、「自国民を守ろう」というすばらしい呼掛けをした。彼は秘教信者トヴィアンスキーと不思議な巡り会いをするが、それまでにもうかなりポーランド人にメシア待望の思想を広めていた。

キリストが人間の罪の為に十字架にかけられたように、ポーランドも引き裂かれて諸国家の過ちを償つたのである。しかし、それはまたポーランドにとってみれば新しく生れ変わるうとする時であり、それによつて地上に平和がみなざり始めることになるだろう。

キリスト、その墓をまさに打ち破りし如く、
ポーランド、またよみがえらん
民を救い、義を守り続ける
盟約を結ばんと。 *

* 『ポーランド巡礼者の書』より。
アダモ・ミツキエヴッチ作、民族詩人、
1855年没。

リトワニアに住むポーランド人たちは、そんな希望で心がなごんでいた。一方、離れ離れに住んでいるユダヤ人たちもメシア待望の思いを感じていた。外の世界から軽蔑され、反撃をうけ、苦痛ばかり感じている者は、自分の世界の中に何らかの精神的喜びを求め、独自の内面世界を作り出すものである。（つづく）

VOJAGEME [異境に宿をさぐす...]

Serĉi tranoktejon...

Ĉu malfacile?

HASEGAŬA-JOŜIFUMI

Post la matenmanĝo en la
Y.H., mi kaj Inamura for-
iris de ĝi. Li planas vizi-
ti Munĥenon. Mi ankoraŭ
ne decidis, kien mi iros.
Aĉetinte unu litron da
trinkaĵo, panon kaj pomojn,
ni veturis per trajno al
Munĥeno.

En la vagono mi legis



ライン下りのなかまたち、ことばは通じなくとも何とかなる…若さ!

Ni atingis la 2:30 sed bedaŭrinde tiu Y.H. malfermos je 5:00. Tial ni decidis trovi alian pensionon.

Ni vizitis unu malgrandan pensionon, sed ĝi estis fermata pro la somera libertempo.

Ni decidis tranokti ĉe alia pensio, esplorante tion per hotellisto, kiun ni ricevis ĉe la stacidomo.

Kiam ni paŝis sur strato, unu aŭto haltis apud ni, kaj li demandis al ni kion ni serĉas.

Li veturigis nin apud la alian pensionon. Ni estis tre ĝojaj, ni donis al li belan memorpoŝtomarkon.

En tiu pensio, Gasthaus Maiselbraüstübl, ni povis tranokti en ĉambro dupersona, sed ni ne povis matenmanĝi pro la somera libertempo.

Poste ni promenis sur la strato, sed la homoj estis tre malmultaj. Eble pro sabato.

Ni vespermanĝis ĉe iu restoracio. Tie ni vidis menuon, sed ni ne povis bone kompreni. Ni mendis terpomon, kolbason kaj kolaon.

(daŭrigota)

Dankojn por afablaj mondonacoj

- 4/23 江川 治邦氏より 図書購入リポートとして ¥ 600.
- 5/ 4 高橋千恵子氏より ¥5,000.

lian gvidlibron pri Germanio kaj mi deziris viziti malgrandan urbon. Mi trovis urbon Bamberg apud Munĥeno en Babaria. Ankaŭ li deziris iri tien.

Ĉe la stacio Würzburg ni ŝanĝis la vagonaron. Ni atendis iom da tempo ĉe tiu stacio. Antaŭ la stacidomo, ni alparolis al germanaj fraŭlinoj. Sed ili ne povis bone kompreni anglan lingvon. Tial ni ne povis longe paroli kun ili.

Nu, ĉe la stacidomo Bamberg, ni demandis al stacidomicisto la adreson de Y.H. Li respondis al ni bonkore. Tiam unu germano venis al ni kaj deziris manpremi kun ni. Li sciis ke ni estas japanoj, rimarkinte la etiketon de japana frago sur mia valizo.

Ni staris antaŭ la haltejo busa al la Y.H. Kaj denove alia germano alparolis al ni, kaj sciigis la lokon de la Y.H., malgraŭ ni ne demandis lin. (Ni jam sciis la lokon.)

ことし 7月 21日~24日、ハツホーから若いIZAOクラブとToto JAOSさん、和歌山市三善の辻千早さんを訪ねて来られます。ガートルさんの紹介で。

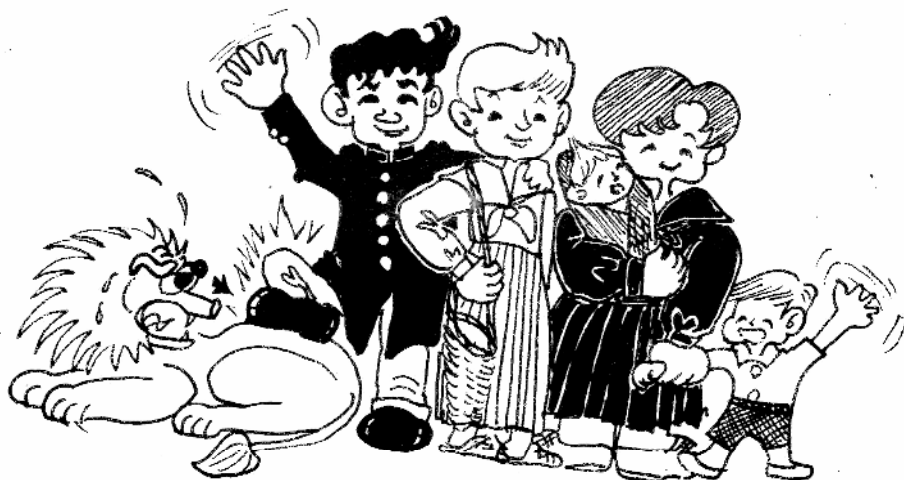
VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA-Yonemi (du-monata) N-ro 30

LERNEME

- | | |
|--------------------|---|
| 1. Kia estas li? | 1. Li estas kuraĝa.
Li estas kuraĝa viro. |
| 2. Kia ŝi estas? | 2. Ŝi estas moderna.
Ŝi estas moderna virino. |
| 3. Kia estas li? | 3. Li estas simpatia.
Li estas simpatia junulo. |
| 4. Kia estas ŝi? | 4. Ŝi estas feliĉa.
Ŝi estas feliĉa patrino. |
| 5. Kiaj estas ili? | 5. Ili estas gajaj.
Ili estas gajaj gestudentoj. |

(El Fuku-Teksto 63)



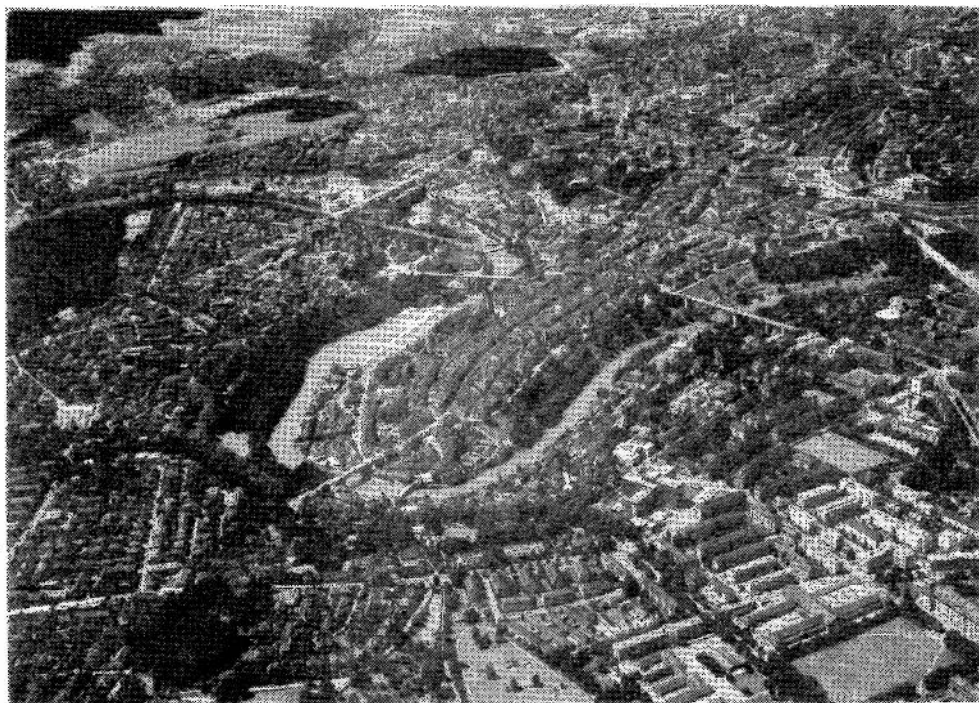
Ilustraĵo
MATUSITA-T

KORESPONDEME

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
X
X 夢のスイス散歩は
X
X ヘリコプターで
X
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

スイスのおじさん

殿井 梅子



――1979年4月5日。今朝の気温はちょうど0度、空は少し曇って、平地の雪はほとんど消えました。3月19日の航空便ありがとう。あなたのエスプラントはよくわかります。日本語のレッスンもありがとう。この数日、ベルンでは、国際カーリング（curling）

：氷上に大きい円盤石をすべらす競技）が開かれていました。――

――今日、あなたとの夢のお散歩は、ヘリコプターに乗りましょう。ベルンの空港 belpmoosまで歩いて、そこでヘリコプターに乗ってベルンの上空を飛びます。ベルンの

古い街区が aare 川のぐっと迂回した内側に
よく見えます。---

(ぐっと迂回したと訳しましたが、原文では
buklo、カールした巻き毛の一巻き。面白い
い方で感心しました。絵ハガキで見ても、
全くその通りです。)

---橋がよく見えます。手前のが nydegg
と untertor 橋。左の方の大きな橋が、この前
の散歩でまわりを眺めた kirchenfeld 教会堂広
場の橋で、右の方が kornhaus 橋です。---

---ではここで、私はパラシュートにのっ
てお別れ。またこんど、この辺であなたを探
し出して、この遠足を続けたいと思います。-

(パラシュートとは、私がさんざん考えぬい
て、やっとどうやら、これらしいと思った訳で
す。原文では falŝirmilo! 私の訳、当っ
ているのでしょうか。エスペラントには、
paraŝuto という単語があるのに。若しそう
だとしたら、エスペラントはずい分柔軟な、お
もしろい言葉ですね。原文はこうなっていま
す。)

--- do, mi forlasas vin kun mia
falŝirmilo kaj mi venos serĉi vin en
tiu regiono la venonta fojo por daŭ-
rigi nian ekskurson. ---

ルーファー (つづく)

VOJĜEME

[旅費を安くあげる]

Por Vivi Malmultekoste

HASEGAŬA-JOŜIFUMI

la 10an de Aŭgusto, 1975

En pensiono Maiselbraŭstŭbl,
ni povis dormi komforte. (en
Y.H. ne tiel). Sed ni ne po-
vis sufiĉe turismi en Bamberg.
Post matenmanĝo ĉe stacidomo
de Bamberg, unue ni veturis
Nurnberg. De tiu stacio,
Inamura veturis al Munĥeno,
ĉar li ŝatas trinki bieron.
Mi decidis veturi al Amster-
damo. Oni diras ke en tiu
urbo oni povas vivi malmulte-
koste.

Mi elektis noktan vagonaron
al Brussel kaj mi dormos en
la vagono. Mi veturis per
la unuaklasa vagono. (Se
oni havas Eurail Pass, oni
povas veturi en la unuaklasa)
Sed en mia vagono, homoj
estis multaj. Mi ne povis
kuŝi. Mi ne povis bone dormi.
Sed nokte la homoj fariĝis
malmultaj. Mi dormis kuŝa-
nte sur sidloko. Estis iom
malvarme.

la llan de aŭgusto, 1975

Matene mia trajno atingis Brussel en Belgio, kaj mi transvagoniĝis sur trajnon al Amsterdamo.

Mi atingis Amsterdamon je 11:30. Hodiaŭ mi ne povis havi tempon matenmanĝi kaj mi estis dormema pro ne-uzo de litvagono.

Post atingo de Amsterdamo, unue mi ŝanĝis monon ĉe la banko en la stacidomo.

Tie estis tre multaj eksterlandaj junuloj. Ĉiuj lukstoj de la stacidomo estas jam uzitaj. Mi devas atendi longe por deponi mian pezan valizon.

Tial mi vizitis informan oficejon por trovi hotelon antaŭ la stacidomo, portante la valizon, sed mi ne povis trovi malmultekostan hotelon. Mi rezignis trovi hotelon ĉe la informejo. Mi telefonis al S-ro Bakker, tiurba esperantista delegito, per la jarlibro de UEA, por peti trovon de hotelo moderpreza. Bedaŭrinde li ne estis hejme, sed lia edzino parolis esperante kun mi.

Laŭ ŝi, hodiaŭ tage li turisme gvidas 7 meksikajn geesperantistojn. Tial ni decidis, ke mi vidos ilin antaŭ iu turisma oficejo apud placo Dam.

Mi trovis esperante skribitan panelon ĉe telefonejo. Tio surprizis min. La klarigo estas skribita en la

nederlanda, angla, germana, franca kaj esperanta.

Nu, mi vidis ilin tie. Ili estis junaj meksikanoj, 3 viroj kaj 4 virinoj. Kaj unu estas nederlanda maljuna delegito Bakker. Ni vizitis malnovan preĝejon kaj muzeon. Ni vespermanĝis kune en restoracio kaj S-ro Bakker revenis al sia hejmo.

Mi kaj unu meksikanino kuniris al ŝia hotelo por tranokti tie. Ĝi estis malproksima de la restoracio. Survoje ni parolis esperante. Ĉe tiu hotelo mi petis la tranokton, sed ĉiuj ĉambroj estis jam plenaj bedaŭrinde.

Mi telefonis pri tio al S-ro Bakker. Tiam li prezentis al mi unu esperantiston, kiu povas tranoktigi en sia hejmo nur esperantiston. Vespere mi vizitis lin, mi devis ŝanĝi buson du foje. Li loĝas en apartamento sola.

La ĉambroj estis belaj kaj puraj. Unu el ili estis por mi.

Vespere ni promenis longe. Post la reveno al lia apartamento, ni trinkis japanan teon, kiun mi portis el Japanio. Al la teo ni invitis studenton, kiu loĝas en la supra etaĝo.

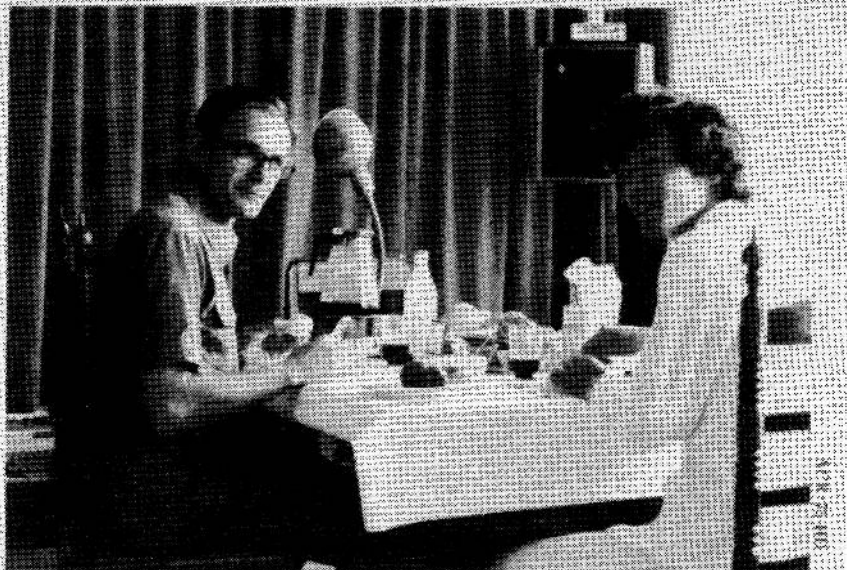
S-ro Van Dijk, la gastiganto, aŭskultigis min klasikan muzikon per disko, sed tio ne interesis min multe. Li demandis al mi, ke la muziko estas bela, ĉu ne? kaj

mi ne sciis
kiel respon-
di al li.

Li estis
katoliko. Ni
parolis lon-
gan tempon.

Mi enliti-
ĝis je 1:00
nokte.


J. JAVOS



Saluton! kaj Ĝis revido! Tóthさん!!!

7月22日 ハンガリーのエスペランティスト
Tóth JAVOSさんが 和歌山市三葛の
辻千早さんを訪ねて来られました。

さ、さ、さ、"や、こま、つり、わ、わ、わ"と
いう具合で 和歌山城へ。 そのあとは、

granda maroで泳ぎたい。どの本人の
希望で 片男波海水浴場で nagado。
調度 辻さん宅の近くの『お宮さん』では 夏祭り。
楽しめたことと思います。『こぶさいも』ともしー。
エー? 『こぶさいも』とは、一体 どういう意味じ
ろか? とお思いの方は、どうぞ 辻さんにお尋ね
下さい。..... ナドト言わずに 権明かしを、.....
実は、Tóthさん、じゃがいもが好物だという
ただそれだけの話。

翌 23日 6時 vespere 紀の国会館で
会食とお喋り。和歌山人の方は 4viroj と
5virinoj と 2 infanoj と junulino。

この aminda junulino, ナド偶然、
Tóthさんと同じ年で、お仕事も同じとか。

とても話がはずんでました。勿論、ge maljunuloj (?) (笑れ！この言葉WTF!!) gejunulojもニコヤカに楽しく話がはずみました。

当日 おいそになれなかった方々、もしくは(いたい)どんな話をしたのかと好奇心をお持ちの方々に、かいつまんでお知らせ。

絵をかかれる Tothさん、ご自分の絵をスライドにして持参されました。言語の向に、次から次と見せて頂きました。街の建物や風景、親類の方をモデルにしたものなど。

S-RO 江川の野次郎にニコニコと耳をかたむけ、お国の歌を歌って下さい、と言うと、歌はあまり上手じゃないーとのこと。

お国に恋人が居て、将来、男の子と女の子を3人位子供がほしい、という話から適齢期

ナンコトに話が移って、日本では25才くらいだ、と言うと、ハンガリーでは、女性は20才くらいだとか。

和歌山は(たぶん、東京、大阪にくらべて、ではうが)人がザワザワとしていない、というような事を言ひ、住んでいる所は、田舎で静かな所だとか。ご両親と弟さんの4人家族で、Esperanto は、その弟さん(18才)に書かれたとか。

外国の方は外見で年齢が判りにくい、というのは、どうも本当の事らしく、25才には、とても見えませんでした。が、外国の方も日本人の年齢は判断しにくいらしく、Anjo は20代に見られました。(エッ、Anjo って誰や?と言う方、写真を見て判断して下さい。)

でも、やはりTothさんは若いです。次の朝ナウーイ バックパキングのスタイルで、市駅から発たれました。



流の国会館で、右側奥から2人目がTothさん。

Lettero
No 1

実は前回のVERDA
MONTETOに載せる
はずでしたが、紙面の
都合で今回になりました。
奥村先生 pardonon!



^
Cu vi scils?
(知ってた?)

* この夏 話題になった
あの長編アニメ「銀河鉄
道の夜」の中で、あちこち
各所に「エスペラント」が使わ
れているのですよ。原画絵

本を一度見てみようかな。スオ。松下真代が持っています。どうぞ。本屋さんでも売ります。

* Radioamatoroの話題(?)ですが、最近 RONDO PACIFIKA にきやかにお喋りして
おられるようです。ぬすみ聞きをされる方は、金曜日 7:00 ~ 8:00 (8:00すぎてもまたまた)

* ち一つアマチュア無線の話。7/21 9:00 ~ 7/28 9:00まで エスペラント用 QSOパーティ がありま
した。3.5 ~ 28 MHz と 50 MHz と どちらも必死でチャネル操作してたのに JK3JGV局は、ただの
一局もキャッチできず残念!! どなたか成功しましたか?

30 / III / -85

Estimata Sijoro
Dankem per la VM nro 2d.

Pli kaj pli belegiĝas
la preso!!

Bone — la "Historio"

546

大阪府立
生野高等学校
奥村林藏

Dum unu plia jaro,
mi laboro en IKuro
kiel speciala dungito
por tempo.

Ris Okura ©

Letero to 2

ヨーロッパ(フランス・ドイツ)
を旅行中の前田先生からの
とても美しい絵葉書。



1437 - P A R I S

Notre-Dame et les Bouquinistes

Notre Dame and the Second-Hand
Booksellers

Notre-Dame und die Bouquinisten

Notre-Dame y los vendedores de Libros
de ocasión

ノートルダム寺院とセーヌ岸の古本屋

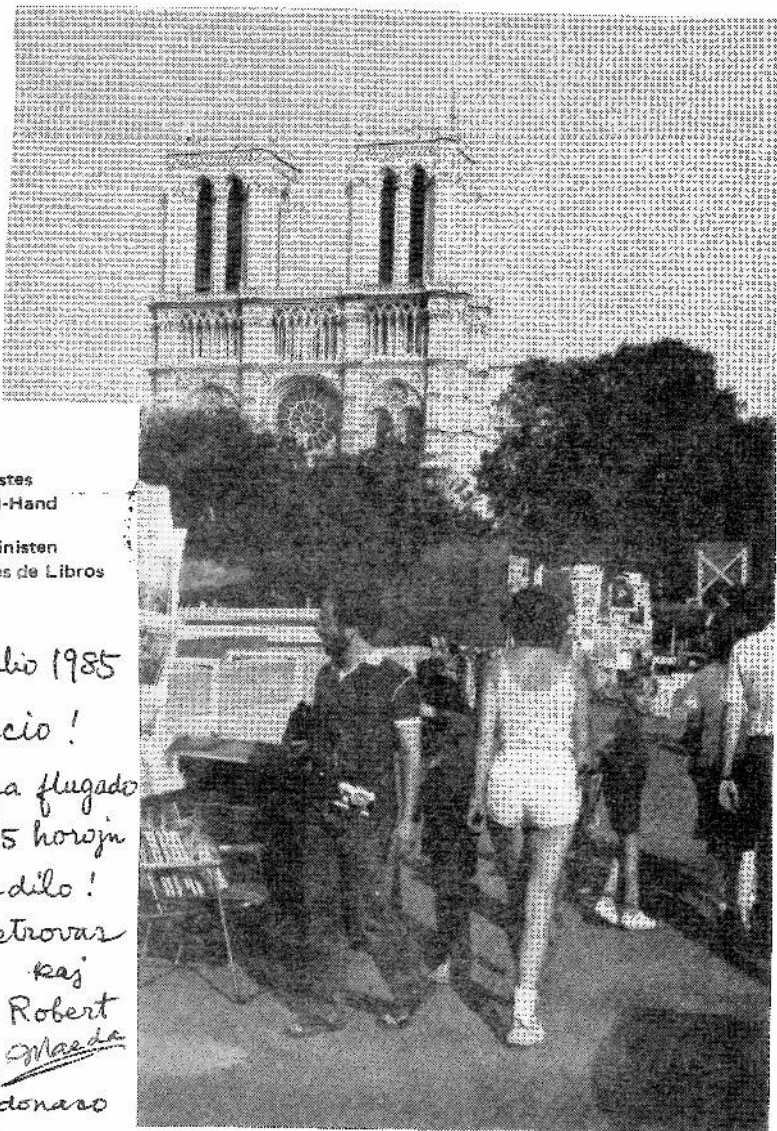
Cenon, Bordojo, 10-julio 1985

Saluton el Francio!

Estis longa longa flugado
ĝis Parizo, ĉirkaŭ 25 horojn
mi sidadis en aviadilo!

Sed nun mi retrovas
antaŭan sanstaton kaj
ripozao ĉe ges-roj Robert
Via Via y Maeda

Dankon por via afabla donaco
antaŭ mia ekvojaĝo.



宇治市の相川 節子さんから 60円切手60枚 寄附 いただきました。ありがとうございます。

1985年8月19日

編集 前田米美 640和歌山市小松原6丁目-6
ワ-700 福本博次 (TEL 0734-22-8660)
ざしえよ 松下孝代
おつたい

今回のおつたい(?)がひとと。

前田先生 コメナサイ。他の管石菓 コメナサイ。
「見ならし」も多くにしないデ、チさんじゃ、この程度
だろう。って事にして、笑てあきらめて下さい。
前田先生、ヨーロッパで心配したでしようネ、の VERDA
MONTETO が どうなるのか……と……。